平成28年度（2016）

履修の手引

奈良学園大学
NARAGAKUEN UNIVERSITY

人間教育学部

ビジネス学部（奈良産業大学）

情報学部（奈良産業大学）

平成28年度（2016）

履修の手引

奈良学園大学
NARAGAKUEN UNIVERSITY

人間教育学部

ビジネス学部（奈良産業大学）

情報学部（奈良産業大学）

建 学 の 精 神

高度な専門学術知識に裏付けられた実践力を有する有能な人材を教育・養成し、地域社会及び社会全体の発達・発展に貢献する

教　育　理　念

現実に立脚した学術の研究と教育を通じて、明日の社会を開く学識と実務能力を兼ね備えた指導的人材の育成を目指し、時代の進展に対応し得る広い視野と創造性をつちかい、誠実にして協調性のある心身ともに豊かでたくましい実践力を持った人材を養成する

教　育　目　標

人間教育学部

「社会の中で一人の人間」として生き抜く力となる豊かな「人間力」を基盤とする、柔軟な「教育力」と高度な「実践力」を備えた「教育者」(広く社会の教育活動にかかわる人材)の養成を目的とする

ビジネス学部

社会で生き抜く力・人格の養成を目指し、経済・経営・法律の３分野にまたがる幅広い知識を教授するとともに、これを社会で活用できる人材の育成を目的とする

情 報 学 部

情報化社会の進展に主体的に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする

奈良学園大学　教育の三つのポリシー

アドミッションポリシー（admission policy　入学者受入方針）
カリキュラムポリシー（curriculum policy　教育課程の編成・実施の方針）
ディプロマポリシー（diploma policy　卒業認定・学位授与に関する方針）

１．大学のポリシー

（１）アドミッションポリシー（求める学生像）

①大学教育を受けるに相応しい基礎能力や体験を備え、本学での教育を通じて社会人としての一層の成長が期待できる学生を受け入れる。
②実践を重視した演習課題に、積極的にとりくむ意欲のある学生を受け入れる。
③地域社会との交流に関心を持ち、将来、社会全体の発達・発展に貢献する事に使命感を持つ学生を受け入れる。

（２）ディプロマポリシー

本学は、所定の単位を修得し、以下のような「実践力」を身につけた学生に対して、その卒業を認定する。
①高度な学識と実務能力に基く実践力
②時代の進展に対応し得る広い視野と創造性をもつ実践力
③社会に貢献することのできる実践力

２．人間教育学部のポリシー

（１）アドミッションポリシー（入学者の受け入れ方針）

①教職への意欲や関心があり、教育を通して社会の未来に貢献する意欲のある人
②教育の専門家としての確かな力量を獲得するため積極的に学び続ける意欲のある人
③豊かな人間性や社会性、常識と教養をはじめ協調性や創造性を深める意欲がある人

（２）カリキュラムポリシー（教育内容・方法の方針）

①広く豊かな社会的常識をもち、人間的社会的に成熟した人を育てる教育
②教育に対する使命感と情熱をもち、子どもと教育的な関係を築く力をつける教育
③教育の専門家として各教科の内容及び指導法を実践的に深める教育
④個々の子どもを理解し一人一人を生かすとともに集団を指導する力を身につける教育
⑤自己教育力をもち、セルフマネジメント能力と生涯学習能力を身につける教育
⑥学校内外の人々と連携しチームとして活動できる力を身につける教育
⑦日本の伝統文化を深く理解し、国際的な感覚を身につける教育

（３）ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

①広く豊かな社会的常識をもち、人間的社会的に成熟している
②教職に対する使命感をもち、児童生徒に教育的な愛を持って接することができる

③学校現場の様々な教育課題に適切に対応し、チームとして行動することができる
④子どもの発達に応じて授業を構想し指導を工夫する教育の専門家である
⑤自己の学習を振り返り、理論と実践を結びつけた研修を継続的にできる
⑥保護者や地域の人等、学校外の人等と広く連携する力を身につけている
⑦日本の伝統文化を深く理解し、国際的な感覚を身につけている

３．ビジネス学部のポリシー

（１）アドミッションポリシー

ビジネス学部は、高等学校等において学ぶ教科、科目について、教科書レベルの基礎的な知識を備え、基本的な文章読解力、思考力、表現力を身につけ、現代社会の動きに関心があり､学部の教育目的に理解を示し賛同する者を受け入れる。

（２）アドミッションポリシー（ＡＯ入試）

高等学校等において学ぶ国語、外国語、地理歴史、公民などの教科、科目について、教科書レベルの基礎的な知識を備え、基本的な文章読解力、思考力、表現力を身につけ、現代社会の動きに関心があり、以下のような志をもっている者

①将来自分で会社を立ち上げる夢を持っている、あるいは家業（会社、商店など）を継ぐことを志す者
②公務員、警察官、消防官、ＮＰＯ等、積極的に地域にかかわることを志す者
③社会で活躍するために、資格取得を通じてレベルアップを目指す者（税理士、司法書士、行政書士、消費生活アドバイザー、販売士、秘書、ファイナンシャルプランナーなど）
④広く社会について学び、創造性豊かなビジネスパーソンを志す者

（３）カリキュラムポリシー

①豊かなマネジネント発想力とリーガルマインドを兼ね備えたビジネスパーソンの養成を目指し、カリキュラムを編成する。
②進路を具体的に想定したコース（経営、マーケティング、会計、公務員）を設定し、コース毎に、基礎科目から基幹科目そして発展科目へと段階的に学習できるように科目を構造化する。
③ビジネス関連の専門知識に裏付けられた実践力を修得できるように、初年次教育、プロジェクト演習、キャリア教育の科目を配置する。

（４）ディプロマポリシー

ビジネス学部は、以下に示すいずれかの能力を身につけた学生に対して、学士（ビジネス学）の学位を授与する。

①４つのコース（経営、マーケティング、会計、公務員）が想定している職種・業種で必要とされる知識と実践力を有し、創造的に仕事に取り組むことができる。
②資格取得を必要とする専門職に就いて社会で活躍できる。
③卒業後の様々な働き方（民間会社、自治体、ＮＰＯ等）の意義について理解を深め、社会及び地域に積極的に貢献できる。

４．情報学部のポリシー

（１）アドミッションポリシー

高等学校等において学ぶ国語、外国語、数学などの教科について基礎的な知識を備え、具体的な読解力、表現力、思考力、理解力を身につけており、以下のいずれかの志をもっている者

①コンピュータやネットワークに興味があり、情報技術をしっかり学んでＩＴの専門家になりたい者

②ゲームやＣＧ、映像、音楽などのマルチメディア関連の分野に興味があり、創造・制作の世界をめざす者

③社会のあらゆるところで使われている情報システムづくりや運用に関心があり、情報社会で活躍したい者

（２）カリキュラムポリシー

システムコースとメディアコースの2コースに分けてカリキュラムを設定し、それぞれが目標とする情報化のリーダーを目指した履修モデルを提示して履修指導を行う。

①実習・演習の科目を充実し、実践力の養成に重きを置く。

②学生が主体的に取り組むプロジェクト演習科目を設定し、開発プロセスを実体験させ、成果としての社会貢献を目指す。

（３）ディプロマポリシー

情報学部は、以下に示すいずれかの能力を身につけた学生に対して、学士（情報学）の学位を授与する。

①情報技術について、高度な学識に裏付けられた基本的で汎用性のある知識と実務能力を有する。

②豊かな人間性に基づいて他者と協調し、情報学の知識と技術を活用しながら問題解決にあたることができる。

③システムまたはメディアについての専門的な実務能力を有し、社会での情報化のリーダーとしての活躍が期待できる。

は　じ　め　に

この「履修の手引」は、学生諸君が４年間にわたって本学で学修し、授業を履修して単位を修得するうえで必要な事項をまとめた手引きです。

奈良学園大学では、学修に必要な教育科目を、数多く開設しています。学生諸君は、自分の目標や興味･関心に基づき、本学の定める一定の規則やルール（履修規程）に従って、履修する授業科目を選択し、時間割を編成してください。主体的に立案した履修計画に従って、授業を欠くことなく履修を完遂することが重要です。自己責任において計画を立て学修することは、大学教育の大きな柱の一つです。

学修においては一定の成果を修め、卒業認定に必要な単位を修得していかねばなりません。この「履修の手引」を熟読して、効果的な履修計画を立て、有意義な学習ができるよう期待しています。

平成 28 年度（2016） 学年暦及び行事予定表【人間教育学部・ビジネス学部・情報学部】

前 期

	日	月	火	水	木	金	土	行 事 予 定	
4月						1	2	**< 1 年次生 >**	
	3	4	5	6	7	8	9	3日（日）	入学式
	10	11	12	13	14	15	16	4日（月）～5日（火）	学外オリエンテーション（1泊2日）
	17	18	19	20	21	22	23	7日（木）	健康診断（午前）・履修登録（午後）
	24	25	26	27	28	29	30	11日（月）	前期授業開始
								11日（月）	教科書販売（～4/23まで）
								< 2 年次生以上 >	
								7日（木）	健康診断
									ビジネス学部・情報学部（午前）
									人間教育学部（午後）
								11日（月）	前期授業開始
								11日（月）	教科書販売（～4/23まで）
5月	1	2	3	4	5	6	7	2日（月）	全日休講
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31						
6月				1	2	3	4		
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30				
7月						1	2	18日（月）	授業実施日
	3	4	5	6	7	8	9	29日（金）	前期授業終了
	10	11	12	13	14	15	16	30日（土）～8月5日（金）	前期試験
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
	31								
8月		1	2	3	4	5	6	6日（土）～8日（月）	前期追試験手続き
	7	8	9	10	11	12	13	6日（土）～9月22日（木）	夏期休暇
	14	15	16	17	18	19	20	10日（水）	前期補習対象者リスト発表(人間教育学部対象)
	21	22	23	24	25	26	27	17日（水）～23日（火）	前期補習期間（人間教育学部対象）
	28	29	30	31				23日（火）～24日（水）	前期再試験手続き
								30日（火）～9月3日（土）	前期追・再試験
9月					1	2	3	13日（火）～16日（金）	前期面談及び成績配付期間（全学年対象）
	4	5	6	7	8	9	10	13日（火）	履修登録（1年次）
	11	12	13	14	15			14日（水）	履修登録（2年次）
								15日（木）	履修登録（3年次）、前期卒業証書・学位記授与式
								16日（金）	履修登録（4年次以上）

平成 28 年度（2016） 学年暦及び行事予定表【人間教育学部・ビジネス学部・情報学部】

後 期

	日	月	火	水	木	金	土	行 事 予 定	
9月						16	17	23 日（金）	後期授業開始
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30			
10 月							1	10 日（月）	授業実施日
	2	3	4	5	6	7	8	30 日（日）	学園祭（登美ヶ丘祭）
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
	30	31							
11 月			1	2	3	4	5	1 日（火）	創立記念日
	6	7	8	9	10	11	12	12 日（土）～ 13 日（日）	学園祭（三室祭）
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30					
12 月					1	2	3	24 日（土）	年内授業最終日
	4	5	6	7	8	9	10	26 日（月）～ 1 月 9 日（月）	冬期休暇
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
1 月	1	2	3	4	5	6	7	10 日（火）	年明け授業開講
	8	9	10	11	12	13	14	13 日（金）	センター入試準備（全日休講）
	15	16	17	18	19	20	21	14 日（土）～ 15 日（日）	センター入試（三郷キャンパス入構禁止）
	22	23	24	25	26	27	28	19 日（木）	卒業論文提出期限（情報学部）
	29	30	31					28 日（土）	後期授業終了
								30 日（月）～ 2 月 4 日（土）	後期試験
2 月				1	2	3	4	4 日（土）～ 6 日（月）	後期追試験手続き
	5	6	7	8	9	10	11	6 日（月）～ 3 月 31 日（金）	春期休暇
	12	13	14	15	16	17	18	10 日（金）	後期補習対象者リスト発表（人間教育学部対象）
	19	20	21	22	23	24	25	14 日（火）～ 20 日（月）	後期補習期間（人間教育学部対象）
	26	27	28					21 日（火）～ 22 日（水）	成績発表（卒業年次生）及び再試験手続き
								28 日（火）～ 3 月 3 日（金）	後期追試験・再試験
3 月				1	2	3	4	6 日（月）	後期追試験･再試験成績発表（卒業年次生）
	5	6	7	8	9	10	11	10 日（金）	卒業判定会議（ビジネス学部・情報学部）
	12	13	14	15	16	17	18	25 日（土）	卒業式・学位記授与式
	19	20	21	22	23	24	25	27 日（月）～ 29 日（水）	後期面談及び成績配付期間（全学生対象）
	26	27	28	29	30	31		27 日（月）	履修登録（新 2 年次生）
								28 日（火）	履修登録（新 3 年次生）
								29 日（水）	履修登録（新 4 年次生以上）

目　　次

【全学部共通】

1．教育課程（カリキュラム）

（1）教育課程（カリキュラム）について …… 17
（2）単位制について …… 17

2．履修登録

（1）履修登録の流れについて …… 19
（2）履修制限について …… 20
（3）履修登録の手順について …… 21
（4）シラバスの閲覧・検索について …… 23

3．授　業

（1）授業時間について …… 25
（2）休講について …… 25
（3）臨時休講について …… 25
（4）補講について …… 26
（5）出欠席について …… 26
（6）オフィス・アワーについて …… 27

4．試　験

（1）試験受験の心得について …… 28
（2）定期試験について …… 28
（3）論文（レポート）試験・提出について …… 29
（4）追試験について …… 29
（5）再試験について …… 30
（6）不正行為（カンニング）について …… 32

5．成　績

（1）成績評価について …… 32
（2）成績発表について …… 32
（3）成績通知書と修得単位について …… 33

6．卒業の要件

（1）卒業の要件について …… 33
（2）卒業所要単位一覧について …… 33

7．ＧＰＡ制度について

（1）ＧＰＡ制度導入の趣旨 …… 35

（２）ＧＰＡの算出式 …… 35
（３）ＧＰＡの算定基準 …… 35
（４）ＧＰＡの算出例 …… 36
（５）履修登録科目の変更 …… 36
（６）履修変更ができない科目 …… 36
（７）ＧＰＡ値の確認方法 …… 36
（８）ＧＰＡ値の学内利用 …… 36

【人間教育学部】
人間教育学部の講義を受けるにあたって…… 41

１．規程関係
◆人間教育学部人間教育学科履修規程…… 45
◆人間教育学部人間教育学科履修規程教育課程表…… 49
◆人間教育学部人間教育学科保育士養成課程履修細則…… 58

２．教職課程
（１）教職課程の概要 …… 63
（２）免許状の種類と免許教科 …… 63
（３）教育職員免許状を授与されるための基礎資格と最低修得単位数 …… 63
（４）教職課程履修登録 …… 64
（５）教職課程の科目 …… 64
（６）教職課程科目の履修について …… 69
（７）教育実習 …… 69
（８）介護等体験について …… 70

３．保育士養成課程
（１）保育士課程の概要 …… 75
（２）保育士資格の取得要件 …… 75
（３）保育士課程の受講要件 …… 75
（４）保育士過程受講選考方法 …… 75
（５）保育実習について …… 75

４．授業科目表
◆人間教育学部人間教育学科授業科目表…… 79

【ビジネス学部】
１．規程関係
◆ビジネス学部ビジネス学科履修規程（平成23年度以降入学生対象）…… 93
◆ビジネス学部ビジネス学科履修規程（平成19～22年度入学生対象）…… 96

◆ビジネス学部ビジネス学科履修規程（平成25年度以降3年次編入学生対象） … 99
◆ビジネス学部ビジネス学科履修規程　細則（平成25年度以降3年次編入学生対象）… 102
◆ビジネス学部ビジネス学科履修規程（平成24年度以降3年次編入学生対象） … 103
◆ビジネス学部ビジネス学科履修規程　細則（平成24年度以降3年次編入学生対象）… 106
◆ビジネス学部ビジネス学科履修規程（平成21～23年度3年次編入学生対象）… 107
◆ビジネス学部ビジネス学科履修規程　細則（平成21～23年度3年次編入学生対象）… 110
◆ビジネス学部ビジネス学科教育職員免許取得細則…… 111
◆ビジネス学部ビジネス学科資格取得による単位認定規程…… 118
◆ビジネス学部ビジネス学科プロジェクト演習室使用規程…… 121
◆他学部における授業科目履修規程…… 123
◆ビジネス学部ビジネス学科で履修登録が認められる他学部開講科目…… 124
◆ビジネス学部ビジネス学科「総合演習」の実施要領（平成23年度以降入学生対象）… 125
◆ビジネス学部ビジネス学科「プレ・プロジェクト演習」の実施要領（平成23年度以降入学生対象）… 126
◆ビジネス学部ビジネス学科「プロジェクト演習」(必修)の実施要領（平成23年度以降入学生対象）… 127
◆ビジネス学部ビジネス学科「総合演習」の実施要領（平成19～22年度入学生対象）… 129
◆ビジネス学部ビジネス学科「専門演習」(必修)の実施要領（平成19～22年度入学生対象）… 130
◆ビジネス学部ビジネス学科「プロジェクト演習」の実施要領（平成19～22年度入学生対象）… 131

2．教職課程
（1）教職課程の概要 …… 137
（2）免許状の種類と免許教科 …… 137
（3）教育職員免許状を授与されるための基礎資格と最低修得単位数 …… 137
（4）教職課程履修登録 …… 137
（5）教職課程の科目 …… 138
（6）教職課程科目の履修について …… 140
（7）教育実習 …… 140

3．授業科目表及び履修モデル
◆ビジネス学部ビジネス学科授業科目表…… 145
◆ビジネス学部ビジネス学科コース別履修モデル（平成23～25年度入学生対象）… 155

ビジネス学Q＆A…… 159

【情報学部】
1．規程関係
◆情報学部情報学科履修規程（平成23～25年度入学生対象）…… 165
◆情報学部情報学科履修規程（平成19～22年度入学生対象）…… 169
◆情報学部情報学科編入学生用履修規程（内規）
（平成24年度以降3年次編入学生対象）…… 173
◆情報学ゼミ実施要領（平成23～25年度入学生対象）…… 174

◆情報学演習実施要領（平成19～22年度入学生対象）…… 175
◆プロジェクト演習実施要領…… 176
◆演習科目実施要領（平成23～25年度入学生対象）…… 179
◆情報学関連科目についての取り扱い（平成19～22年度入学生対象）…… 180
◆情報学部資格取得による単位認定規程（平成23～25年度入学生対象）…… 181
◆他学部等における授業科目履修規程 …… 184
◆情報学部で履修登録が認められる他学部開講科目…… 185
◆情報学部情報学科教育職員免許取得細則…… 186

2．教職課程

（1）教職課程の概要 …… 193
（2）免許状の種類と免許教科 …… 193
（3）教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数 …… 193
（4）教職課程履修登録 …… 193
（5）教職課程の科目 …… 194
（6）教職課程科目の履修について …… 195
（7）教育実習 …… 195

3．授業科目表及び履修モデル

◆情報学部情報学科授業科目表（平成23～25年度入学生対象）…… 199
◆情報学部コース別履修モデル（平成23～25年度入学生対象）…… 205

履修の手引

　この項には、学生諸君が奈良学園大学で学修していくうえで、必ず知っておかなければならない基本的な事項についての説明が記載されています。
　授業が始まるまでに、これらの事柄をよく理解しておいてください。

履　修　の　手　引

1．教育課程（カリキュラム）

（1）教育課程（カリキュラム）について

大学において開設される授業科目は、学部・学科の専門に関する科目と、幅広く深い教養を培う科目に分類されます。これらの授業科目を必修科目・選択必修科目・選択科目に分けたり、各年次に配当したり、一週間あたりの時間数を決めるなどして編成したものを**教育課程（カリキュラム）**といいます。

（2）単位制について

本学で開講している各授業科目には、それぞれに「単位数」が定められています。学生諸君は、単位数の定められた授業科目を履修し、その成績が合格点（60点以上）であれば、その所定単位は認定され、単位を修得したことになります。修得した単位数の履修区分ごとの合計が卒業に必要な単位数を満たし、かつ、在学期間が4年以上となった時点で卒業することができます。

単位の計算法

単位数については、文部科学省の定める大学設置基準によって、45時間の学修を必要とする内容を１単位とするとされています。ただし、ここで言う学修とは、授業時間に加えて、予習・復習及び研究等のための自学自習の時間を含みます。自学自習の時間を保証するために、大学では高等学校までと違って授業の入っていない時間帯があるのです。

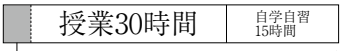
以下、学修の典型的なパターンのいくつかを示します。なお、<u>１回分の授業を１コマ</u>と数え、<u>１コマ90分を２時間</u>として計算します。

＜週１コマ・半期１単位の科目＞

●学修時間：45時間×１単位＝45時間

うち、授業時間：（前期15週×２時間）または（後期15週×２時間）＝半年間30時間

自学自習の時間：半年間15時間



半年間45時間

└─１週間に1コマ2時間（90分）を15週

＜週1コマ・半期２単位の科目＞

●学修時間：45時間×２単位＝90時間

うち、授業時間：（前期15週×２時間）または（後期15週×２時間）＝半年間30時間

自学自習の時間：半年間60時間

半年間90時間

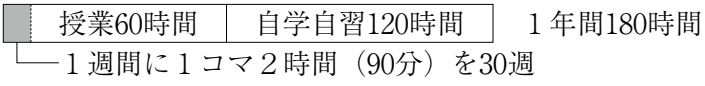
└─１週間に１コマ２時間（90分）を15週

＜週１コマ・通年４単位の科目＞

●学修時間：45時間×４単位＝180時間

うち、授業時間：（前期15週×２時間）＋（後期15週×２時間）＝１年間60時間

自学自習の時間：１年間120時間

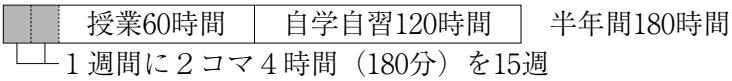


＜週２コマ・半期４単位の科目＞

●学修時間：45時間×４単位＝180時間

うち、授業時間：（前期15週×４時間）または（後期15週×４時間）＝半年間60時間

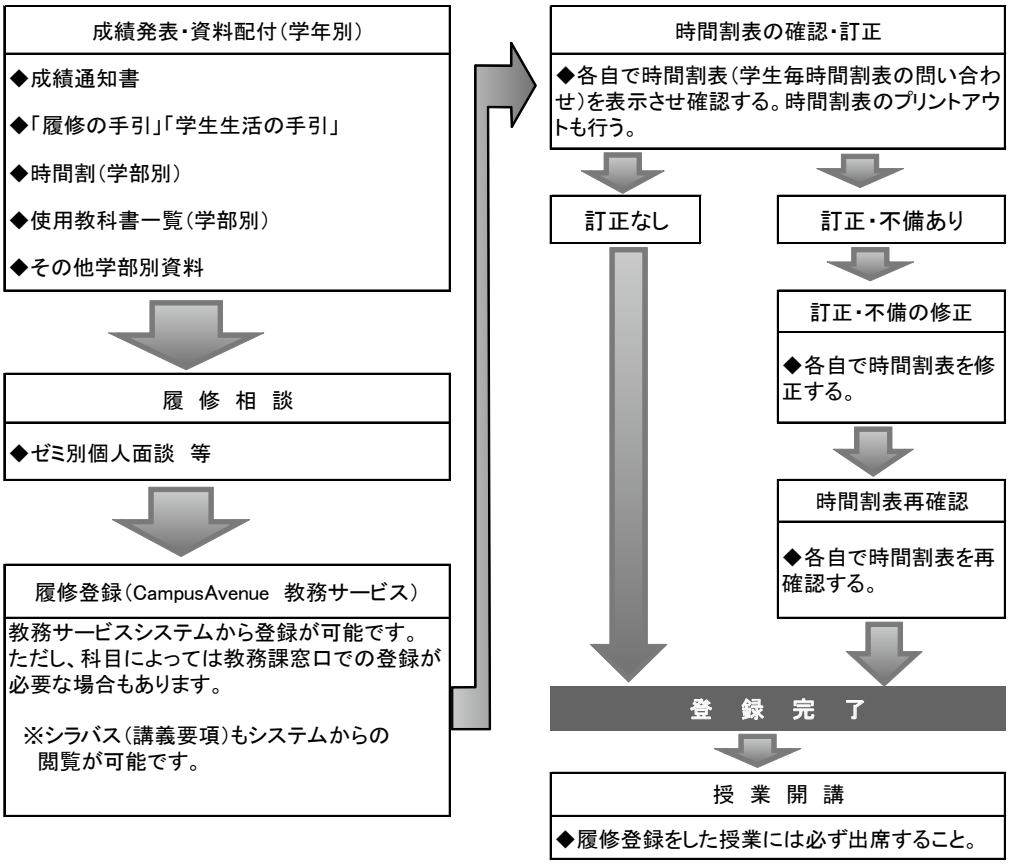
自学自習の時間：半年間120時間



2．履修登録

大学では、授業を受講するにあたって、まず**履修登録**をしなければなりません。履修登録をしていない科目を受講しても単位は認定されません。履修登録にあたっては、各自の学習計画に基づいて、十分に検討してください。

（1）履修登録の流れについて



◎ 前期または後期履修登録後の履修科目変更期間：第１週目の授業終了時まで
◎ 前期または後期履修登録後の履修科目取消期間：第６週目の授業終了時まで

履修計画の注意点

1．「履修の手引」をよく読み、履修のルール（履修方法や履修規程）をよく知ること。
2．「シラバス（講義要項）」をよく読み、授業の内容や概要をつかむこと。
3．将来の目標に合わせて、必要とする授業科目を選択すること。
4．各学期末に行われるアドバイザーまたは担任との面談には必ず出席すること。
5．各自の成績通知書を確認し、結果をふまえて履修計画を立てること。
6．必修科目及び登録必修科目は必ず登録すること。
　前年度の必修科目が修得できなかった場合は再履修すること。
7．選択科目についてもそれぞれの履修区分や単位修得条件について注意してください。
　必修科目ではないからといって履修放棄したり、単位を落としたりしてはいけません。
8．卒業必要単位をギリギリ履修するのではなく余裕ある単位修得計画が必要です。

（２）履修制限について

履修できる授業科目数は、その授業科目の合計単位数で制限されており、学部によって、学期（セメスター）又は学年ごとに履修登録可能な授業単位数の上限が決められています。この履修制限は、予習・復習等の自習時間を十分にとれるようにし、自ら学修を深めていってもらうためのものです。

履修制限の単位数は次表のように定められており、この単位数を超えて履修することはできません。（ただし、履修制限単位数の緩和措置が適用される場合や、単位化対象資格で認定された単位等についてはこの限りではありません。）

履修登録の際には、卒業までの履修計画と合わせて履修制限内で考えてください。

■人間教育学部　人間教育学科　履修制限単位

学　年	１年次		２年次		３年次		４年次	
学　期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	25		25		25		25	
	45		45		45		45	

（注）各学年の後期履修制限単位数については、年間履修制限単位数45単位から前期履修単位数を差し引いた単位数を上限とする。

■ビジネス学部　ビジネス学科　履修制限単位

学　年	１年次		２年次		３年次		４年次	
セメスター	第１	第２	第３	第４	第５	第６	第７	第８
単位数	22	22	22	22	22	22	26	26
	44		44		44		52	

■情報学部　情報学科　履修制限単位

学　年	１年次		２年次		３年次		４年次	
セメスター	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	22	22	22	22	26	26	26	26
	44		44		52		52	

（3）履修登録の手順について

1．　履修登録システムの起動

1　ブラウザを起動し、「CampusAvenue 教務サービス」の Web ページを開く。
http://soul.naragakuen-u.jp/car/student/student.jsp

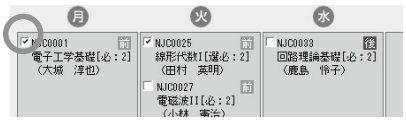
2　ログインＩＤとパスワードを入力し、
［ログイン］ボタンをクリックする。

3　右段のバナー「履修登録」をクリックする。

2．　履修科目を選択する

1　画面左側にあるリンク「時間割からの登録」をクリックする。

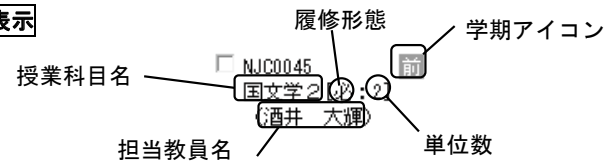
2　履修したい科目名の左上にあるボックスをクリックし、チェックを入れる。
※シラバスの検索については、「シラバスの閲覧・検索について（p.23～24）」を参照すること。



3　画面左上のリンク「選択を終了」をクリックする。

※ この段階では履修登録内容を一時的保存しただけで、
履修登録は完了していません。

科目表示



前 ＝前期科目　後 ＝後期科目　後前半　後後半　＝クォーター科目　通＝通年科目

履修形態

必　＝必修科目　（必ず履修し、単位を修得しなければならない）
選　＝選択科目　（履修する/しないを選択できる）

３．　履修科目を確認する

1　事前に作成していた時間割表と比較し、間違いがないか確認する。

【間違いがない場合】

1　画面左上の[申告を登録する]ボタンをクリックする。

<u>※ この操作によって履修登録の申請が完了します。</u>

2　画面右上の[戻る]ボタンをクリックする。

※ この画面で「履修登録エラー」が表示された場合、同画面中央のリンク「履修修正へ」をクリックし、履修科目を修正します。　リンク「エラー確認」をクリックすると、エラー箇所がわかります。

【間違いがあり、修正する場合】

1　画面左上の[他の講義も選択する]ボタンをクリックし、前頁「２．履修科目を選択する」の手順[２]・[３]に従って履修科目を選択する。

４．　履修登録作業を終了する

1　画面右上の[ログアウト]ボタンをクリックする。

（４）シラバスの閲覧・検索について

１．　履修登録システムの起動

1　ブラウザを起動し、「Campus Avenue 教務サービス」の Web ページを開く。
http://soul.naragakuen-u.jp/car/student/student.jsp

2　ログインＩＤとパスワードを入力し、
[ログイン]ボタンをクリックする。

3　右段のバナー「履修登録」をクリックする。

２．　シラバスを閲覧する

1　画面左側にあるリンク「時間割からの登録」をクリックする。

2　履修申告（時間割）画面が表示されます。

＜履修申告（時間割）画面＞

3　科目名のリンクをクリックすると、シラバスの詳細が表示されます。

＜シラバス詳細画面＞

【 注意 】
時間割表の時間割名がリンクになっているのは、シラバスの公開期間中だけです。
シラバスの公開期間が過ぎると、時間割名のリンクは解除されます。

4　「閉じる」ボタンをクリックすると、履修申告（時間割）画面に戻ります。

３．授　業

（１）授業時間について

１回の授業時間は90分です。通常、月曜日～金曜日は１～５時限で、土曜日は１～２時限で行います。特に補講等のある場合、原則として、月曜～金曜の５（授業が行われない日）・６時限目や土曜日の３、４時限目があてられます。

校時表

時　限	時　　間
1	9：00～10：30
2	10：40～12：10
昼　　食	
3	13：00～14：30
4	14：40～16：10
5	16：20～17：50
6	18：00～19：30

（２）休講について

大学の事情（入学試験等）や担当教員のやむを得ない理由（病気、出張等）により、休講になることがあります。

休講通知は、原則として１週間前に掲示します。ただし、急な事情のときは、やむを得ず当日に掲示されることもありますので、登校時には常に掲示板を確認するようにしてください。

また、休講の掲示もなく、授業開始時刻から30分過ぎても担当教員が来室しない場合は、教務課に連絡して指示を受けてください。なお、休講通知は本学Webページ（キャンパスアベニュー）でも確認できます。

（３）臨時休講について

下記のア～ウの場合は、臨時休講となります。学生は各自で情報を的確に収集し、それぞれの判断で下記の定めに従って行動してください。その際、大学への問い合わせはしないでください。

※通学途中、通学が危険かつ困難となった場合は、各自の判断で危険等を回避したのち、教務課に届け出てください。

ア．交通機関ストライキの場合

下記に示すいずれかの交通機関がストライキを行った場合、次の時限が休講となります。

①午前７時の時点で実施されている場合：午前の授業（１・２時限目）を休講とする。

②午前10時の時点で実施されている場合：午後の授業（３・４・５・６時限目）も休講とする。

鉄道会社	対　象　に　な　る　路　線
近鉄	全　線
ＪＲ	関西本線〔大和路線〕ＪＲ難波－天王寺－奈良－加茂
	和歌山線　　和歌山－高田－王寺
	桜井線　　奈良－桜井－高田－王寺

イ．気象警報が発表された場合

対象となる地域	対象となる気象警報の種類
奈良県北西部又は大阪府	特別警報・暴風警報

上記警報が発令された場合、次の時限が休講となります。ただし大雨洪水警報は対象外です。

①午前７時の時点で警報が発表されている場合：午前の授業（１・２時限目）を休講とする。

②午前10時の時点で警報が発表されている場合：午後の授業（３・４・５・６時限目）も休講とする。

ウ．大和川の増水で交通機関が不通になった場合

本学の特殊事情として大和川が増水でＪＲ関西本線（天王寺～王寺間）が不通になった場合、上記のアの通り休講します。

（４）補講について

休講等によって授業時間数が規定時間数に満たない場合に、補講を行うことがあります。補講は、原則として、月曜日～金曜日の５（授業が行われない日）・６時限目又は土曜日に行います。補講の日程・教室・時間等は、全て掲示板で指示します。

（５）出欠席について

授業は勿論のこと、大学行事への参加は学生の本分です。そのため、次のようなやむを得ぬ理由で授業を欠席する場合は、担当課へ申し出て「公欠届」、「公欠願」及び「長期欠席届」の手続きを行ってください。ただし、公欠願が認められるのは、１つの授業科目につき、原則３回までです。

欠席理由	届の種類	必要書類等	手続先
交通機関の事故・ストライキ等	公欠届	遅延証明書等と印鑑	教務課
単位互換協定大学試験の受験	公欠届	印鑑	教務課
警報発表に基づく欠席	公欠届	通学証明書・遅延証明書等と印鑑	教務課
お葬式・通夜 〔父母（養父母を含む）・祖父母・実兄弟姉妹)〕	公欠届 （忌引）	会葬御礼等の書類と印鑑 〔父母（養父母を含む）３日以内・祖父母１日以内・実兄弟姉妹２日以内〕	教務課
災害等	公欠届 （災害等）	官公庁による被災証明書と印鑑	教務課
教育実習・実習に係る事前訪問	公欠届 （実習関係）	印鑑	教務課
国、県または本大学を代表して、諸行事に参加	公欠願 （特別）	印鑑	教務課
学校において予防すべき感染症（学校保健安全法施行規則第 18 条に規定）	公欠届 （感染症）	治癒証明書 **［書式は本学ホームページからダウンロード］**	学生支援センター
本学が認めるボランティア活動に参加	公欠願	印鑑	学生支援センター
本学課外活動において公式試合及び行事等に参加	公欠願	事前にスポーツ振興課に届け出ておくこと（同好会は対象外）	スポーツ振興課
就職試験等を受験するとき	公欠願	企業が発行した就職試験の受験を証明するもの	キャリアセンター
病気・怪我等による１週間以上の長期欠席	欠席届	医師の診断書と印鑑	教務課

（6）オフィス・アワーについて

オフィス・アワーとは、教員が指定した曜日・時間帯に学生が自由に研究室を訪れ、授業内容・学修上の問題等について質問や相談ができる制度です。
各教員が指定した曜日・時間帯は、新学期当初に掲示します。授業担当の教員を始め、多くの教員に、授業や学生生活に関することなどを相談してください。

なお、相談に際してはマナーを心がけ、有効に活用してください。

４．試　験

本学の試験には、定期試験、論文（レポート）試験、実技試験、追試験及び再試験があります。

なお､この他に担当者の判断で小テスト等の臨時試験を実施する場合もあります。

（１）試験受験の心得について

受験に際しては、次の注意事項を厳守してください。

１）学生証を机上に置き、公正な態度で受験すること。

２）学生証・筆記用具・時計等の許可された物品以外は、すべてかばんの中に入れる。

３）携帯電話は電源を切り、かばんの中にいれる。

４）試験開始後20分が経過した場合には入室することはできない。また、試験開始後、30分が経過するまでは退室することはできない。

５）出席不良等で受験停止を命じられている者は、受験することができない。

６）履修登録をしていない科目は、受験することができない。

７）質問がある時は、手を挙げて試験監督者に知らせる。

８）許可された物以外のものが机上または机の中にある時は、不正行為とみなす場合がある。また、物品の貸借は認めない。

９）解答用紙を試験場外に持ち出した場合は、当該試験を無効とする。

10）試験中に不正行為を行った者は、厳しい処分を科す。

試験当日、学生証を忘れた場合

２号館教務課付近の自動証明書発行機で「仮学生証」（100円）を購入し、試験科目名、試験教室を記入して、机上に置くこと。

※『仮学生証』は発行当日のみ有効

※年間10枚のみ発行

※使用後は教務課に必ず返却すること

（２）定期試験について

定期試験とは期間を定めて行う試験のことであり､試験期間は以下の通りです。

ア．　前期試験（７月下旬から）

イ．　後期試験（１月下旬から）

試験期間は毎年度、学年暦によって決定されます。

定期試験の時間割表は、試験の１週間前までに１号館、２号館及び５号館１階掲示板に掲示します。また、本学 Web ページで発表するほか、教務課窓口で試験時間割用紙を配布します。

（注）試験教室は通常授業の教室とは異なる場合があります。試験教室についても、試験の１週間前までに１号館、２号館及び５号館１階掲示板に掲示します。試験当日に慌てないように必ず確認しておいてください。

（3）論文（レポート）試験・提出について

授業科目によっては、論文（レポート）試験や実技試験によって成績評価を行う場合があります。**これらは定期試験の代わりとなるものですから、提出期限や条件等は厳格に守ってください。**なお、論文（レポート）試験や実技試験は、担当教員が直接授業中で指示する場合と、掲示板を通して指示する場合があります。

また、試験とは別に、授業担当者からレポート課題が課せられることがあります。この場合、担当教員が授業中に直接指示します。

提出期限	指定された提出期日・時刻は厳守することが必要です。 **締切後の提出は一切、受理できません。**
提 出 先	指定された所へ提出してください。 （指定された提出先以外では受理できません） ①担当教員 ②授業時間中もしくは授業担当者の研究室 ③教務課窓口
受付時間	◎平日　午前　9：00～12：00 　　午後　1：00～4：00 ◎土曜　午前　9：00～12：00 **郵送では一切、受理できません。** ※この時間内でも特に担当教員の締切時刻がある場合は、その締切時刻以降は一切、受理できません。

（4）追試験について

追試験とは、やむを得ない正当な理由によって定期試験当日に受験できなかった学生又は論文（レポート）試験でレポートを提出することができなかった学生に対して定期試験期間後に実施する試験のことをいいます。

追試験を希望する場合は、理由を証明する書類を添えて期間内に教務課に申し込んでください。

追試験の日程・試験教室については、２号館１階及び１号館外の掲示板に掲示します。

欠席理由	証　明　書	備　　考
疾病等 （病気・怪我等）	医師の診断書または治癒証明書※	家族の病気の付き添い等は認めません。 ※感染症の場合は、本学指定の治癒証明書が必要です。
忌引	死亡に関する公的証明書 （写しでも可）	父母（養父母を含む）３日以内・祖父母１日以内・実兄弟姉妹２日以内。 **法事による欠席は認めません。**
就職試験	企業等が発行した就職試験受験を証明するもの	会社訪問、セミナー、研修等は認めません。

欠席理由	証　明　書	備　　考
交通障害	遅延証明書・事故証明書	**20分以内の遅延は認めません。** バイク、マイカー使用に起因する交通事故及び交通渋滞による遅刻は認めません。
災害（地震･台風･火災・水害等）	官公庁による被災証明書	本人又は家族の居住地が被災した場合に限ります。
その他（本人の不注意によらない理由であること）	公的な証明書	事前に判明している場合は、教務課に問い合わせてください。 資格試験等は認めません。

追試験を受験するためには、上表のように、当該試験を受験できなかったことが公的な証明書により明確に証明されなければなりません。

例えば、診断書に証明されている日時が試験日時と一致しない場合は、受付できませんので注意してください。**公的な証明書が添付されていなければ、理由の如何を問わず、追試験を受験することができません。例えば、風邪などにより、自宅で療養していた場合においては､医師の診断書がないために受付できません。必ず医師の診断を受けておくことが必要です。**

忌引、就職試験、災害などによる欠席において遠隔地にいた場合は、往復のための所要日数も考慮しますので教務課に申し出てください。

（5）再試験について

再試験とは、試験等で不可となった学生に対して、次の実施要領に従って実施する試験のことをいいます。

[人間教育学部　再試験等の実施要領]

1．目的

再試験等とは、履修登録を行った科目の単位を修得することができなかった学生を対象とする試験である。

2．受験範囲

再試験等を受験できる者は、試験等の結果、前期・後期で「不可」となった科目について、各学期末に受験することができる。また、特別の事由により、学部長が再試験等を許可する場合がある。

3．再試験等を許可される科目

再試験等を許可される科目は、当該学期に履修し、担当教員が受験を認めた科目に限る。また、再試験前には、原則補習を行う。なお、理由なく補習を受けない場合は、当該科目は不可となる。

4．受験手続き

①受験希望者は期日内に「再試験願」を教務課に提出しなければならない。
②再試験料は１科目1,000円とする。
③再試験時間割は掲示により発表される。

[ビジネス学部　再試験等の実施要領]

1．目的

再試験等とは、卒業年次において履修登録を行った科目の単位を修得することができなかった学生を対象とする試験である。

2．受験範囲

再試験等を受験できる者は、試験等の結果、前期・後期で「不可」となった科目について、それぞれ**８単位以内**の範囲で各学期末に受験することができる。

3．再試験等を許可される科目

①再試験等を許可される科目は、卒業年次に履修し受験した科目に限り、前期・後期の各学期でそれぞれ**８単位**を限度とする。ただし、**成績評価が40点以上**であった科目に限る。

②以下の科目は再試験等を実施しない。

ⅰ）演習科目

ⅱ）実技科目

ⅲ）リレー形式又はオムニバス形式で実施される科目

ⅳ）ビジネス学部の履修科目表に掲載されていない科目

4．受験手続き

①受験希望者は期日内に「再試験願」を教務課に提出しなければならない。

②再試験料は１科目1,000円とする。

③再試験時間割は掲示により発表される。

[情報学部　再試験等の実施要領]

1．目的

再試験等とは、履修登録を行った科目の単位を修得することができなかった学生を対象とする試験である。

2．受験範囲

再試験等を受験できる者は、試験等の結果、前期・後期で「不可」となった科目について、それぞれ**８単位以内**の範囲で各学期末に受験することができる。

3．再試験等を許可される科目

①情報学部専門教育科目（全学年）で、担当教員が受験を認めた科目

②卒業年次に履修し受験した、共通教育科目・他学部開放科目で、成績評価が40点以上であった科目（ただし、実技科目、オムニバス科目を除く）

4．受験手続き

①受験希望者は期日内に「再試験願」を教務課に提出しなければならない。

②再試験料は１科目1,000円とする。

③再試験時間割は掲示により発表される。

（6）不正行為（カンニング）について

試験中の次の行為は、不正行為とみなします。

1）カンニングペーパーまたはこれに類似するものを試験中に所持または使用すること。
2）他人に受験させ、または他人の代わりに受験すること。
3）他人の答案をのぞき見することまたは故意に見せること。
4）答案用紙を交換すること。
5）持込みを許可されていない物品を参照すること。
6）他の受験者と私語をすること。
7）物品の貸借をすること。
8）試験監督者の指示に従わないこと。
9）その他不正行為を疑われるような行為をすること。

試験中に不正行為をした者については、**当該学期に履修登録した全授業科目の単位を無効**とします。ただし、演習科目・実技科目についてはこの限りではありません。

5．成　績

（1）成績評価について

成績は100点を満点とし、60点以上を合格とします。履修した科目の成績評価は筆記試験・論文・レポート・実技テストその他、授業担当者の定める評価基準により行われます。

通年科目の最終成績は前期の成績と後期の成績とで評価されますので、前期の成績が思わしくなかったからといって落ち込まず、前向きに後期の授業に取り組んでください。

なお、通年科目には、前期の成績発表時に点数発表が行われる科目と行われない科目があります。成績通知は科目ごとに、次の評価によって発表します。

	点　　数	評　価	成績通知書	成績証明書	単　　位
5段階評価	90点～100点	秀	秀	秀	単位認定（修得）
	80点～ 89点	優	優	優	
	70点～ 79点	良	良	良	
	60点～ 69点	可	可	可	
	0点～ 59点	不可	不可	表示しない	
－	評価不能	欠課	欠課	表示しない	単位不認定(不修得)

※「欠課」とは、試験欠席、レポート未提出及び出席不良等の理由で単位不認定の場合をいう。

（2）成績発表について

成績発表は、原則として、学期末（前期末又は後期末）に成績通知書を学生個人に配付することによって行います。成績発表の日程については、学年暦又は掲

示板で確認してください。

また、成績に関する問い合わせは、成績発表後２週間以内に教務課に申し出て、「成績評価問い合わせ票」に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。**電話での問い合わせは受け付けません。**

（３）成績通知書と修得単位について

前期末の成績通知書には、その年度の通年科目は中間点で、前期で終了した科目は評価（秀・優・良・可・不可・欠課）で成績を示しています。

年度末の成績通知書には、その年度に履修登録した全科目の成績評価と、入学年度からの単位修得（合格）した科目の成績評価を示しています。

また、成績通知書には、履修区分別の単位修得表も掲載されています。指定された科目群の中から一定の単位を修得する必要がありますので、各自の成績表と比較して、卒業に必要な科目が何かを知るうえでの参考にしてください。

※注　意
①前期の成績通知書
○前期開講科目・・・確定した成績評価
○通年科目・・・・・前期終了時点での中間点（発表されない科目もあります）
○集中開講科目・・・確定した成績評価（８月中に授業が終了した科目のみ）
②後期の成績通知書
○前期開講科目・・・前期に確定した成績評価
○通年科目・・・・・前期と後期の成績をもとに最終的に確定した成績評価
○後期開講科目・・・確定した成績評価
○集中開講科目・・・確定した成績評価
※成績評価は、秀・優・良・可・不可・欠課で示す。

６．卒業の要件

（１）卒業の要件について

大学を卒業する要件は、大学設置基準で定められています。

本学では、卒業するために次の条件を満たす必要があります。

ア．４年間以上の在学（休学期間を除く）

イ．本学人間教育学部、ビジネス学部、情報学部が定める卒業に必要な科目、並びに卒業に必要な単位数以上の修得

（２）卒業所要単位一覧について

■人間教育学部　人間教育学科　１～３年次生対象［平成26～28年度（2014～2016）入学生］

共通教育科目		専　門　科　目				関連科目	合計
必修・選択	小　計	基礎科目 必修・選択	発展科目 必修・選択	演習実習科目 必修・選択	小　計	選　択	
26	26	30	32	16	78		124
※上記に加え、共通教育科目、専門科目及び関連科目のうちから 26 単位の修得が必要 ※専門科目［基礎科目：必修・選択］30 単位のうち、６単位を卒業要件として充足する							

■ビジネス学部　ビジネス学科　４～６年次生対象［平成23～25年度（2011～2013）入学生］

共通教育科目						専門科目					合計
導入基礎	キャリア形成	スポーツ関連	教養教育	外国語	小計	専門基礎	専門	演習科目		小計	
選択	選択	選択	選択	選択		選択	選択	選択	必修		
40				＊4	44	＊8	60	＊4	8	80	124

①　②　③

①、②、③……＊欄で規定以上に修得した単位は矢印に示す区分に加えることができる。

■ビジネス学部　ビジネス学科　３年次編入生対象［平成25年度（2013）以降入学生］

共通教育科目						専門科目					合計
導入基礎	キャリア形成	スポーツ関連	教養教育	外国語	小計	専門基礎	専門	演習科目		小計	
選択	選択	選択	選択	選択		選択	選択	選択	必修		
40				＊4	44	＊8	60	＊4	8	80	124

①　②　③

①、②、③……＊欄で規定以上修得した単位は矢印に示す区分に加えることができる。

■情報学部　情報学科　４～６年次対象［平成23～25年度（2011～2013）入学生］

【システムコース卒業要件】

共通教育科目			専門科目				合計
外国語科目（必修）	その他選択	小計	情報学ゼミⅢ・Ⅳ（必修）	システムコース科目	その他選択	小計	
＊4	40	44	8	＊32	40	80	124

①　①

【メディアコース卒業要件】

共通教育科目			専門科目				合計
外国語科目（必修）	その他選択	小計	情報学ゼミⅢ・Ⅳ（必修）	メディアコース科目	その他選択	小計	
＊4	40	44	8	＊32	40	80	124

①　①

①……＊欄で規定以上修得した単位は矢印で示す区分に加えることができる。

7．ＧＰＡ制度について

（1）ＧＰＡ制度導入の趣旨

平成23（2011）年度入学生から従来の成績評価に加えて、ＧＰＡ（Grade Point Average）を導入しています。

ＧＰＡとは成績評価方法の１つで、履修科目の成績の平均を数値化したものです。

また、ただ単位を修得すればいいということではなく、その質（成績の評価）も重要となるため、学生の皆さんが自主的・意欲的に学修し、自分の学修成果を正確に把握して、計画的な履修ができるよう制度を設けています。

（2）ＧＰＡの算出式

履修登録科目のうちＧＰＡ対象科目について、各科目の成績評価（秀・優・良・可・不可または欠課）に応じて５段階（4.0、3.0、2.0、1.0、０）に分けて数値化した評価点（Grade Point）に単位数を掛けたものを総合計し、履修登録科目の総単位数で割ることにより算出します。

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{[(\text{対象科目の単位数}) \times (\text{その科目の評価点})]\ \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計}}$$

※小数第３位を四捨五入

（3）ＧＰＡの算定基準

		評　価	得点等	評価点 (Grade Point)	
判　定	合　格	秀	100 ～ 90 点	4	卒業要件内
		優	89 ～ 80 点	3	
		良	79 ～ 70 点	2	
		可	69 ～ 60 点	1	
	不合格	不可	0 ～ 59 点	0	
		欠課	評価不能	0	
無判定	その他	認定	ビジネス学部及び情報学部における転編入及び転学部、単位互換、資格取得等による認定科目	－	
			ビジネス学部及び情報学部の導入基礎科目及び基礎英語Ⅰ・Ⅱ	－	
			ビジネス学部及び情報学部の教職課程科目の一部	－	卒業要件外

（4）ＧＰＡ 算出例

授業科目名	単位数	成　績	評価点	単位数×評価点（ＧＰ）
簿記の仕組みとビジネス	2	秀	4	8
プログラミング入門	2	優	3	6
キャリアデザインⅠ	2	良	2	4
データベース基礎	2	不可	0	0
憲法Ⅰ	2	欠課	0	0
経営史Ⅰ	2	可	1	2
計	12		10	20
	［単位数×評価点（ＧＰ）の合計］÷［単位数の合計］＝ＧＰＡ 20 ÷ 12 ＝ 1.67			

※小数点第３位を四捨五入

（5）履修登録科目の変更

ＧＰＡ対象科目を履修すると履修放棄等により成績評価が「不可」または「欠課」となった場合にも、0ポイントとして算出されて、ＧＰＡ値が下がります。そこで、履修登録変更期間中に所定の理由書を提出し、履修登録科目の変更を申告することができます。ただし、変更の理由によっては、認められない場合もあります。

また、**変更前に出席していなかった回については、欠席扱いとなります**ので、よく考えたうえで申告をしてください。

履修登録科目の変更手続きは、下記期間中に所定の理由書に記入し、教務課に申告してください。

◎前期または後期履修登録後の履修科目変更期間：第１週目の授業終了時まで
◎前期または後期履修登録後の履修科目取消期間：第６週目の授業終了時まで

（6）履修変更ができない科目

- 必修科目及び登録必修科目
- 導入基礎科目及び基礎英語科目
- 履修制限科目（定員が充足した科目）

（7）ＧＰＡ値の確認方法

ＧＰＡ値は成績・履修状況一覧表で確認できます。ＧＰＡ値には、学期ＧＰＡと累積ＧＰＡがあり、学期ＧＰＡは当該学期のＧＰＡ値を、累積ＧＰＡは通算したＧＰＡ値を示します。

（8）ＧＰＡ値の学内利用

【ビジネス学部】

- 履修登録制限単位数の緩和

前学期ＧＰＡ3.0以上の場合・・・履修制限単位数　＋　２単位まで履修可能

- 奨学金受給資格基準・・・(「学生生活の手引」参照)
- 卒業生代表選出基準
- 学長表彰等の実施・・・累積（４年間）ＧＰＡ3.5以上
- 修学指導等

【情報学部】

- 奨学金受給資格基準・・・(「学生生活の手引」参照)
- 卒業生代表選出基準
- 学長表彰等の実施・・・累積（４年間）ＧＰＡ3.5以上
- 修学指導等

人間教育学部

　履修計画をたてるには、この項に記載してある履修規程及び一般的注意事項をよく理解する必要があります。これらの事項を理解して履修登録を行い、卒業に必要な単位を修得していくように努めてください。

人間教育学部の講義を受けるにあたって

人間教育学部は小学校の先生を養成することを第一の目的としています。そのうえもっと学修を望む人は幼稚園や中学校（国語）高等学校（国語）の先生の免許も取得できます。

３年生と4年生で学校や幼稚園に４週間の教育実習に行きます、そのためには、１年生と２年生で、教育実習に行くための必要な科目を学習していなければいけません。高校生から大学生になった解放感から、大学の１年や２年はのんびりと好きなことをして３年生から頑張れば間に合うと考えている人は、卒業ができなくなります。なぜなら、人間教育学部は小学校免許を取得しないと卒業ができないからです。１年と２年の履修状況が、４年後の大学を卒業できるかどうかまでもを左右するといっても過言ではありません。

授業に出席さえしていれば、単位はもらえるという考えも間違っています。人間教育学部では、授業中での発言や質問等の参加度を大切にした授業をします。また授業中に一方的に教えてもらうだけでなく、自分で復習をすることも大切になります。

そこで、講義や演習を実効性のあるものとするため、以下の講義ルールを定めます。

（１）授業を受けるにあたり

①授業開始の時点では、学生は移動を終わり、着席していてください。

②座席は、少人数の講義を除いて指定制です。科目担当教員が学生一人ひとりの名前を早く覚え、講義を双方向のものとするためです。

③出席は、一人ひとりの学生の名前を呼び出席確認をします。学生は、挙手するなど明確に返事をしてください。

④携帯電話は、授業中はマナーモードにして、かばんの中に入れてください。

⑤飲食は、教室の中ではもちろん禁止です。

⑥机上にはかばんや、授業に必要のないものを置きません。

（２）授業中と試験について

①第１回目の授業で科目ごとにSA（スチュデントアシスタント）を２名決めます。

SA の役割

・授業の開始に「起立」「礼」「お願いします」、終わりに「起立」「礼」「ありがとうございました」の挨拶を相互に行う際の号令をかけます

・教員の指示で授業中に使用する教具の準備や、資料の配布を行います

・講義が終わった後の教室のかたづけや点検をします

・学生による授業アンケートの実施を行います

②遅刻は正当な理由がある場合、15分以内は出席扱いとします。15分以上の遅刻は欠席扱いとします。（正当な理由には証明が必要です）

③早退は、事前に早退届を教務課からもらって、担当教員に提出してください。

早退届がない場合は、緊急を要する場合以外は認めません。
④遅刻・早退は３回で欠席１回となります。
⑤前期・後期それぞれで欠席回数が５回を超えると定期試験は受験できません。
⑥授業と関係ない私語やメールなどをしている友人には、注意をしてください。
⑦各科目授業の４回目に、教科書を購入しているかチェックをします。
⑧前期後期の試験に、指定された教科書を持参しない場合は、受験は認めません。
⑨各科目で成績不良の場合は、指名制の補習を行いますが、指名されたら必ず出席してください。理由なく補習を受けない場合は、その科目は不可となります。

１．人間教育学部　規程関係

人間教育学部　人間教育学科　履修規程

（総　　則）

第１条　本学学則第13条第３項の規定に基づき、人間教育学部人間教育学科（以下「本学科」という。）は、小学校教諭を基本とした教育者等を育成するため、教育課程及び授業科目の履修については、この規程に定める。

（卒業資格）

第２条　本学科を卒業するためには、４年以上在学し、次条以下の規定に従い、124単位以上を修得しなければならない。

（授業科目の区分）

第３条　授業科目は、これを共通教育科目、専門科目及び関連科目に区分する。

２　共通教育科目は、これを基礎教養科目、共生教養科目、奈良・国際科目、情報教養科目及び、キャリア形成科目に区分する。

３　専門科目は、これを基礎科目、発展科目及び演習実習科目に区分する。

４　基礎科目は、これを教育学の基礎に関する理解及び人間教育学の基礎に関する理解に区分する。

５　発展科目は、これを現代教育・教育経営に関する理解、教育実践の理解及び教職キャリア形成に区分する。

６　演習実習科目は、これを人間教育学演習、教育実践演習及びゼミナールに区分する。

７　関連科目は、これを学校図書館司書教諭免許取得及び日本語教師資格に区分する。

（授業科目の履修）

第４条　本学科授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

（１）共通教育科目	26単位以上
（２）専門科目	72単位以上
うち基礎科目	24単位以上
うち発展科目	32単位以上
うち演習実習科目	16単位以上

２　前項の各号に加えて、共通教育科目、専門科目及び関連科目のうちから26単位以上を修得しなければならない。

３　授業科目の配当年次等必要事項を表１から表８に定める。本学科の学生の履修は、表１に基づくものとする。なお、さらに他の教諭免許を取得する場合の履修は、表２から表８に基づくこととする。

（教育職員免許状の授与を得るための資格）

第５条　教育職員免許状の授与を得るためには、次の各号に従い、教育職員免許法及び同法施行規則を満たすため、本学科が定める所定の単位を修得しなければならない。

（１） 幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（国語）又は高等学校教諭一種免許状（国語）（以下「免許状」という。）の授与を得るための「教科に関する科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。

（２） 免許状の授与を得るための「教職に関する科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。

（３） 免許状の授与を得るための「教科又は教職に関する科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。

（４） 免許状の授与を得るための「教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目」は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。

２ 教育実習を受講するには、次の各号いずれにも該当しなければならない。

（１） 卒業に必要な単位のうち、76単位以上を修得していること。

（２） 教職センター運営委員会が定める授業科目を履修していること。

（３） 人間教育学部長及び教職センター長が適当と認めた学生であること。

（単　　位）

第６条 各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする内容をもって１単位とする。

２ 各授業科目については、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、学則第17条の規定により単位数を計算する。

（配当年次）

第７条 各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。

（授業科目の履修制限）

第８条 授業科目については、原則として、年間45単位を超えて履修することができない。ただし、学部長が認めた場合は、この限りではない。

２ 前項の履修単位数の制限は、１年を２学期に分けて履修する場合において、１学期で25単位を超えて履修することができないものとする。ただし、学部長が認めた場合は、この限りではない。

（履修登録）

第９条 履修登録は、各学期始めに年２回行わなければならない。

（履修登録の制限）

第10条 授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。

２ 同時限に開講される授業科目は、１科目しか登録することができない。

（再登録）

第11条 単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。

２ 単位を修得することができなかった授業科目は、第８条に定める履修制限内

において再登録をすることができる。

（履修登録の変更）

第12条　履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。

2　学部長が教授会に諮り、特に認める場合は、前項の規定を適用しない。

（授業科目の開講）

第13条　授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。

（授業の組分け）

第14条　履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。

（単位の認定）

第15条　担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という。）により学修の成果を評価して単位を与える。

2　前項に定めるほか、教育上有益と認めるときは、学部長は、教授会に諮り当該授業科目の単位を与えることができる。

（単位認定を受ける資格）

第16条　次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。

（1）授業料その他諸納入金が未納であるとき

（2）履修登録をしていないとき

（試験等の成績評価）

第17条　試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。

（1）100点から90点まで　　秀

（2）　89点から80点まで　　優

（3）　79点から70点まで　　良

（4）　69点から60点まで　　可

（5）　59点以下　　不可（不合格）

（受験上の注意）

第18条　学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

（再試験等）

第19条　試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。

2　再試験等の実施については、別に定める。

3　再試験等で合格した者の成績評価は、60点（可）とする。

（追試験等）

第20条　病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。

2　追試験等の実施については、別に定める。

3　追試験等の結果の成績評価は、一割減とする。

（改廃）

第21条　この規程の改廃は、人間教育学部教授会においてこれを行う。

附　則

この規程は、平成26年４月１日から施行する。

【表1】

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習
共通教育科目	基礎教養科目	英語Ⅰ	1･2･3･4前	1		○		
		英語Ⅱ	1･2･3･4後	1		○		
		英会話Ⅰ	1･2･3･4前	1			○	
		英会話Ⅱ	1･2･3･4後	1			○	
		中国語基礎Ⅰ	1･2･3･4前		1	○		
		中国語基礎Ⅱ	1･2･3･4後		1	○		
		中国語会話	1･2･3･4後		1		○	
		日本語Ⅰ	1･2･3･4前		1	○		
		日本語Ⅱ	1･2･3･4後		1	○		
		日本語表現Ⅰ	1･2･3･4前		1		○	
		日本語表現Ⅱ	1･2･3･4後		1		○	
		文学	1･2･3･4前		2	○		
		哲学	1･2･3･4後		2	○		
		倫理学	1･2･3･4後		2	○		
		心理学	1･2･3･4後		2	○		
		行動科学の基礎	1･2･3･4前		2	○		
		文化人類学	1･2･3･4前		2	○		
		感性・イメージ表現	1･2･3･4後		2	○		
		音楽の世界	1･2･3･4前		2	○		
		社会学	1･2･3･4前		2	○		
		社会科学の基礎	1･2･3･4後		2	○		
		日本国憲法	1･2･3･4後	2		○		
		外国史	1･2･3･4前		2	○		
		地理学	1･2･3･4前		2	○		
		数学の世界	1･2･3･4前		2	○		
		物理と地学の基礎	1･2･3･4後		2	○		
		環境化学の基礎	1･2･3･4前		2	○		
		実験と科学	1･2･3･4前		2	○		
		健康スポーツ(理論)	1･2･3･4前	1		○		
		健康スポーツ(実技)	1･2･3･4後	1				○
		スポーツ実技Ⅰ	1･2･3･4前		1			○
		スポーツ実技Ⅱ	1･2･3･4後		1			○
	共生教養科目	共生と日本社会	1･2･3･4前		2	○		
		人権論	1･2･3･4後		2	○		
		ボランティア活動	1･2･3･4後		2	○		
		生活と環境	1･2･3･4後		2	○		
	奈良・国際科目	奈良学	1･2･3･4後		2	○		
		文化コミュニケーション	1･2･3･4前		2	○		
		文化芸術交流論	1･2･3･4前		2	○		
		文化芸術交流演習	1･2･3･4後		1		○	
		国際経済事情	1･2･3･4前		2	○		
	情報教養科目	情報機器の操作	1･2･3･4前	2		○		
		情報倫理とセキュリティ	1･2･3･4後		2	○		
		シミュレーションの世界	1･2･3･4後		2	○		
		データの世界	1･2･3･4後		2	○		
		ＣＧの基礎と演習	1･2･3･4前		2	○		
	キャリア形成科目	キャリアデザインⅠ	1前		1		○	
		キャリアデザインⅡ	1後		1		○	
		キャリアディベロップメントⅠ	2前		1		○	
		キャリアディベロップメントⅡ	2後		1		○	
		キャリアスキルアップⅠ	3前		1		○	
		キャリアスキルアップⅡ	3後		1		○	
		インターンシップ	3前・後		2			○
	共通教育科目小計（ 53科目）		－	10	74	－		

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習
専門科目	基礎科目	教育学の基礎に関する理解	教育心理学A(初等)	2前	2		○		
			教育心理学B(中等)	2前		2	○		
			発達心理学A(初等)	1前		2	○		
			発達心理学B(中等)	1前		2	○		
			教育行政学A(初等)	2前	2		○		
			教育行政学B(中等)	2後		2	○		
			教職入門A(初等)	1前	2		○		
			教職入門B(中等)	1前		2	○		
			教育原理A(初等)	1後	2		○		
			教育原理B(中等)	1後		2	○		
			学力と評価	2前		2	○		
			言葉の理解	2後	2		○		
			社会の理解	1後	2		○		
			数の理解	1後	2		○		
			自然の理解	2後	2		○		
			生活の理解	1後	2		○		
			音楽の理解	1前	2		○		
			美術の理解	1前	2		○		
			衣食住の理解	2前		2	○		
			運動・健康の理解	2前	2		○		
			書写演習(小)	2後		2		○	
			器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)	1前		2		○	
			器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)	2後		2		○	
			器楽演習Ⅲ(パーカッション)	1前		2		○	
			器楽演習Ⅳ(パーカッション)	1後		2		○	
			行動の科学	2後		2	○		
			食の心理	2後		2	○		
			国語学入門	2前		2	○		
			国語学Ⅰ	2後		2	○		
			国文学入門	2前		2	○		
			国文学Ⅰ	2後		2	○		
			漢文学入門	2前		2	○		
			漢文学Ⅰ	2後		2	○		
			書写・書道入門	1後		2	○		
			書写・書道Ⅰ	2前		2	○		
			小計（35科目）		24	46	－		
		人間教育学の基礎に関する理解	人間教育学Ⅰ(入門)	1前	2		○		
			人間教育学Ⅱ(応用)	2前	2		○		
			ことばとコミュニケーション	1後		2	○		
			教育と日本の伝統文化入門	1後	2		○		
			教育と日本の伝統文化演習	2前		1		○	
			異文化コミュニケーション	2前		2	○		
			英米文学	2前		2	○		
			英語とテレビに見る異文化	2後		2	○		
			コミュニティと音楽文化	2後		2	○		
			小計（ 9科目）	－	6	11	－		
	基礎科目小計（ 44科目）				30	57	－		
		現代教育・教育経営に関する理解	現代教育論	2後		2	○		
			現代教育課題A(不登校・いじめ)	3前		2	○		
			現代教育課題B(特別支援)	3前		2	○		
			現代教育課題C(学校と安全)	3後		2	○		
			現代教育課題D(学校における異文化理解)	3後		2	○		
			幼児理解	2前		2	○		
			保育相談支援	2後		2	○		
			教育相談の理論と方法A(初等)	3後	2		○		
			教育相談の理論と方法B(中等)	3後		2	○		
			小計（ 9科目）		2	16	－		

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習
専門科目	発展科目	教育実践の理解	保育課程総論	2前		2	○		
			子どもと健康	2前		2	○		
			子どもと人間関係	2後		2	○		
			子どもと環境	2前		2	○		
			子どもと言葉	2後		2	○		
			子どもと表現(体育)	2前		2	○		
			子どもと表現(図工)	2後		2	○		
			子どもと表現(音楽)	2後		2	○		
			教育課程論A(初等)	3前	2		○		
			教育課程論B(中等)	3前		2	○		
			道徳教育の指導法A(初等)	3前	2		○		
			道徳教育の指導法B(中等)	3前		2	○		
			教育方法・技術論A(初等)	3前	2		○		
			教育方法・技術論B(中等)	3前		2	○		
			特別活動の指導法A(初等)	2前	2		○		
			特別活動の指導法B(中等)	2前		2	○		
			生徒指導・進路指導論A(初等)	2前	2		○		
			生徒指導・進路指導論B(中等)	2後		2	○		
			国語科指導法	3前	2		○		
			社会科指導法	2前	2		○		
			算数科指導法	2前	2		○		
			理科指導法	3前	2		○		
			生活科指導法	2後	2		○		
			音楽科指導法	2後	2		○		
			器楽･歌唱の指導法	3後		2		○	
			図工科指導法	2後	2		○		
			家庭科指導法	3前	2		○		
			体育科指導法	3前	2		○		
			体育実技の指導法	3後		2		○	
			総合的な学習の時間	2後		2	○		
			小学校外国語活動の指導法	2後		2		○	
			国語学Ⅱ	3前		2	○		
			国語学特論	4前		2	○		
			語学・文学総合演習Ⅰ(国語学)	3後		2		○	
			国文学Ⅱ	3前		2	○		
			国文学特論	4前		2	○		
			語学・文学総合演習Ⅱ(国文学)	3後		2		○	
			漢文学Ⅱ	3前		2	○		
			漢文学特論	4前		2	○		
			語学・文学総合演習Ⅲ(漢文学)	3後		2		○	
			書写・書道Ⅱ	3前		2		○	
			国語科教育法Ⅰ	2後		2	○		
			国語科教育法Ⅱ	3前		2	○		
			国語科教育法Ⅲ	3前		2	○		
			国語科教育法Ⅳ	3後		2	○		
			小計(42科目)	―	28	62	―		
		教職キャリア形成	教職表現力演習Ⅰ	1通年		1		○	
			教職表現力演習Ⅱ	2通年		1		○	
			小計 (2科目)	―	0	2	―		
		発展科目小計 (53科目)			30	80	―		

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習
専門科目	演習実習科目	人間教育学演習	人間教育実践力開発演習Ⅰ	1通年		1		○	
			人間教育実践力開発演習Ⅱ	2通年		1		○	
			人間教育実践力開発演習Ⅲ	3通年		1		○	
			人間教育実践力開発演習Ⅳ	4通年		1		○	
			小計（4科目）	－	0	4	－		
		教育実践実習	教育実習事前事後指導(幼)	4通年		1			○
			教育実習Ⅰ(幼)	4前		2			○
			教育実習Ⅱ(幼)	4前		2			○
			教育実習事前事後指導(小)	3通年	1				○
			教育実習Ⅰ(小)	3前	2				○
			教育実習Ⅱ(小)	3前	2				○
			教育実習事前事後指導(中・高)	4通年		1			○
			教育実習Ⅰ(中・高)	4前		2			○
			教育実習Ⅱ(中)	4前		2			○
			教職実践演習(幼・小)	4後	2				○
			教職実践演習(中・高)	4後		2			○
			小計（ 11科目）	－	7	12	－		
		ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	1通年	2			○	
			基礎ゼミナールⅡ	2通年	2			○	
			人間教育学ゼミナールⅠ(基礎)	3通年		4		○	
			人間教育学ゼミナールⅡ(応用)	4通年		4		○	
			卒業研究	4後		4		○	
			小計（ 5科目）	－	4	12	－		
		演習実習科目小計（ 20科目）			11	28	－		
	専門科目小計（小計 117科目）				71	165	－		
関連科目		学校図書館司書教諭免許取得	学校経営と学校図書館	4前		2	○		
			学校図書館メディアの構成	4前		2	○		
			学習指導と学校図書館	4前		2	○		
			読書と豊かな人間性	4後		2	○		
			情報メディアの活用	4後		2	○		
		日本語教師資格	言語学概論	4前		2	○		
			社会言語学	3後		2	○		
			日本事情	3後		2	○		
			日本語教育入門	3後		2	○		
			日本語教育指導法・教材研究	4前		2	○		
			日本語教育実習事前事後指導	4前		1			○
			日本語教育実習(国内又は海外)	4前		2			○
		関連科目小計（12科目）		－	0	23	－		

【表２】幼一種免許を取得するために必要な教科に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備　考
		必修	選択	
国語	言葉の理解※	2		
算数	数の理解※	2		
生活	生活の理解※	2		
音楽	音楽の理解※	2		
図画工作	美術の理解※	2		
体育	運動・健康の理解※	2		

※印は小一種免の取得に必要な科目と重複

【表３】幼一種免許を取得するために必要な教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目	単位数		備　考
科目区分	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職入門A（初等）※	2		
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理A（初等）※	2		
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学A（初等）※	2		
			発達心理学A（初等）※		2	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育行政学A（初等）※	2		
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	18	保育課程総論	2		
	・保育内容の指導法		子どもと健康	2		
			子どもと人間関係	2		
			子どもと環境	2		
			子どもと言葉	2		
			子どもと表現(体育)	2		
			子どもと表現(図工)	2		
			子どもと表現(音楽)	2		
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法・技術論A（初等）※	2		
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児理解の理論及び方法	2	幼児理解	2		
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		保育相談支援	2		

教育実習	5	教育実習事前事後指導(幼)	1		
		教育実習Ⅰ（幼）	2		
		教育実習Ⅱ（幼）	2		
教職実践演習	2	教職実践演習（幼・小）※	2		

※印は小一種免の取得に必要な科目と重複

【表４】幼一種免許を取得するために必要な教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数	
		必修	選択
教科又は教職に関する科目	人間教育学Ⅰ（入門）※	2	
	人間教育学Ⅱ（応用）※	2	
	現代教育課題Ｂ（特別支援）※		2
	現代教育課題Ｃ（学校と安全）※		2

※印は小一種免の取得に必要な科目と重複

「教科又は教職に関する科目」の選択科目 又は 最低修得単位を超えて履修した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」について、併せて６単位以上を修得

【表５－１】中一種免（国語）を取得するために必要な教科に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備　考
		必修	選択	
国語学 （音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	国語学入門	2		
	国語学Ⅰ	2		
	国語学Ⅱ	2		
	国語学特論		2	
	語学・文学総合演習Ⅰ（国語学）	2		
	ことばとコミュニケーション	2		
国文学 （国文学史を含む。）	国文学入門	2		
	国文学Ⅰ	2		
	国文学Ⅱ	2		
	国文学特論		2	
	語学・文学総合演習Ⅱ（国文学）	2		
	文学	2		
漢文学	漢文学入門	2		
	漢文学Ⅰ	2		
	漢文学Ⅱ	2		
	漢文学特論		2	
	語学・文学総合演習Ⅲ（漢文学）	2		
書道 （書写を中心とする。）	書写・書道入門	2		
	書写・書道Ⅰ		2	
	書写・書道Ⅱ		2	

【表５－２】高一種免（国語）を取得するために必要な教科に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備　考
		必修	選択	
国語学 （音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	国語学入門	2		
	国語学Ⅰ	2		
	国語学Ⅱ	2		
	国語学特論		2	
	語学・文学総合演習Ⅰ（国語学）	2		
	ことばとコミュニケーション	2		
国文学 （国文学史を含む。）	国文学入門	2		
	国文学Ⅰ	2		
	国文学Ⅱ	2		
	国文学特論		2	
	語学・文学総合演習Ⅱ（国文学）	2		
	文学	2		
漢文学	漢文学入門	2		
	漢文学Ⅰ	2		
	漢文学Ⅱ	2		
	漢文学特論		2	
	語学・文学総合演習Ⅲ（漢文学）	2		

【表５－３】中一種免（国語）、高一種免（国語）を取得するために本学が必要と定めている科目

科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備　　考
		必修	選択必修	
共通教育科目	中国語基礎Ⅰ		2ア	アを付した科目の中から一科目選択必修。
	中国語基礎Ⅱ		2ア	
	中国語会話		2ア	
	奈良学	2		
関連科目	読書と豊かな人間	2		
	言語学概論	2		
	社会言語学	2		

【表６】中一種免（国語）又は高一種免（国語）を取得するために必要な教職に関する科目

<table>
<tr><th colspan="3">免許法施行規則に定める科目区分等</th><th rowspan="2">左記に対応する開設授業科目</th><th colspan="2">単位数</th><th rowspan="2">備　考</th></tr>
<tr><th>科目区分</th><th>各科目に含める必要事項</th><th>単位数</th><th>必修</th><th>選択</th></tr>
<tr><td>教職の意義等に関する科目</td><td>・教職の意義及び教員の役割
・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）
・進路選択に資する各種の機会の提供等供等</td><td>2</td><td>教職入門Ｂ（中等）</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">教育の基礎理論に関する科目</td><td>・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</td><td rowspan="4">6</td><td>教育原理Ｂ（中等）</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）</td><td>教育心理学Ｂ(中等)</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>発達心理学Ｂ(中等)</td><td></td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項</td><td>教育行政学Ｂ(中等)</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="11">教育課程及び指導法に関する科目</td><td>・教育課程の意義及び編成の方法</td><td rowspan="10">中12・高6</td><td>教育課程論Ｂ(中等)</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">・各教科の指導法</td><td>国語科教育法Ⅰ</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>国語科教育法Ⅱ</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>国語科教育法Ⅲ</td><td></td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>国語科教育法Ⅳ</td><td></td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>・道徳の指導法</td><td>道徳教育の指導法Ｂ(中等)</td><td>2</td><td></td><td>中免のみ</td></tr>
<tr><td>・特別活動の指導法</td><td>特別活動の指導法Ｂ(中等)</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）</td><td rowspan="2">教育方法・技術論Ｂ（中等）</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目</td><td rowspan="2">・生徒指導の理論及び方法
・進路指導の理論及び方法</td><td rowspan="3">4</td><td>生徒指導・進路指導論Ｂ（中等）</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法</td><td>教育相談の理論と方法Ｂ（中等）</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">教育実習</td><td rowspan="3">中5・高3</td><td>教育実習事前事後指導（中・高）</td><td>1</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>教育実習Ⅰ(中･高)</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>教育実習Ⅱ（中）</td><td></td><td>2</td><td>中免のみ必修</td></tr>
<tr><td colspan="2">教職実践演習</td><td>2</td><td>教職実践演習(中･高)</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
</table>

【表７－１】中一種免（国語）を取得するために必要な教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数	
		必修	選択
教科又は教職に関する科目	人間教育学Ⅰ（入門）※	2	
	人間教育学Ⅱ（応用）※	2	
	現代教育課題Ｂ（特別支援）※		2
	現代教育課題Ｃ（学校と安全）※		2
	総合的な学習の時間※		2

※印は小一種免の取得に必要な科目と重複

「教科又は教職に関する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した

「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」について、併せて４単位以上修得

【表７－２】高一種免（国語）を取得するために必要な教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数	
		必修	選択
教科又は教職に関する科目	人間教育学Ⅰ（入門）※	2	
	人間教育学Ⅱ（応用）※	2	
	現代教育課題Ｂ（特別支援）※		2
	現代教育課題Ｃ（学校と安全）※		2
	総合的な学習の時間※		2
	道徳教育の指導法Ｂ（中等）	2	

※印は小一種免の取得に必要な科目と重複

「教科又は教職に関する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した

「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」について、併せて10単位以上修得

【表８】幼一種免又は中一種免（国語）又は高一種免（国語）を取得するために必要な教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則第 66 条の６に定める科目		左記に対応する本学の授業科目	単位数		備　考
科目区分	単位数		必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法※	2		
体育	2	健康スポーツ（理論）※	1		
		健康スポーツ（実技）※	1		
外国語コミュニケーション	2	英会話Ⅰ※	1		
		英会話Ⅱ※	1		
情報機器の操作	2	情報機器の操作※	2		

※印は小一種免の取得に必要な科目と重複

人間教育学部　人間教育学科　保育士養成課程履修細則

（総　　則）

第１条　本学学則第13条第５項の規定に基づき、人間教育学部人間教育学科の学生で、保育士資格の取得を希望する者は、児童福祉法（昭和22年法律第164号）及び児童福祉法施行規則（昭和23年厚生省令第11号）によるほか、この細則により履修しなければならない。

（履　　修）

第２条　保育士資格を取得するためには、別表に定める単位を修得し、当該学科を卒業しなければならない。

（対　　象）

第３条　前条の履修をするためには、人間教育学部長が定める選抜基準により、選抜されなければならない。

（課程名称・定員）

第４条　選抜された者は、人間教育学部人間教育学科保育士養成課程に所属する。この保育士養成課程の定員は20名とする。

（他機関・入学前取得単位の認定）

第５条　学長は、在学中に他の指定保育士養成施設等において履修した教科目又は入学前に指定保育士養成施設等で履修した教科目について取得した単位を、30単位を超えない範囲で当該教科目に相当するものとみなし、単位を認定することができる。

（卒業単位への算入）

第６条　この課程の授業科目の履修により修得した単位のうち、人間教育学部人間教育学科履修規程により同学科の授業科目と同一と人間教育学部教授会が認めた場合は、卒業単位に算入することができる。

（雑　　則）

第７条　この細則に定めるものの他は、人間教育学部人間教育学科履修規程に準じる。

（改　　廃）

第８条　この細則の改廃は、人間教育学部教授会においてこれを行う。

附　則

この細則は、平成28年４月１日から施行する。

（別表）

保育士資格に関する授業科目

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備考
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数 必修	選択	計	
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	日本国憲法	講義	2		2	
				情報機器の操作	講義	2		2	
				キャリアデザインⅠ	演習		1	1	
				キャリアデザインⅡ	演習		1	1	
				キャリアディベロップメントⅠ	演習		1	1	
				キャリアディベロップメントⅡ	演習		1	1	
				キャリアスキルアップⅠ	演習		1	1	
				キャリアスキルアップⅡ	演習		1	1	
	外国語	演習	2以上	英会話Ⅰ	演習	1		1	
				英会話Ⅱ	演習	1		1	
	体育	講義	1	健康スポーツ（理論）	講義	1		1	
		実技	1	健康スポーツ（実技）	実技	1		1	
合計		10単位以上				8	6	14	
				14単位（≧10単位）					

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備考
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数 必修	選択	計	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		2	
	教育原理	講義	2	教育原理A（初等）	講義	2		2	
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義	2		2	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		2	
	相談援助	演習	1	相談援助	演習	1		1	
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義	2		2	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		2	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	講義	2	保育の心理学Ⅰ	講義	2		2	
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	保育の心理学Ⅱ	演習	1		1	
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	子どもの保健Ⅰ	講義	4		4	
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	子どもの保健Ⅱ	演習	1		1	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		2	
	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義	2		2	
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	保育課程総論	講義	2		2	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	1		1	
	保育内容演習	演習	5	保育内容Ⅰ（健康・人間関係）	演習	2		2	
				保育内容Ⅱ（環境）	演習	2		2	
				保育内容Ⅲ（言葉・表現）	演習	2		2	
	乳児保育	演習	2	乳児保育	演習	2		2	
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2		2	
	社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習	1		1	
	保育相談支援	演習	1	保育相談	演習	1		1	
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	表現演習	演習	2		2	
				器楽演習Ⅰ（鍵盤楽器）	演習	2		2	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育所実習Ⅰ	実習	2/4		2/4	
				施設実習Ⅰ	実習	2/4		2/4	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ	演習	2		2	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習	2		2	
合計		51単位				52		52	
				52単位（≧51単位）					

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					備　　考
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数 必修	選択	計	
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15単位以上	教職入門A（初等）	講義	2		2	
				教育行政学A（初等）	講義	2		2	
				人間教育学Ⅰ（入門）	講義	2		2	
				人間教育学Ⅱ（応用）	講義	2		2	
保育の対象の理解に関する科目				教育心理学A（初等）	講義	2		2	
				発達心理学A（初等）	講義	2		2	
				幼児理解	講義		2	2	
				保育相談支援	講義		2	2	
保育の内容・方法に関する科目				子どもと健康	講義		2	2	
				子どもと人間関係	講義		2	2	
				子どもと環境	講義		2	2	
				子どもと言葉	講義		2	2	
				子どもと表現（体育）	講義		2	2	
				子どもと表現（図工）	講義		2	2	
				子どもと表現（音楽）	講義		2	2	
				教育方法・技術論A（初等）	講義	2		2	
保育の表現技術				音楽科指導法	講義	2		2	
				器楽・歌唱の指導法	演習		2	2	
				図工科指導法	講義	2		2	
				体育実技の指導法	講義		2	2	
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育所実習Ⅱ	実習	2		2	
				施設実習Ⅱ	実習		2	2	
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育所実習指導Ⅱ	演習	1		1	
				保育実習指導Ⅲ	演習		1	1	
合　　計		１８単位以上				21	25	46	
				46単位（≧18単位）					

	当該養成施設における教科の開設状況等					備　　考
	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数 必修	選択	計	
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目	衣食住の理解	講義		2	2	
	行動の科学	講義		2	2	
	食の心理	講義		2	2	
	ことばとコミュニケーション	講義		2	2	
	英語とテレビに見る異文化	講義		2	2	
	生活科指導法	講義	2		2	
	家庭科指導法	講義	2		2	
	体育科指導法	講義	2		2	
合　　計			6	10	16	

２．人間教育学部　　教職課程

（1）教職課程の概要

人間教育学部では幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭を目指す者に対して、教職課程が設けられています。

教員には次の世代の人材を育成するという重要な使命があり、そのため、十分な専門知識を持つと同時に、優れた人格や指導力が求められます。このことを踏まえ、免許取得には多くの科目の履修が求められ、履修すべき科目は、いずれも、上記の目的のために必要な科目であるとの認識を十分に持って、相当な覚悟で科目の履修に取り組んでください。

教育実習は、教員になるにふさわしい専門の学力と勉学に対する態度を身につけて、はじめて受講できるものと考えてください。

（2）免許状の種類と免許教科

本学に在学している学生の取得できる免許状の種類と免許教科は次の通りです。

学　　科	免許状の種類	免許教科
人間教育学科	幼稚園教諭一種免許状	－
人間教育学科	小学校教諭一種免許状	－
人間教育学科	中学校教諭一種免許状	国　語
人間教育学科	高等学校教諭一種免許状	国　語

（3）教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

『教育職員免許法』に定める最低修得単位数は下記の通りです。『教育職員免許法』第５条及び『教育職員免許法施行規則』第66条の６に定める「日本国憲法」（２単位）、「体育」（２単位）、「外国語コミュニケーション」（２単位）、「情報機器の操作」（２単位）が必要です。

所要資格／免許状の種類	基礎資格	大学において取得することを必要とする専門教育科目の最低単位数			
		教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	規則 66 条の６に定める科目
幼稚園教諭一種免許状	学士の学位を有すること	6	35	10	8
小学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	8	41	10	8
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	20	31	8	8
高等学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	20	23	16	8

（4）教職課程登録

①教職課程履修希望者は実習前年度までに「教職課程登録」の手続きをしなければなりません。

②教職課程を辞退する場合は、教職センターへ辞退の届出をしなければなりません。

（5）教職課程の科目

① 教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

■人間教育学部　人間教育学科　平成26～28年度（2014～2016）入学生

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）										
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
別表第一備考四号確認欄	2	日本国憲法	2	○　日本国憲法	2		1	後期	小林
	2	体育	2	○　健康スポーツ(理論)	1		1	前期	清水
				○　健康スポーツ(実技)	1		1	後期	清水・岡部
	2	外国語コミュニケーション	2	○　英会話　Ⅰ	1		1	前期	熊田
				○　英会話　Ⅱ	1		1	後期	熊田
	2	情報機器の操作	2	○　情報機器の操作	2		1	前期	杵崎

※　授業科目の○印は必修科目

② 教科又は教職に関する科目

幼稚園教諭一種

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科又は教職に関する科目	10	教科又は教職に関する科目	10	○　人間教育学　Ⅰ(入門)	2		1	前期	梶田
				○　人間教育学　Ⅱ(応用)	2		2	前期	梶田
				現代教育課題B(特別支援)		2	3	前期	厨子
				現代教育課題C(学校と安全)		2	3	後期	松井

※　授業科目の○印は必修科目

※「教科又は教職に関する科目」の単位修得について、「教科に関する科目」もしくは「教職に関する科目」において最低修得単位を超えて修得した単位をこれに含めることができる

小学校教諭一種

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科又は教職に関する科目	10	教科又は教職に関する科目	10	○　人間教育学　Ⅰ(入門)	2		1	前期	梶田
				○　人間教育学　Ⅱ(応用)	2		2	前期	梶田
				現代教育課題B(特別支援)		2	3	前期	厨子
				現代教育課題C(学校と安全)		2	3	後期	松井
				総合的な学習の時間		2	2	後期	森(一)

※　授業科目の○印は必修科目

※「教科又は教職に関する科目」の単位修得について、「教科に関する科目」もしくは「教職に関する科目」において最低修得単位を超えて修得した単位をこれに含めることができる

中学校教諭一種（国語）

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科又は教職に関する科目	10	教科又は教職に関する科目	10	○ 人間教育学 Ⅰ（入門）	2		1	前期	梶田
				○ 人間教育学 Ⅱ（応用）	2		2	前期	梶田
				現代教育課題B（特別支援）		2	3	前期	厨子
				現代教育課題C（学校と安全）		2	3	後期	松井
				総合的な学習の時間		2	2	後期	森（一）

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教科又は教職に関する科目」の単位修得について、「教科に関する科目」もしくは「教職に関する科目」において最低修得単位を超えて修得した単位をこれに含めることができる

高等学校教諭一種（国語）

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科又は教職に関する科目	16	教科又は教職に関する科目	16	○ 人間教育学 Ⅰ（入門）	2		1	前期	梶田
				○ 人間教育学 Ⅱ（応用）	2		2	前期	梶田
				現代教育課題B（特別支援）		2	3	前期	厨子
				現代教育課題C（学校と安全）		2	3	後期	松井
				総合的な学習の時間		2	2	後期	森（一）
				道徳教育の指導法B（中等）		2	3	前期	増井

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教科又は教職に関する科目」の単位修得について、「教科に関する科目」もしくは「教職に関する科目」において最低修得単位を超えて修得した単位をこれに含めることができる

■人間教育学部　人間教育学科　平成26～28年度（2014～2016）入学生

③ 教科に関する科目

■人間教育学部　人間教育学科　平成26～28年度（2014～2016）入学生

幼稚園教諭一種

学部・学科等の教育課程（教科に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科に関する科目	12	国語	6	○ 言葉の理解	2		2	後期	伊﨑
		算数		○ 数の理解	2		1	後期	金山
		生活		○ 生活の理解	2		1	後期	善野
		音楽		○ 音楽の理解	2		1	前期	山本
		図画工作		○ 美術の理解	2		1	前期	松井
		体育		○ 運動・健康の理解	2		2	前期	森（一）
	12		6		12				

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教科に関する科目」の単位修得において、6単位を超えた単位数は、「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

小学校教諭一種

学部・学科等の教育課程（教科に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科に関する科目	16	国語（書写を含む）	8	○　言葉の理解	2		2	後期	伊﨑
				書写演習（小）		2	2	後期	小竹
		社会		○　社会の理解	2		1	後期	中田
		算数		○　数の理解	2		1	後期	金山
		理科		○　自然の理解	2		2	前期	太田
		生活		○　生活の理解	2		1	後期	善野
		音楽		○　音楽の理解	2		1	前期	山本
				器楽演習　Ⅰ		2	1	前期	瀧明
				器楽演習　Ⅱ		2	2	後期	瀧明
		図画工作		○　美術の理解	2		1	前期	松井
		家庭		衣食住の理解		2	2	前期	西江
		体育		○　運動・健康の理解	2		2	前期	森（一）
	16		8		16	8			

※　授業科目の○印は必修科目
※　「教科に関する科目」の単位修得において、8単位を超えた単位数は、「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

中学校教諭一種（国語）

学部・学科等の教育課程（教科に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科に関する科目	30	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む）	20	○　国語学入門	2		2	前期	桑原
				○　国語学　Ⅰ	2		2	後期	桑原
				○　国語学　Ⅱ	2		3	前期	桑原
				国語学特論		2	4		
				○　語学・文学総合演習　Ⅰ（国語学）	2		3	後期	桑原
				○　ことばとコミュニケーション	2		1	後期	伊﨑
		国文学（国文学史を含む）		○　国文学入門	2		2	前期	阿尾
				○　国文学　Ⅰ	2		2	後期	阿尾
				○　国文学　Ⅱ	2		3	前期	阿尾
				国文学特論		2	4		
				○　語学・文学総合演習　Ⅱ（国文学）	2		3	後期	阿尾
				○　文学	2		1	前期	阿尾
		漢文学		○　漢文学入門	2		2	前期	山田
				○　漢文学　Ⅰ	2		2	後期	山田
				○　漢文学　Ⅱ	2		3	前期	山田
				漢文学特論		2	4		
				○　語学・文学総合演習　Ⅲ（漢文学）	2		3	後期	山田
		書道（書写を中心とする）		○　書写・書道入門	2		1	後期	小竹
				書写・書道　Ⅰ		2	2	前期	小竹
				書写・書道　Ⅱ		2	3	前期	小竹
	30		20		30	10			

※　授業科目の○印は必修科目
※　「教科に関する科目」の単位修得において、20単位を超えた単位数は、「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

高等学校教諭一種（国語）

学部・学科等の教育課程（教科に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科に関する科目	28	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む）	20	○ 国語学入門	2		2	前期	桑原
				○ 国語学 Ⅰ	2		2	後期	桑原
				○ 国語学 Ⅱ	2		3	前期	桑原
				国語学特論		2	4		
				○ 語学・文学総合演習 Ⅰ（国語学）	2		3	後期	桑原
				○ ことばとコミュニケーション	2		1	後期	伊﨑
		国文学（国文学史を含む）		○ 国文学入門	2		2	前期	阿尾
				○ 国文学 Ⅰ	2		2	後期	阿尾
				○ 国文学 Ⅱ	2		3	前期	阿尾
				国文学特論		2	4		
				○ 語学・文学総合演習 Ⅱ（国文学）	2		3	後期	阿尾
				○ 文学	2		1	前期	阿尾
		漢文学		○ 漢文学入門	2		2	前期	山田
				○ 漢文学 Ⅰ	2		2	後期	山田
				○ 漢文学 Ⅱ	2		3	前期	山田
				漢文学特論		2	4		
				○ 語学・文学総合演習 Ⅲ（漢文学）	2		3	後期	山田
	28		20		28	6			

※ 授業科目の○印は必修科目
※ 選択科目3科目の中から1科目2単位以上選択必修
※ 「教科に関する科目」の単位修得において、20単位を超えた単位数は、「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

④ 教職に関する科目

■ 人間教育学部　人間教育学科　平成26～28年度（2014～2016）入学生

幼稚園教諭一種

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）											
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等			左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
					授業科目	単位数				
	単位数	科　目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択			
教職に関する科目	2	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○ 教職入門A（初等）	2		1	前期	鎌田
	6	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び理想	6	○ 教育原理A（初等）	2		1	後期	松田
			・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		○ 教育心理学A（初等）	2		2	前期	岡村
					発達心理学A（初等）		2	1	前期	高木
			・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		○ 教育行政学A（初等）	2		2	前期	西辻
	18	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	18	○ 保育課程総論	2		2	前期	土谷
			・保育内容の指導法		○ 子どもと健康	2		2	前期	土谷
					○ 子どもと人間関係	2		2	後期	土谷
					○ 子どもと環境	2		2	前期	岡野
					○ 子どもと言葉	2		2	後期	伊﨑
					○ 子どもと表現（体育）	2		2	前期	森（一）
					○ 子どもと表現（図工）	2		2	後期	松井
					○ 子どもと表現（音楽）	2		2	後期	山本
			・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		○ 教育方法・技術論A（初等）	2		3	後期	金山・米川
	4	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・幼児の理論及び方法	2	○ 幼児理解	2		2	前期	土谷
			・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		○ 保育相談支援	2		2	後期	岡村
	5	教育実習		5	○ 教育実習事前事後指導（幼）	1		4	通年	
					○ 教育実習 Ⅰ（幼）	2		4	前期	
					○ 教育実習 Ⅱ（幼）	2		4	後期	
	2	教職実践演習		2	○ 教職実践演習（幼・小）	2		4	前期	
	37			35		37	2			

※ 授業科目の○印は必修科目
※ 「教職に関する科目」の単位修得において、35単位を超えた単位数は「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

小学校教諭一種

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）											
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等			左記に対応する開設授業科目				配当	開講時期	平成28年度担当者
					授業科目	単位数					
	単位数	科　目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択				
教職に関する科目	2	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○　教職入門A（初等）	2		1	前期	鎌田
	6	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び理想	6	○　教育原理A（初等）	2		1	後期	松田
			・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		○　教育心理学A（初等）	2		2	前期	岡村
					発達心理学A（初等）		2	1	前期	高木
			・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		○　教育行政学A（初等）	2		2	前期	西辻
	26	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	22	○　教育課程論A（初等）	2		3	前期	佃
			・各教科の指導法		○　国語科指導法	2		3	前期	伊﨑
					○　社会科指導法	2		2	前期	中田
					○　算数科指導法	2		2	前期	金山
					○　理科指導法	2		3	前期	太田
					○　生活科指導法	2		2	後期	善野
					○　音楽科指導法	2		2	後期	山本
					○　図工科指導法	2		2	後期	松井
					○　家庭科指導法	2		3	後期	西江
					○　体育科指導法	2		3	前期	森（一）
			・道徳の指導法		○　道徳教育の指導法A（初等）	2		3	後期	増井
			・特別活動の指導法		○　特別活動の指導法A（初等）	2		2	後期	松田
			・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		○　教育方法・技術論A（初等）	2		3	後期	金山、米川
	4	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	○　生徒指導・進路指導論A（初等）	2		2	集中	松岡
			・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		○　教育相談の理論と方法A（初等）	2		3	後期	岡村
	5	教育実習		5	○　教育実習事前事後指導（小）	1		3	通年	伊﨑・太田・金山・鎌田・熊田・善野・増井・松井・森（一）・西江
					○　教育実習　Ⅰ（小）	2		3	前期	伊﨑・太田・金山・鎌田・熊田・善野・増井・松井・西江
					○　教育実習　Ⅱ（小）	2		3	前期	
	2	教職実践演習		2	○　教職実践演習（幼・小）	2		4	後期	
	45			41		45	2			

※　授業科目の○印は必修科目

※　「教科に関する科目」の単位修得において、41単位を超えた単位数は「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

中学校・高等学校教諭一種（国語）

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）										
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等			左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
					授業科目	単位数				
	単位数	科　目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択			
教職に関する科目	2	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○ 教職入門B（中等）	2		1	前期	瀧明
	6	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び理想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む） ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	6	○ 教育原理B（中等）	2		1	後期	松田
					○ 教育心理学B（中等）	2		2	前期	岡村
					発達心理学B（中等）		2	1	前期	高木
					○ 教育行政学B（中等）	2		2	後期	西辻
	中12・高10	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・各教科の指導法	中12・高6	○ 教育課程論B（中等）	2		3	前期	佃
					○ 国語科教育法 Ⅰ	2		2	後期	西辻
					○ 国語科教育法 Ⅱ	2		3	前期	西辻
					国語科教育法 Ⅲ		2	3	前期	西辻
					国語科教育法 Ⅳ		2	3	後期	西辻
			・道徳の指導法		○ 道徳教育の指導法B（中等）	2		3	前期	増井
			・特別活動の指導法		○ 特別活動の指導法B（中等）	2		2	後期	松田
			・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		○ 教育方法・技術論B（中等）	2		3	後期	米川、西辻
	4	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	○ 生徒指導・進路指導論B（中等）	2		2	集中	松岡
			・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		○ 教育相談の理論と方法B（中等）	2		3	後期	岡村
	中5・高3	教育実習		中5・高3	○ 教育実習事前事後指導（中・高）	1		4	通年	
					○ 教育実習 Ⅰ（中・高）	2		4	前期	
					○ 教育実習 Ⅱ（中）	2		4	前期	
	2	教職実践演習		2	○ 教職実践演習（中・高）	2		4	後期	
	中31・高27			中31・高23		中31・高29	6			

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「道徳教育の指導法B（中等）」及び「教育実習Ⅱ（中）」は、中学校教諭一種免許状（国語）の授与を得るための必修科目とする

※ 「教職に関する科目」の単位修得において、中免31単位、高免23単位を超えた単位数は、「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

（6）教職課程科目の履修について

教職課程関連科目の登録は、原則として教育実習に参加し、所定の教育職員免許状を取得することを前提とします。

（7）教育実習

①「教育実習」の評価について

『教育職員免許法』に基づき、免許状取得条件科目に「教育実習」があります。

幼稚園教諭及び小学校教諭、中学校教諭の免許状を取得するには「教育実習」５単位の修得が必要です。すなわち、「教育実習Ⅰ・Ⅱ」（各２単位）と「教育実習事前事後指導」（１単位）を履修し、それらすべてを修得することが必要です。

高等学校教諭の免許状を取得するには「教育実習」３単位の修得が必要です。すなわち、「教育実習Ⅰ」（２単位）と「教育実習事前事後指導」（１単位）を履修し、それらすべてを修得することが必要です。

②「教育実習」の履修登録（小学校教諭免許）

教育実習受講有資格者は、３年次の履修登録期間中に「教育実習登録」の手続きをしなければなりません。

③「教育実習」の履修資格（小学校教諭免許）

ａ．前年度に教職課程登録等の所定の手続きを行っている者

ｂ．前年度までに以下の科目の単位を修得している者

◆卒業に必要な124単位のうち、76単位以上の単位を修得していること。

◆教科に関する科目のうち、教職センター運営委員会が定める授業科目を履修し、単位を修得していること。

◆教職に関する科目のうち、教職センター運営委員会が定める授業科目を履修し、単位を修得していること。

◆教育学部教育課程の授業科目のうち、教職センター運営委員会が定める授業科目を履修していること。

ｃ．人間教育学部長及び教職センター長が適当と認めた者

④ 教育実習校の選定（小学校教諭免許）

「教育実習」は３年次に実施しますが、２年次から準備が必要です。２年次の５月頃に、「実習校選定のための説明会」を実施します。ここでの手続きを怠ると３年次で「教育実習」の履修登録ができませんので、説明会実施についての掲示に注意してください。

⑤ 教育実習費の納入

教育職員免許状の取得を希望する学生は教育実習費を定められた期日に納入してください。納入方法等については、掲示により連絡します。

教育実習費　２０,０００円

（８）介護等体験について

小・中学校の普通免許状を授与するための要件として、基礎資格及び所定の単位修得に加え介護等体験を必要とします。「小学校及び中学校教諭の普通免許状に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が、平成10年４月１日から施行され、平成10年度以降大学に入学する学生で小学校または中学校の普通免許状を取得しようとする学生は、文部科学大臣が定める社会福祉施設や特別支援学校等において、介護等体験を行い、施設や学校が発行する「介護等体験終了証明書」を免許状の授与申請の際に提出することが義務づけられています。

●介護等体験内容

障害者、高齢者等に対する介護、介助および交流などの体験７日間
（特別支援学校２日間、社会福祉施設５日間）

●介護等体験の申込資格

介護等体験を行うためには、以下の条件をすべて満たしていることが必要です。

①介護等体験実施前年度の修得単位数が30単位以上であること。

②「介護等体験申込書」を期限内に提出し、所定の介護等体験費を納入済みであること。
③「介護体験に係るガイダンス」にすべて出席すること。
④「介護等体験に係る誓約書」が提出済であること。

●注意事項

介護等体験の具体的な体験日程と派遣先は、教育委員会ならびに社会福祉協議会が調整して決定するため、希望は原則として認められません。

３．人間教育学部　　保育士養成課程

保育士養成課程

【平成28年度（2016）入学生対象】

（1）保育士課程の概要

本学の保育士養成課程（以下、保育士課程）は、人間教育学部人間教育学科に定員20名の課程として2016年度に設置されました。本学の保育士課程を修了し、都道府県知事より保育士証の交付を受け、かつ保育士登録事務処理センターで登録申請し、保育士として登録されることにより、保育士として活躍することができます。

本学保育士課程では、保育士として働く意志を持ち、乳幼児を保育・教育する人としてふさわしい教養や人的資質を、一生を通じて養っていくことができる資質を育成することを目指していきます。

（2）保育士資格の取得要件

・学士の学位を有すること。

・保育士資格取得に必要な必修科目52単位、選択必修科目18単位以上、教養科目10単位以上を修得すること。

（3）保育士課程の受講要件

１年次の後期期間中に保育士課程履修願書を提出してください。履修希望者が20名を超えた場合は選考の上、履修許可者を決定します。保育士課程に関する説明会を１年次後期中に開催します。説明会の開催日時等は学内掲示等を参照してください。保育士課程履修希望者が20名を超えない場合でも、面談は行います。

保育士課程履修願書の提出期間及び選考に関する日時等は、学内掲示等を参照してください。

保育士課程の履修を願い出て許可された学生に限り、保育士課程を履修することができます。

保育士課程科目は保育実習科目及び保育実践演習を除いて、支障のない限り、保育士課程学生以外の人間教育学部生でも履修することができます。

（4）保育士課程受講選考方法

選考が行われる場合の選考方法は以下の２点です。

①１年次の GPA。ただし１年次履修単位が30単位未満の学生は対象外とします。

②面接

（5）保育実習について

①実習科目

ａ．必修科目

・「保育所実習Ⅰ」は原則として３年次の８～９月に、保育所において10日間（80時間）実施される観察実習です。

・「施設実習Ⅰ」は原則として３年次の８～９月に、保育所以外の児童福祉

施設等において10日間（80時間）実施される観察実践実習です。

・「保育所実習Ⅱ」は原則として３年次の２～３月に、保育所において行われる実践実習です。

ｂ．選択科目

・「施設実習Ⅱ」は原則として４年次の10月に行われる、保育所以外の児童福祉施設等で行われる実践実習です。

②事前・事後指導科目

「保育所実習Ⅰ」と「施設実習Ⅰ」は「保育実習指導Ⅰ」､「保育所実習Ⅱ」は「保育実習指導Ⅱ」、「施設実習Ⅱ」は「保育実習指導Ⅲ」において、それぞれの実習科目の事前・事後指導を行います。実習指導科目とそれに対応する実習科目はセットで履修登録する必要があります。

③保育実習履修のための条件

保育実習を履修するためには、以下の条件をすべて満たしておく必要があります。

・当該実習科目が開講される前の期の GPA が2.5以上であること。

・当該実習科目が開講される前の期までに開講された保育士課程科目のうち、８割以上の単位が取得できていること。

４．人間教育学部　　授業科目表

平成26～27年度(2014～2015)入学生　人間教育学部　人間教育学科　授業科目表

Ⅰ．共通教育科目

科目区分		授業科目の名称	配当年次 1年 前期	1年 後期	1年 通年	2年 前期	2年 後期	2年 通年	3年 前期	3年 後期	3年 通年	4年 前期	4年 後期	4年 通年	履修区分卒業要件	単位数 必修	単位数 選択	平成28年度担当者
共通教育科目	基礎教養科目	英語Ⅰ	●												必修10単位＋選択16単位以上	1		森(基)
		英語Ⅱ		●												1		森(基)
		英会話Ⅰ	●													1		熊田
		英会話Ⅱ		●												1		熊田
		中国語基礎Ⅰ	○			○			○			○					1	竹田
		中国語基礎Ⅱ		○			○			○			○				1	竹田
		中国語会話		○			○			○			○				1	竹田
		日本語Ⅰ	○			○			○			○					1	鳥谷
		日本語Ⅱ		○			○			○			○				1	鳥谷
		日本語表現Ⅰ	○			○			○			○					1	鳥谷
		日本語表現Ⅱ		○			○			○			○				1	鳥谷
		文学	○			○			○			○					2	阿尾
		哲学		○			○			○			○				2	表
		倫理学		○			○			○			○				2	濱崎
		心理学		○			○			○			○				2	野口
		行動科学の基礎	○			○			○			○					2	不開講
		文化人類学	○			○			○			○					2	森田
		感性・イメージ表現		○			○			○			○				2	不開講
		音楽の世界	○			○			○			○					2	山本
		社会学	○			○			○			○					2	井上
		社会科学の基礎		○			○			○			○				2	西川
		日本国憲法		●			●			●			●			2		小林
		外国史	○			○			○			○					2	渡邊
		地理学	○			○			○			○					2	日下
		数学の世界	○			○			○			○					2	根岸
		物理と地学の基礎		○			○			○			○				2	大原
		環境化学の基礎	○			○			○			○					2	阪元
		実験と科学	○			○			○			○					2	大原
		健康スポーツ(理論)	●			●			●			●				1		清水(啓)
		健康スポーツ(実技)		●			●			●			●			1		清水(啓)、岡部
		スポーツ実技Ⅰ	○			○			○			○					1	岡部、西田
		スポーツ実技Ⅱ		○			○			○			○				1	岡部、西田
	共生教養科目	共生と日本社会	○			○			○			○					2	武谷
		人権論		○			○			○			○				2	小林
		ボランティア活動		○			○			○			○				2	谷口
		生活と環境		○			○			○			○				2	阪元
	奈良・国際科目	奈良学		○			○			○			○				2	桑原
		文化コミュニケーション	○			○			○			○					2	森田
		文化芸術交流論	○			○			○			○					2	吉岡、北村
		文化芸術交流演習		○			○			○			○				1	吉岡、北村
		国際経済事情	○			○			○			○					2	河合
	情報教養科目	情報機器の操作	●			●			●			●				2		杵崎
		情報倫理とセキュリティ		○			○			○			○				2	濱崎
		シミュレーションの世界		○			○			○			○				2	杵崎
		データの世界		○			○			○			○				2	杵崎
		ＣＧの基礎と演習	○			○			○			○					2	羽太
	キャリア形成科目	キャリアデザインⅠ	○														1	岡野
		キャリアデザインⅡ		○													1	岡野
		キャリアディベロップメントⅠ				○											1	岡野
		キャリアディベロップメントⅡ					○										1	岡野
		キャリアスキルアップⅠ							○								1	岡野
		キャリアスキルアップⅡ								○							1	岡野
		インターンシップ								○	○						2	岡野

※「中国語基礎Ⅱ」は「中国語基礎Ⅰ」を修得した者のみが履修できる。

※「文化芸術交流演習」は「文化芸術交流論」を修得した者のみが履修できる。

Ⅱ．専門教育科目

科目区分			授業科目の名称	配当年次 1年 前期	1年 後期	1年 通年	2年 前期	2年 後期	2年 通年	3年 前期	3年 後期	3年 通年	4年 前期	4年 後期	4年 通年	履修区分卒業要件	単位数 必修	単位数 選択	平成28年度担当者
専門科目	基礎科目	教育学の基礎に関する理解	教育心理学A(初等)				●									２４単位以上（必修３０単位）	2		岡村
			教育心理学B(中等)				○											2	岡村
			発達心理学A(初等)	○														2	高木
			発達心理学B(中等)	○														2	高木
			教育行政学A(初等)				●										2		西辻
			教育行政学B(中等)					○										2	西辻
			教職入門A(初等)	●													2		鎌田
			教職入門B(中等)	○														2	瀧明
			教育原理A(初等)		●												2		松田
			教育原理B(中等)		○													2	松田
			学力と評価				○											2	鎌田
			言葉の理解					●									2		伊﨑
			社会の理解		●												2		中田
			数の理解		●												2		金山
			自然の理解				●										2		太田
			生活の理解		●												2		善野
			音楽の理解	●													2		山本
			美術の理解	●													2		松井
			衣食住の理解				○											2	西江
			運動・健康の理解				●										2		森(一)
			書写演習(小)					○										2	小竹
			器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)	○														2	瀧明
			器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)					○										2	瀧明
			器楽演習Ⅲ(パーカッション)	○														2	大西
			器楽演習Ⅳ(パーカッション)		○													2	大西
			行動の科学					○										2	高木
			食の心理					○										2	高木
			国語学入門				○											2	桑原
			国語学Ⅰ					○										2	桑原
			国文学入門				○											2	阿尾
			国文学Ⅰ					○										2	阿尾
			漢文学入門				○											2	山田
			漢文学Ⅰ					○										2	山田
			書写・書道入門		○													2	小竹
			書写・書道Ⅰ				○											2	小竹
		人間教育学の基礎に関する理解	人間教育学Ⅰ(入門)	●													2		梶田
			人間教育学Ⅱ(応用)				●										2		梶田
			ことばとコミュニケーション		○													2	伊﨑
			教育と日本の伝統文化入門		●												2		梶田、渡邉
			教育と日本の伝統文化演習				○											1	梶田、伊﨑、小竹、渡邉
			異文化コミュニケーション				○											2	熊田
			英米文学				○											2	熊田
			英語とテレビに見る異文化					○										2	熊田
			コミュニティと音楽文化					○										2	山本

科目区分			授業科目の名称	配当年次												履修区分卒業要件	単位数		平成28年度担当者
				1年			2年			3年			4年						
				前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年		必修	選択	
専門科目	発展科目	現代教育・教育経営に関する理解	現代教育論					○								32単位以上		2	鎌田
			現代教育課題A(不登校・いじめ)							○								2	増井
			現代教育課題B(特別支援)							○								2	厨子
			現代教育課題C(学校と安全)								○							2	松井
			現代教育課題D(学校における異文化理解)								○							2	オチャンテ
			幼児理解				○											2	土谷
			保育相談支援					○										2	岡村
			教育相談の理論と方法A(初等)								●						2		岡村
			教育相談の理論と方法B(中等)								○							2	岡村
		教育実践の理解	保育課程総論				○											2	土谷
			子どもと健康				○											2	土谷
			子どもと人間関係					○										2	土谷
			子どもと環境				○											2	岡野
			子どもと言葉					○										2	伊﨑
			子どもと表現(体育)				○											2	森(一)
			子どもと表現(図工)					○										2	松井
			子どもと表現(音楽)					○										2	山本
			教育課程論A(初等)							●							2		佃
			教育課程論B(中等)							○								2	佃
			道徳教育の指導法A(初等)								●						2		増井
			道徳教育の指導法B(中等)							○								2	増井
			教育方法・技術論A(初等)								●						2		金山・米川
			教育方法・技術論B(中等)								○							2	西辻・米川
			特別活動の指導法A(初等)					●									2		松田
			特別活動の指導法B(中等)					○										2	松田
			生徒指導・進路指導論A(初等)					●									2		松岡
			生徒指導・進路指導論B(中等)				○											2	松岡
			国語科指導法							●							2		伊﨑
			社会科指導法				●										2		中田
			算数科指導法				●										2		金山
			理科指導法							●							2		太田
			生活科指導法					●									2		善野
			音楽科指導法					●									2		山本
			器楽･歌唱の指導法								○							2	瀧明
			図工科指導法					●									2		松井
			家庭科指導法								●						2		西江
			体育科指導法							●							2		森(一)
			体育実技の指導法								○							2	森(一)
			総合的な学習の時間					○										2	森(一)
			小学校外国語活動の指導法					○										2	熊田
			国語学Ⅱ							○								2	桑原
			国語学特論										○					2	
			語学・文学総合演習Ⅰ(国語学)								○							2	桑原
			国文学Ⅱ							○								2	阿尾
			国文学特論										○					2	
			語学・文学総合演習Ⅱ(国文学)								○							2	阿尾
			漢文学Ⅱ							○								2	山田
			漢文学特論										○					2	
			語学・文学総合演習Ⅲ(漢文学)								○							2	山田
			書写・書道Ⅱ							○								2	小竹
			国語科教育法Ⅰ					○										2	西辻
			国語科教育法Ⅱ							○								2	西辻
			国語科教育法Ⅲ							○								2	西辻
			国語科教育法Ⅳ								○							2	西辻
		教職キャリア形成	教職表現力演習Ⅰ			○												1	岡野、岡村、オチャンテ、桑原、高木
			教職表現力演習Ⅱ						○									1	岡野、岡村、オチャンテ、桑原、高木

科目区分			授業科目の名称	配当年次												履修区分卒業要件	単位数		平成28年度担当者
				1年			2年			3年			4年						
				前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年		必修	選択	
専門科目	演習実習科目	人間教育学演習	人間教育実践力開発演習Ⅰ			○										１６単位以上		1	阿尾、伊﨑、鎌田、善野、松井、西江
			人間教育実践力開発演習Ⅱ						○									1	阿尾、伊﨑、鎌田、善野、松井、西江
			人間教育実践力開発演習Ⅲ									○						1	阿尾、伊﨑、鎌田、善野、松井、西江
			人間教育実践力開発演習Ⅳ												○			1	
		教育実践実習	教育実習事前事後指導(幼)												○			1	
			教育実習Ⅰ(幼)										○					2	
			教育実習Ⅱ(幼)										○					2	
			教育実習事前事後指導(小)									●					1		伊﨑、太田、金山、鎌田、熊田、善野、増井、松井、森（一）、西江
			教育実習Ⅰ(小)							●							2		伊﨑、太田、金山、鎌田、熊田、善野、増井、松井、森（一）、西江
			教育実習Ⅱ(小)							●							2		伊﨑、太田、金山、鎌田、熊田、善野、増井、松井、森（一）、西江
			教育実習事前事後指導(中・高)												○			1	
			教育実習Ⅰ(中・高)										○					2	
			教育実習Ⅱ(中)										○					2	
			教職実践演習(幼・小)											●			2		
			教職実践演習(中・高)											○				2	
		ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ			●											2		阿尾、伊﨑、善野、松井、西江
			基礎ゼミナールⅡ						●								2		太田、金山、高木、土谷、森(一)
			人間教育学ゼミナールⅠ(基礎)									○						4	伊﨑、岡野、岡村、金山、鎌田、熊田、桑原、小竹、善野、高木、竹田、土谷、増井、松井、松田、森（一）、山本、渡邉
			人間教育学ゼミナールⅡ(応用)												○			4	
			卒業研究											○				4	
関連科目		学校図書館司書教諭免許取得	学校経営と学校図書館										○			共通教育科目、専門科目のうちから26単位以上及び関連科目※		2	
			学校図書館メディアの構成										○					2	
			学習指導と学校図書館										○					2	
			読書と豊かな人間性											○				2	
			情報メディアの活用											○				2	
		日本語教師資格	言語学概論										○					2	
			社会言語学							○								2	鳥谷
			日本事情								○							2	渡邉
			日本語教育入門								○							2	鳥谷
			日本語教育指導法・教材研究										○					2	
			日本語教育実習事前事後指導										○					1	
			日本語教育実習(国内又は海外)										○					2	

註1　●＝必修科目　　○＝選択科目

註2　【卒業要件単位　１２４単位】

① 共通教育科目２６単位以上（必修１０単位を含む）

② 専門科目のうち、基礎科目２４単位以上（必修科目３０単位を含む）

③ 専門科目のうち、発展科目３２単位以上（必修科目３０単位を含む）

④ 専門科目のうち、演習実習科目１６単位以上（必修科目１１単位を含む）

⑤ 共通教育科目、専門教育科目、関連科目から２６単位以上

※ただし、年間履修単位の上限は４５単位とする。

平成28年度(2016)入学生　人間教育学部　人間教育学科　授業科目表

Ⅰ. 共通教育科目

科目区分		授業科目の名称	配当年次 1年 前期	1年 後期	1年 通年	2年 前期	2年 後期	2年 通年	3年 前期	3年 後期	3年 通年	4年 前期	4年 後期	4年 通年	履修区分卒業要件	単位数 必修	単位数 選択	平成28年度担当者
共通教育科目	基礎教養科目	英語Ⅰ	●												必修10単位＋選択16単位以上	1		森(基)
		英語Ⅱ		●												1		森(基)
		英会話Ⅰ	●													1		熊田
		英会話Ⅱ		●												1		熊田
		中国語基礎Ⅰ	○			○			○			○					1	竹田
		中国語基礎Ⅱ		○			○			○			○				1	竹田
		中国語会話		○			○			○			○				1	竹田
		日本語Ⅰ	○			○			○			○					1	烏谷
		日本語Ⅱ		○			○			○			○				1	烏谷
		日本語表現Ⅰ	○			○			○			○					1	烏谷
		日本語表現Ⅱ		○			○			○			○				1	烏谷
		文学	○			○			○			○					2	阿尾
		哲学		○			○			○			○				2	表
		倫理学		○			○			○			○				2	濱崎
		心理学		○			○			○			○				2	野口
		行動科学の基礎	○			○			○			○					2	不開講
		文化人類学	○			○			○			○					2	森田
		感性・イメージ表現		○			○			○			○				2	不開講
		音楽の世界	○			○			○			○					2	山本
		社会学	○			○			○			○					2	井上
		社会科学の基礎		○			○			○			○				2	西川
		日本国憲法		●			●			●			●			2		小林
		外国史	○			○			○			○					2	渡邊
		地理学	○			○			○			○					2	日下
		数学の世界	○			○			○			○					2	根岸
		物理と地学の基礎		○			○			○			○				2	大原
		環境化学の基礎	○			○			○			○					2	阪元
		実験と科学	○			○			○			○					2	大原
		健康スポーツ(理論)	●			●			●			●				1		清水(啓)
		健康スポーツ(実技)		●			●			●			●			1		清水(啓)、岡部
		スポーツ実技Ⅰ	○			○			○			○					1	岡部、西田
		スポーツ実技Ⅱ		○			○			○			○				1	岡部、西田
	共生教養科目	共生と日本社会	○			○			○			○					2	武谷
		人権論		○			○			○			○				2	小林
		ボランティア活動		○			○			○			○				2	谷口
		生活と環境		○			○			○			○				2	阪元
	奈良・国際科目	奈良学		○			○			○			○				2	桑原
		文化コミュニケーション	○			○			○			○					2	森田
		文化芸術交流論	○			○			○			○					2	吉岡、北村
		文化芸術交流演習		○			○			○			○				1	吉岡、北村
		国際経済事情	○			○			○			○					2	河合
	情報教養科目	情報機器の操作	●			●			●			●				2		杵崎
		情報倫理とセキュリティ		○			○			○			○				2	濱崎
		シミュレーションの世界		○			○			○			○				2	杵崎
		データの世界		○			○			○			○				2	杵崎
		ＣＧの基礎と演習	○			○			○			○					2	羽太
	キャリア形成科目	キャリアデザインⅠ	○														1	岡野
		キャリアデザインⅡ		○													1	岡野
		キャリアディベロップメントⅠ				○											1	岡野
		キャリアディベロップメントⅡ					○										1	岡野
		キャリアスキルアップⅠ							○								1	岡野
		キャリアスキルアップⅡ								○							1	岡野
		インターンシップ								○							2	岡野

※「中国語基礎Ⅱ」は「中国語基礎Ⅰ」を修得した者のみが履修できる。

※「文化芸術交流演習」は「文化芸術交流論」を修得した者のみが履修できる。

Ⅱ．専門教育科目

科目区分			授業科目の名称	配当年次 1年 前期	1年 後期	1年 通年	2年 前期	2年 後期	2年 通年	3年 前期	3年 後期	3年 通年	4年 前期	4年 後期	4年 通年	履修区分卒業要件	単位数 必修	単位数 選択	平成28年度担当者
専門科目	基礎科目	教育学の基礎に関する理解	教育心理学A(初等)				●									２４単位以上（必修３０単位）	2		岡村
			教育心理学B(中等)				○											2	岡村
			発達心理学A(初等)	○														2	高木
			発達心理学B(中等)	○														2	高木
			保育の心理学Ⅰ							○								2	
			保育の心理学Ⅱ								○							1	
			教育行政学A(初等)				●										2		西辻
			教育行政学B(中等)					○										2	西辻
			教職入門A(初等)	●													2		鎌田
			教職入門B(中等)	○														2	瀧明
			保育者論					○										2	
			教育原理A(初等)		●												2		松田
			教育原理B(中等)		○													2	松田
			保育原理		○													2	森本
			学力と評価				○											2	鎌田
			言葉の理解					●									2		伊﨑
			社会の理解		●												2		中田
			数の理解		●												2		金山
			自然の理解				●										2		太田
			生活の理解		●												2		善野
			音楽の理解	●													2		山本
			美術の理解	●													2		松井
			衣食住の理解				○											2	西江
			運動・健康の理解				●										2		森(一)
			書写演習(小)					○										2	小竹
			器楽演習Ⅰ(鍵盤楽器)	○														2	瀧明
			器楽演習Ⅱ(鍵盤楽器)					○										2	瀧明
			器楽演習Ⅲ(パーカッション)	○														2	大西
			器楽演習Ⅳ(パーカッション)		○													2	大西
			行動の科学					○										2	高木
			食の心理					○										2	高木
			国語学入門				○											2	桑原
			国語学Ⅰ					○										2	桑原
			国文学入門				○											2	阿尾
			国文学Ⅰ					○										2	阿尾
			漢文学入門				○											2	山田
			漢文学Ⅰ					○										2	山田
			書写・書道入門		○													2	小竹
			書写・書道Ⅰ				○											2	小竹
		人間教育学の基礎に関する理解	人間教育学Ⅰ(入門)	●													2		梶田
			人間教育学Ⅱ(応用)				●										2		梶田
			ことばとコミュニケーション		○													2	伊﨑
			教育と日本の伝統文化入門		●												2		梶田、渡邉
			教育と日本の伝統文化演習				○											1	梶田、伊﨑、小竹、渡邉
			異文化コミュニケーション				○											2	熊田
			英米文学				○											2	熊田
			英語とテレビに見る異文化					○										2	熊田
			コミュニティと音楽文化					○										2	山本

科目区分			授業科目の名称	配当年次 1年 前期	1年 後期	1年 通年	2年 前期	2年 後期	2年 通年	3年 前期	3年 後期	3年 通年	4年 前期	4年 後期	4年 通年	履修区分卒業要件	単位数 必修	単位数 選択	平成28年度担当者
専門科目	発展科目	現代教育・教育経営に関する理解	現代教育論					○								３２単位以上		2	鎌田
			現代教育課題A(不登校・いじめ)							○								2	増井
			現代教育課題B(特別支援)							○								2	厨子
			現代教育課題C(学校と安全)								○							2	松井
			現代教育課題D(学校における異文化理解)								○							2	オチャンテ
			幼児理解				○											2	土谷
			保育相談支援					○										2	岡村
			教育相談の理論と方法A(初等)								●						2		岡村
			教育相談の理論と方法B(中等)								○							2	岡村
		教育実践の理解	保育課程総論				○											2	土谷
			保育内容総論					○										1	
			子どもと健康				○											2	土谷
			子どもと人間関係					○										2	土谷
			子どもと環境				○											2	岡野
			子どもと言葉					○										2	伊﨑
			子どもと表現(体育)				○											2	森(一)
			子どもと表現(図工)					○										2	松井
			子どもと表現(音楽)					○										2	山本
			表現演習							○								2	
			保育内容Ⅰ（健康・人間関係）							○								2	
			保育内容Ⅱ（環境）							○								2	
			保育内容Ⅲ（言葉・表現）								○							2	
			教育課程論A(初等)							●							2		佃
			教育課程論B(中等)							○								2	佃
			道徳教育の指導法A(初等)								●						2		増井
			道徳教育の指導法B(中等)							○								2	増井
			教育方法・技術論A(初等)								●						2		金山・米川
			教育方法・技術論B(中等)								○							2	西辻・米川
			特別活動の指導法A(初等)					●									2		松田
			特別活動の指導法B(中等)				○											2	松田
			生徒指導・進路指導論A(初等)					●									2		松岡
			生徒指導・進路指導論B(中等)				○											2	松岡
			国語科指導法							●							2		伊﨑
			社会科指導法				●										2		中田
			算数科指導法				●										2		金山
			理科指導法							●							2		太田
			生活科指導法					●									2		善野
			音楽科指導法					●									2		山本
			器楽･歌唱の指導法								○							2	瀧明
			図工科指導法					●									2		松井
			家庭科指導法								●						2		西江
			体育科指導法							●							2		森(一)
			体育実技の指導法								○							2	森(一)
			総合的な学習の時間					○										2	森(一)
			小学校外国語活動の指導法					○										2	熊田
			国語学Ⅱ							○								2	桑原
			国語学特論										○					2	
			語学・文学総合演習Ⅰ(国語学)								○							2	桑原
			国文学Ⅱ							○								2	阿尾
			国文学特論										○					2	
			語学・文学総合演習Ⅱ(国文学)								○							2	阿尾
			漢文学Ⅱ							○								2	山田
			漢文学特論										○					2	
			語学・文学総合演習Ⅲ(漢文学)								○							2	山田
			書写・書道Ⅱ							○								2	小竹
			国語科教育法Ⅰ					○										2	西辻
			国語科教育法Ⅱ							○								2	西辻
			国語科教育法Ⅲ							○								2	西辻
			国語科教育法Ⅳ								○							2	西辻
		教職キャリア形成	教職表現力演習Ⅰ			○												1	岡野、岡村、オチャンテ、桑原、高木
			教職表現力演習Ⅱ						○									1	岡野、岡村、オチャンテ、桑原、高木

科目区分			授業科目の名称	配当年次 1年 前期	1年 後期	1年 通年	2年 前期	2年 後期	2年 通年	3年 前期	3年 後期	3年 通年	4年 前期	4年 後期	4年 通年	履修区分 卒業要件	単位数 必修	単位数 選択	平成28年度担当者
専門科目	演習実習科目	人間教育学演習	人間教育実践力開発演習Ⅰ			○										16単位以上		1	阿尾、伊﨑、鎌田、善野、松井、西江
			人間教育実践力開発演習Ⅱ						○									1	阿尾、伊﨑、鎌田、善野、松井、西江
			人間教育実践力開発演習Ⅲ									○						1	阿尾、伊﨑、鎌田、善野、松井、西江
			人間教育実践力開発演習Ⅳ												○			1	
		教育実践実習	保育所実習Ⅰ							○								2	
			施設実習Ⅰ							○								2	
			保育実習指導Ⅰ							○								2	
			保育所実習Ⅱ								○							2	
			施設実習Ⅱ								○							2	
			保育実習指導Ⅱ								○							1	
			保育実習指導Ⅲ										○					1	
			教育実習事前事後指導(幼)												○			1	
			教育実習Ⅰ(幼)										○					2	
			教育実習Ⅱ(幼)										○					2	
			教育実習事前事後指導(小)									●					1		伊﨑、太田、金山、鎌田、熊田、善野、増井、松井、森（一）、西江
			教育実習Ⅰ(小)							●							2		伊﨑、太田、金山、鎌田、熊田、善野、増井、松井、森（一）、西江
			教育実習Ⅱ(小)							●							2		伊﨑、太田、金山、鎌田、熊田、善野、増井、松井、森（一）、西江
			教育実習事前事後指導(中・高)												○			1	
			教育実習Ⅰ(中・高)										○					2	
			教育実習Ⅱ(中)										○					2	
			保育実践演習										○					2	
			教職実践演習(幼・小)											●			2		
			教職実践演習(中・高)											○				2	
		ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ			●											2		阿尾、伊﨑、善野、松井、西江
			基礎ゼミナールⅡ						●								2		太田、金山、高木、土谷、森(一)
			人間教育学ゼミナールⅠ(基礎)									○						4	伊﨑、岡野、岡村、金山、鎌田、熊田、桑原、小竹、善野、高木、竹田、土谷、増井、松井、松田、森（一）、山本、渡邉
			人間教育学ゼミナールⅡ(応用)												○			4	
			卒業研究											○				4	
関連科目		学校図書館司書教諭免許取得	学校経営と学校図書館										○			※共通教育科目、専門科目及び関連科目のうちから26単位以上		2	
			学校図書館メディアの構成										○					2	
			学習指導と学校図書館										○					2	
			読書と豊かな人間性											○				2	
			情報メディアの活用											○				2	
		日本語教師資格	言語学概論										○					2	
			社会言語学							○								2	鳥谷
			日本事情								○							2	渡邉
			日本語教育入門								○							2	鳥谷
			日本語教育指導法・教材研究										○					2	
			日本語教育実習事前事後指導										○					1	
			日本語教育実習(国内又は海外)										○					2	
		幼児保育	児童家庭福祉							○								2	
			社会福祉				○											2	
			相談援助								○							1	
			社会的養護								○							2	
			子どもの保健Ⅰ									○						4	
			子どもの保健Ⅱ										○					1	
			子どもの食と栄養				○											2	
			家庭支援論								○							2	
			乳児保育		○													2	土谷
			障害児保育							○								2	
			社会的養護内容										○					1	
			保育相談								○							1	

註1 ●＝必修科目　　○＝選択科目

註2 【卒業要件単位　１２４単位】

① 共通教育科目２６単位以上（必修１０単位を含む）

② 専門科目のうち、基礎科目２４単位以上（必修科目３０単位を含む）

③ 専門科目のうち、発展科目３２単位以上（必修科目３０単位を含む）

④ 専門科目のうち、演習実習科目１６単位以上（必修科目１１単位を含む）

⑤ 共通教育科目、専門教育科目、関連科目から２６単位以上

※ただし、年間履修単位の上限は４５単位とする。

人間教育学部　人間教育学科　平成28年度（2016）入学生

保育士資格

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					配当	開講時期	平成28年度担当者
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数 必修	選択	計			
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	日本国憲法	講義	2		2	1	後期	小林
				情報機器の操作	講義	2		2	1	前期	杵崎
				キャリアデザインⅠ	演習		1	1	1	前期	岡野
				キャリアデザインⅡ	演習		1	1	1	後期	岡野
				キャリアディベロップメントⅠ	演習		1	1	2	前期	
				キャリアディベロップメントⅡ	演習		1	1	2	後期	
				キャリアスキルアップⅠ	演習		1	1	3	前期	
				キャリアスキルアップⅡ	演習		1	1	3	後期	
	外国語	演習	2以上	英会話Ⅰ	演習	1		1	1	前期	熊田
				英会話Ⅱ	演習	1		1	1	後期	熊田
	体　育	講義	1	健康スポーツ（理論）	講義	1		1	1	前期	清水
		実技	1	健康スポーツ（実技）	実技	1		1	1	後期	清水、岡部
合　　計		10単位以上				8	6	14			
				14単位（≧10単位）							

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					配当	開講時期	平成28年度担当者
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数 必修	選択	計			
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		2	1	後期	森本
	教育原理	講義	2	教育原理A（初等）	講義	2		2	1	後期	松田
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義	2		2	3	前期	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		2	2	前期	
	相談援助	演習	1	相談援助	演習	1		1	3	後期	
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義	2		2	3	後期	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		2	2	後期	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	講義	2	保育の心理学Ⅰ	講義	2		2	3	前期	
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	保育の心理学Ⅱ	演習	1		1	3	後期	
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	子どもの保健Ⅰ	講義	4		4	3	通年	
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	子どもの保健Ⅱ	演習	1		1	4	前期	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		2	2	前期	
	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義	2		2	3	後期	
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	保育課程総論	講義	2		2	2	前期	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	1		1	2	後期	
	保育内容演習	演習	5	保育内容Ⅰ（健康・人間関係）	演習	2		2	3	前期	
				保育内容Ⅱ（環境）	演習	2		2	3	前期	
				保育内容Ⅲ（言葉・表現）	演習	2		2	3	後期	
	乳児保育	演習	2	乳児保育	演習	2		2	1	後期	土谷
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2		2	3	前期	
	社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習	1		1	4	前期	
	保育相談支援	演習	1	保育相談	演習	1		1	3	後期	
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	表現演習	演習	2		2	3	前期	
				器楽演習Ⅰ（鍵盤楽器）	演習	2		2	1	前期	瀧明
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育所実習Ⅰ	実習	2/4		2/4	3	前期	
				施設実習Ⅰ	実習	2/4		2/4	3	前期	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ	演習	2		2	3	前期	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習	2		2	4	前期	
合　　計		51単位				52		52			
				52単位（≧51単位）							

告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					配当	開講時期	平成28年度担当者
系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数 必修	選択	計			
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15単位以上	教職入門A（初等）	講義	2		2	1	前期	鎌田
				教育行政学A（初等）	講義	2		2	2	前期	西辻
				人間教育学Ⅰ（入門）	講義	2		2	1	前期	梶田
				人間教育学Ⅱ（応用）	講義	2		2	2	前期	梶田
保育の対象の理解に関する科目				教育心理学A（初等）	講義	2		2	2	前期	岡村
				発達心理学A（初等）	講義	2		2	1	前期	高木
				幼児理解	講義		2	2	2	前期	土谷
				保育相談支援	講義		2	2	2	後期	岡村
保育の内容・方法に関する科目				子どもと健康	講義		2	2	2	前期	土谷
				子どもと人間関係	講義		2	2	2	後期	土谷
				子どもと環境	講義		2	2	2	前期	岡野
				子どもと言葉	講義		2	2	2	後期	伊﨑
				子どもと表現（体育）	講義		2	2	2	前期	森（一）
				子どもと表現（図工）	講義		2	2	2	後期	松井
				子どもと表現（音楽）	講義		2	2	2	後期	山本
				教育方法・技術論A（初等）	講義	2		2	3	後期	金山、米川
保育の表現技術				音楽科指導法	講義	2		2	2	後期	山本
				器楽・歌唱の指導法	演習		2	2	3	後期	瀧明
				図工科指導法	講義	2		2	2	後期	松井
				体育実技の指導法	講義		2	2	3	後期	森（一）
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育所実習Ⅱ	実習	2		2	3	後期	
				施設実習Ⅱ	実習		2	2	3	後期	
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育所実習指導Ⅱ	演習	1		1	3	後期	
				保育実習指導Ⅲ	演習		1	1	4	前期	
合　計		18単位以上				21	25	46			
				46単位（≧18単位）							

	当該養成施設における教科の開設状況等					配当	開講時期	平成28年度担当者
	左に対応して開設されている教科目	授業形態	単位数 必修	選択	計			
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目	衣食住の理解	講義		2	2	2	前期	西江
	行動の科学	講義		2	2	2	後期	高木
	食の心理	講義		2	2	2	後期	高木
	ことばとコミュニケーション	講義		2	2	1	後期	伊﨑
	英語とテレビに見る異文化	講義		2	2	2	後期	熊田
	生活科指導法	講義	2		2	2	後期	善野
	家庭科指導法	講義	2		2	3	後期	西江
	体育科指導法	講義	2		2	3	前期	森（一）
合　計			6	10	16			

ビジネス学部

　履修計画をたてるには、この項に記載してある履修規程及び一般的注意事項をよく理解する必要があります。これらの事項を理解して履修登録を行い、卒業に必要な単位を修得していくように努めてください。

１．ビジネス学部　　規程関係

ビジネス学部　ビジネス学科　履修規程

－平成23年度以降入学生対象－

（総　　則）

第１条　本学学則第20条第３項の規定に基づき、ビジネス学部ビジネス学科（以下「本学科」）の教育課程及び授業科目の履修については、この規程の定めるところによる。

（卒業資格）

第２条　本学科を卒業するためには、４年以上在学し、次条以下の規定に従い、124単位以上を修得しなければならない。

（授業科目の区分）

第３条　授業科目は、これを共通教育科目及び専門教育科目に区分する。

２　共通教育科目は、これを導入基礎科目、外国語科目、キャリア形成科目、スポーツ関連科目及び教養教育科目に区分する。

３　専門教育科目は、これを専門基礎科目、専門科目及び演習科目に区分する。

（授業科目の履修）

第４条　本学科授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

（１）共通教育科目	４４単位以上
うち外国語科目	４単位以上
うち導入基礎科目、キャリア形成科目、スポーツ関連科目及び教養教育科目	４０単位以上
（２）専門教育科目	８０単位以上
うち専門基礎科目	８単位以上
うち専門科目	６０単位以上
うち演習科目	１２単位以上

２　前項の規定にかかわらず、次の各号を適用することができる。

（１）　外国語科目を４単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は導入基礎科目、キャリア形成科目、スポーツ関連科目及び教養教育科目の単位として認められる。

（２）　専門基礎科目を８単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の単位として認められる。

（３）　演習科目を12単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の単位として認められる。

３　教育職員免許状の授与を得るために必要な授業科目の履修については、別に定める「教育職員免許取得細則」によるものとする。

（総合演習、プレ・プロジェクト演習及びプロジェクト演習）

第５条　演習科目のうち総合演習、プレ・プロジェクト演習及びプロジェクト演習の履修については、それぞれ別に定める「総合演習の実施要領」「プレ・プ

ロジェクト演習の実施要領」及び「プロジェクト演習の実施要領」によるものとする。

（単　　位）

第６条　各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする内容をもって１単位とする。

２　各授業科目については、15時間の授業をもって１単位とする。ただし、導入基礎科目、外国語科目及びスポーツ関連科目のうち実技については、30時間の授業をもって１単位とする。

（配当年次）

第７条　各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。

（授業科目の履修制限）

第８条　授業科目については、原則として、第１学期から第６学期の各学期においては22単位、第７学期以降の各学期においては26単位、を超えて履修することができない。ただし、履修制限単位数の緩和措置等が適用される場合についてはこの限りではない。

２　教職課程における教職に関する科目については、前項の履修制限の単位数に含めない。

（履修登録）

第９条　履修登録は、各学期始めに年２回行わなければならない。

（履修登録の制限）

第10条　授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。

２　同時限に開講される授業科目は、１科目しか登録することができない。

（再登録）

第11条　単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。

２　単位を修得することができなかった授業科目は、第８条に定める履修制限内において再登録をすることができる。

（履修登録の変更）

第12条　履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。

２　教授会が特に認める場合は、前項の規定を適用しない。

（授業科目の開講）

第13条　授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。

（授業の組分け）

第14条　履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。

（単位の認定）

第15条　担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という）、または平素の履修状況（出席、学習態度等）により

学修の成果を評価して単位を与える。

2　原則として、その授業科目の授業回数の３分の２以上出席していることを要件とする。

3　前項に定めるほか、教授会は別に定める実施要領に基づき単位を与えることができる。

（単位認定を受ける資格）

第16条　次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。

（１）　授業料その他諸納入金が未納であるとき

（２）　履修登録をしていないとき

（試験等の成績評価）

第17条　試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。

（１）	100点から90点まで	秀
（２）	89点から80点まで	優
（３）	79点から70点まで	良
（４）	69点から60点まで	可
（５）	59点以下	不可（不合格）

（受験上の注意）

第18条　学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

2　試験中に不正行為をした者については、当該学期に履修登録した全授業科目の単位を無効とする。ただし、演習科目についてはこの限りでない。

（再試験等）

第19条　試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。再試験等の実施については、別に定める「再試験等の実施要領」によるものとする。

2　再試験等で合格した者の成績評価は、60点（可）とする。

（追試験等）

第20条　病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。追試験等の実施については、別に定める「追試験等の実施要領」によるものとする。

2　追試験等の結果の成績は、一割減とする。

附　則

この規程は、平成23年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成24年４月１日から施行する。

ビジネス学部　ビジネス学科　履修規程

－平成19～22年度入学生対象－

（総　　則）

第１条　本学学則第20条第３項の規定に基づき、ビジネス学部ビジネス学科（以下「本学科」）の教育課程及び授業科目の履修については、この規程の定めるところによる。

（卒業資格）

第２条　本学科を卒業するためには、４年以上在学し、次条以下の規定に従い、124単位以上を修得しなければならない。

（授業科目の区分）

第３条　授業科目は、これを共通教育科目及び専門教育科目に区分する。

２　共通教育科目は履修区分として共通基礎科目、教養教育科目、外国語科目及びキャリア形成科目に分ける。

３　専門教育科目は履修区分として専門基礎科目、専門科目及び演習科目に分ける。

（授業科目の履修）

第４条　本学科授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

（１）　共通基礎科目　８単位以上
（２）　教養教育科目　２４単位以上
（３）　外国語科目　４単位以上
（４）　キャリア形成科目　８単位以上
（５）　専門基礎科目　１４単位以上
（６）　専門科目　３６単位以上
（７）　演習科目　３０単位以上

２　前項の規定にかかわらず、次の各号を適用することができる。

（１）　外国語科目を４単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は教養教育科目の単位として認められる。

（２）　キャリア形成科目を８単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の単位として認められる。

（３）　専門基礎科目を14単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の単位として認められる。

（４）　演習科目を30単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の単位として認められる。

（５）　演習科目については、12単位を限度として、専門科目として認められた単位数でもって代替することができる。

（教育職員免許取得）

第４条の２　教育職員免許状の授与を得るために必要な授業科目の履修については、別に定める「教育職員免許取得細則」によるものとする。

（総合演習、専門演習及びプロジェクト演習）

第５条　演習科目のうち総合演習、専門演習及びプロジェクト演習の履修については、それぞれ別に定める「総合演習の実施要領」「専門演習の実施要領」及び「プロジェクト演習の実施要領」によるものとする。

（単　　位）

第６条　各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする内容をもって１単位とする。

２　各授業科目については、15時間の授業をもって１単位とする。ただし、共通基礎科目については、30時間の授業をもって１単位とする。

（配当年次）

第７条　各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。

（授業科目の履修制限）

第８条　各学期においては、原則として22単位を超えて履修することができない。ただし、第７学期以降においては、最高26単位まで履修することができる。

２　教職課程における教職に関する科目については、前項の履修制限の単位数に含めない。

（履修登録）

第９条　履修登録は、各学期始めに年２回行わなければならない。

（履修登録の制限）

第10条　授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。

２　同時限に開講される授業科目は、１科目しか登録することができない。

（再登録）

第11条　単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。

２　単位を修得することができなかった授業科目は、第８条に定める履修制限内において再登録をすることができる。

（履修登録の変更）

第12条　履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。

２　教授会が特に認める場合は、前項の規定を適用しない。

（授業科目の開講）

第13条　授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。

（授業の組分け）

第14条　履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。

（単位の認定）

第15条　担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という）、または平素の履修状況（出席、学習態度等）により学修の成果を評価して単位を与える。

２　原則として、その授業科目の授業回数の３分の２以上出席していることを要件とする。

３　前項に定めるほか、教授会は別に定める実施要領に基づき単位を与えることができる。

（単位認定を受ける資格）

第16条　次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。

（１）授業料その他諸納入金が未納であるとき

（２）履修登録をしていないとき

（試験等の成績評価）

第17条　試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。

（１）	100点から90点まで	秀
（２）	89点から80点まで	優
（３）	79点から70点まで	良
（４）	69点から60点まで	可
（５）	59点以下	不可（不合格）

（受験上の注意）

第18条　学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

２　試験中に不正行為をした者については、当該学期に履修登録した全授業科目の単位を無効とする。ただし、演習科目についてはこの限りでない。

（再試験等）

第19条　試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。再試験等の実施については、別に定める「再試験等の実施要領」によるものとする。

２　再試験等で合格した者の成績評価は、60点（可）とする。

（追試験等）

第20条　病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。追試験等の実施については、別に定める「追試験等の実施要領」によるものとする。

２　追試験等の結果の成績は、一割減とする。

附　則

この規程は、平成19年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成20年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成23年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成24年４月１日から施行する。

ビジネス学部　ビジネス学科　履修規程

－平成25年度以降３年次編入学生対象－

（総　　則）

第１条　本学則第20条第３項の規定に基づき、ビジネス学部ビジネス学科（以下「本学科」）の教育課程及び授業科目の履修については、この規定の定めるところによる。

（卒業資格）

第２条　本学科を卒業するためには、２年以上在学し、次条以下の規定に従い、編入学時に認定された単位を含む124単位以上を修得しなければならない。

（授業科目の区分）

第３条　授業科目は、これを共通教育科目及び専門教育科目に区分する。

２　共通教育科目は履修区分として導入基礎科目、外国語科目、キャリア形成科目、スポーツ関連科目及び教養教育科目に分ける。

３　専門教育科目は履修区分として専門基礎科目、専門科目及び演習科目に分ける。

（授業科目の履修）

第４条　本学科授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

（１）　外国語を除く共通教育科目　　４０単位以上
（２）　外国語科目　　４単位以上
（３）　専門基礎科目　　８単位以上
（４）　専門科目　　６０単位以上
（５）　演習科目　　１２単位以上

２　前項の規定にかかわらず、次の各号を適用することができる。

（１）　外国語科目を４単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は外国語を除く共通教育科目の単位として認められる。

（２）　専門基礎科目を８単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の単位として認められる。

（３）　演習科目を12単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の単位として認められる。

（教育職員免許取得）

第４条の２　教育職員免許状の授与を得るために必要な授業科目の履修については、別に定める「教育職員免許取得細則」によるものとする。

第５条　演習科目のうち総合演習、専門演習及びプロジェクト演習の履修については、それぞれ別に定める「総合演習の実施要領」「プレ・プロジェクト演習の実施要領」及び「プロジェクト演習の実施要領」によるものとする。

（単　　位）

第６条　各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする内容をもって１単位とする。

２　各授業科目については、15時間の授業をもって１単位とする。ただし、導入基礎科目、外国語科目及びスポーツ関連科目のうち実技については、30時間の授業をもって１単位とする。

（配当年次）

第７条　各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。ただし、別に定める授業科目については、その指定された年次においてのみ履修することができる。

（授業科目の履修制限）

第８条　各学期においては、原則として22単位を超えて履修することができない。ただし、第７学期以降においては、最高26単位まで履修することができる。

２　本学科授業科目表に記載されていない授業科目については、前項の履修制限の単位数に含めない。ただし、別に定める授業科目についてはこの限りでない。

（履修登録）

第９条　履修登録は、各学期始めに年２回行わなければならない。

（履修登録の制限）

第10条　授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。

２　同時限に開講される授業科目は、１科目しか履修登録することができない。

（再登録）

第11条　単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。

２　単位を修得することができなかった授業科目は、第８条に定める履修制限内において再登録をすることができる。

（履修登録の変更）

第12条　履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。

２　教授会が特に認める場合は、前項の規定を適用しない。

（授業科目の開講）

第13条　授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。

（授業の組分け）

第14条　履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。

（単位の認定）

第15条　担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という）、または平素の履修状況（出席、学習態度等）により学修の成果を評価して単位を与える。

２　原則として、その授業科目の授業回数の３分の２以上出席していることを要件とする。

３　前項に定めるほか、教授会は別に定める実施要領に基づき単位を与えることができる。

（単位認定を受ける資格）

第16条　次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。

（１）　授業料その他諸納入金が未納であるとき

（２）　履修登録をしていないとき

（試験等の成績評価）

第17条　試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。

（１）	100点から90点まで	秀
（２）	89点から80点まで	優
（３）	79点から70点まで	良
（４）	69点から60点まで	可
（５）	59点以下	不可（不合格）

（受験上の注意）

第18条　学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

２　試験中に不正行為をした者については、当該学期に履修登録した全授業科目の単位を無効とする。ただし、演習科目についてはこの限りでない。

（再試験等）

第19条　試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。再試験等の実施については、別に定める「再試験等の実施要領」によるものとする。

２　再試験等で合格した者の成績評価は、60点（可）とする。

（追試験等）

第20条　病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。追試験等の実施については、別に定める「追試験等の実施要領」によるものとする。

２　追試験等の結果の成績は、一割減とする。

附　則

この規程は、平成25年４月１日から施行する。

ビジネス学部　ビジネス学科　履修規程　細則

－平成25年度以降３年次編入学生対象－

第１条　ビジネス学部ビジネス学科履修規程（平成25年度以降３年次編入学生対象）（以下、「本履修規程」）第７条但書に定める授業科目は、当面の間、次の授業科目とする。

（１）　導入演習

（２）　基礎演習

第２条　本履修規程８条２項但書に定める授業科目は、当面の間、次の授業科目とする。

（１）　本学他学部において本学科の学生に開放されており、かつ、本学科において履修登録が認められている授業科目（「他学部等における授業科目履修規程」４条）

（２）　放送大学単位互換科目（「放送大学との単位互換制度に関する取り扱いについて」２条５項）

（３）　「本学と単位互換協定を締結している大学（短期大学を含む）」において履修登録をした科目

附　則

この細則は、平成25年４月１日から施行する。

ビジネス学部　ビジネス学科　履修規程

－平成24年度３年次編入学生対象－

（総　　則）

第１条　本学則第20条第３項の規定に基づき、ビジネス学部ビジネス学科（以下「本学科」）の教育課程及び授業科目の履修については、この規定の定めるところによる。

（卒業資格）

第２条　本学科を卒業するためには、２年以上在学し、次条以下の規定に従い、編入学時に認定された単位を含む124単位以上を修得しなければならない。

（授業科目の区分）

第３条　授業科目は、これを共通教育科目及び専門教育科目に区分する。

２　共通教育科目は履修区分として共通基礎科目、教養教育科目、外国語科目及びキャリア形成科目に分ける。

３　専門教育科目は履修区分として専門基礎科目、専門科目及び演習科目に分ける。

（授業科目の履修）

第４条　本学科授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

（１）　共通基礎科目　８単位以上
（２）　教養教育科目　２４単位以上
（３）　外国語科目　４単位以上
（４）　キャリア形成科目　４単位以上
（５）　専門基礎科目　１４単位以上
（６）　専門科目　４６単位以上
（７）　演習科目　２４単位以上

２　前項の規定にかかわらず、次の各号を適用することができる。

（１）　外国語科目を４単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は教養教育科目の単位として認められる。

（２）　キャリア形成科目を４単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の単位として認められる。

（３）　専門基礎科目を14単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の単位として認められる。

（４）　演習科目を24単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の単位として認められる。

（５）　演習科目については、12単位を限度として、専門科目として認められた単位数でもって代替することができる。

（教育職員免許取得）

第４条の２　教育職員免許状の授与を得るために必要な授業科目の履修については、別に定める「教育職員免許取得細則」によるものとする。

（総合演習、専門演習及びプロジェクト演習）

第５条　演習科目のうち総合演習、専門演習及びプロジェクト演習の履修については、それぞれ別に定める「総合演習の実施要領」「専門演習の実施要領」及び「プロジェクト演習の実施要領」によるものとする。

（単　　位）

第６条　各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする授業内容をもって１単位とする。

２　各授業科目については、15時間の授業をもって１単位とする。ただし、共通基礎科目については、30時間の授業をもって１単位とする。

（配当年次）

第７条　各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。ただし、別に定める授業科目については、その指定された年次においてのみ履修することができる。

（授業科目の履修制限）

第８条　各学期においては、原則として22単位を超えて履修することができない。ただし、第７学期以降においては、最高26単位まで履修することができる。

（履修登録）

第９条　履修登録は、各学期始めに年２回行わなければならない。

（履修登録の制限）

第10条　授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。

２　同時限に開講される授業科目は、１科目しか履修登録することができない。

（再登録）

第11条　単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。

２　単位を修得することができなかった授業科目は、第８条に定める履修制限内において再登録をすることができる。

（履修登録の変更）

第12条　履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。

２　教授会が特に認める場合は、前項の規定を適用しない。

（授業科目の開講）

第13条　授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。

（授業の組分け）

第14条　履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。

（単位の認定）

第15条　担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という）、または平素の履修状況（出席、学習態度等）により学修の成果を評価して単位を与える。

２　原則として、その授業科目の授業回数の３分の２以上出席していることを要件とする。

3　前項に定めるほか、教授会は別に定める実施要領に基づき単位を与えることができる。

（単位認定を受ける資格）

第16条　次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。

（1）　授業料その他諸納入金が未納であるとき

（2）　履修登録をしていないとき

（試験等の成績評価）

第17条　試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。

（1）	100点から90点まで	秀
（2）	89点から80点まで	優
（3）	79点から70点まで	良
（4）	69点から60点まで	可
（5）	59点以下	不可（不合格）

（受験上の注意）

第18条　学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

2　試験中に不正行為をした者については、当該学期に履修登録した全授業科目の単位を無効とする。ただし、演習科目についてはこの限りでない。

（再試験等）

第19条　試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。再試験等の実施については、別に定める「再試験等の実施要領」によるものとする。

2　再試験等で合格した者の成績評価は、60点（可）とする。

（追試験等）

第20条　病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。追試験等の実施については、別に定める「追試験等の実施要領」によるものとする。

2　追試験等の結果の成績は、一割減とする。

附　則

この規程は、平成24年４月１日から施行する。

ビジネス学部　ビジネス学科　履修規程　細則

－平成24年度以降３年次編入学生対象－

第１条　ビジネス学部ビジネス学科履修規程（平成24年度以降３年次編入学生対象）（以下、「本履修規程」）第７条但書に定める授業科目は、当面の間、次の授業科目とする。

（１）　導入演習

（２）　基礎演習

附　則

この細則は、平成２４年４月１日から施行する。

ビジネス学部　ビジネス学科　履修規程

－平成21～平成23年度３年次編入学生対象－

（総　　則）

第１条　本学学則第20条第３項の規定に基づき、ビジネス学部ビジネス学科（以下「本学科」）の教育課程及び授業科目の履修については、この規程の定めるところによる。

（卒業資格）

第２条　本学科を卒業するためには２年以上在学し、次条以下の規定に従い、６４単位以上を修得しなければならない。

（授業科目の区分）

第３条　授業科目は、これを共通教育科目及び専門教育科目に区分する。

２　共通教育科目は履修区分として共通基礎科目、教養教育科目、外国語科目及びキャリア形成科目に分ける。

３　専門教育科目は履修区分として専門基礎科目、専門科目及び演習科目に分ける。

（授業科目の履修）

第４条　本学科授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

（１）　キャリア形成科目　　４単位以上

（２）　専門基礎科目　　１２単位以上

（３）　専門科目　　３２単位以上

（４）　演習科目　　１６単位以上（専門演習Ⅰ・Ⅱ必修）

２　前項の規定にかかわらず、次の各号を適用することができる。

（１）　キャリア形成科目を４単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の単位として認められる。

（２）　専門基礎科目を12単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の単位として認められる。

（３）　演習科目を16単位を超えて修得した場合、その超えた単位数は専門科目の単位として認められる。

（４）　演習科目については８単位限度として、専門科目で認められた単位数でもって代替することができる。

（教育職員免許取得）

第４条の２　教育職員免許状の授与を得るために必要な授業科目の履修については、別に定める「教育職員免許取得細則」によるものとする。

（総合演習、専門演習及びプロジェクト演習）

第５条　演習科目のうち総合演習、専門演習及びプロジェクト演習の履修については、それぞれ別に定める「総合演習の実施要領」「専門演習の実施要領」及び「プロジェクト演習の実施要領」によるものとする。

（単　　位）

第６条　各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする内容をもって１単位とする。

２　各授業科目については、15時間の授業をもって１単位とする。ただし、共通基礎科目については、30時間の授業をもって１単位とする。

（配当年次）

第７条　各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。ただし、別に定める授業科目については、その指定された年次においてのみ履修することが出来る。

（授業科目の履修制限）

第８条　各学期においては、原則として22単位を超えて履修することができない。ただし、第７学期以降においては、最高26単位まで履修することができる。

２　本学科授業科目表に記載されていない授業科目については、前項の履修制限の単位数に含めない。ただし、別に定める授業科目についてはこの限りでない。

（履修登録）

第９条　履修登録は、各学期始めに年２回行わなければならない。

（履修登録の制限）

第10条　授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。

２　同時限に開講される授業科目は、１科目しか履修登録することができない。

（再登録）

第11条　単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。

２　単位を修得することができなかった授業科目は、第８条に定める履修制限内において再登録をすることができる。

（履修登録の変更）

第12条　履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。

２　教授会が特に認める場合は、前項の規定を適用しない。

（授業科目の開講）

第13条　授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。

（授業の組分け）

第14条　履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。

（単位の認定）

第15条　担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という）、または平素の履修状況（出席、学習態度等）により学修の成果を評価して単位を与える。

２　原則として、その授業科目の授業回数の３分の２以上出席していることを要件とする。

３　前項に定めるほか、教授会は別に定める実施要領に基づき単位を与えることができる。

（単位認定を受ける資格）

第16条　次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。

（１）　授業料その他諸納入金が未納であるとき

（２）　履修登録をしていないとき

（試験等の成績評価）

第17条　試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。

（１）　100点から90点まで　　秀

（２）　89点から80点まで　　優

（３）　79点から70点まで　　良

（４）　69点から60点まで　　可

（５）　59点以下　　不可（不合格）

（受験上の注意）

第18条　学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

２　試験中に不正行為をした者については、当該学期に履修登録した全授業科目の単位を無効とする。ただし、演習科目についてはこの限りでない。

（再試験等）

第19条　試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。再試験等の実施については、別に定める「再試験等の実施要領」によるものとする。

２　再試験等で合格した者の成績評価は、60点（可）とする。

（追試験等）

第20条　病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。追試験等の実施については、別に定める「追試験等の実施要領」によるものとする。

２　追試験等の結果の成績は、一割減とする。

附　則

この規程は、平成21年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成23年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成24年４月１日から施行する。

ビジネス学部　ビジネス学科　履修規程　細則

－平成21～平成23年度３年次編入学生対象－

第１条　ビジネス学部ビジネス学科履修規程（平成21年度以降３年次編入学生対象）（以下、「本履修規程」）第７条但書に定める授業科目は、当面の間、次の授業科目とする。

（１）　導入演習

第２条　本履修規程８条２項但書に定める授業科目は、当面の間、次の授業科目とする。

（１）　本学他学部において本学科の学生に開放されており、かつ、本学科において履修登録が認められている授業科目（「他学部等における授業科目履修規程」４条）

（２）　放送大学単位互換科目（「放送大学との単位互換制度に関する取り扱いについて」２条５項）

（３）　「本学と単位互換協定を締結している大学（短期大学を含む）」において履修登録をした科目

附　則

この細則は、平成21年４月１日から施行する。

ビジネス学部教育職員免許取得細則

（目　　的）

第１条　この細則は、ビジネス学部ビジネス学科履修規程第４条の規程に基づき、教育職員免許法及び同法施行規則に定めるもののほか、教育職員免許状の授与を得るための資格、履修等に関して、必要な事項を定めることを目的とする。（教育職員免許状第５条別表第１・同法施行規則第66条の６関係）

第２条　教育職員免許状を得ようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める表１の要件を満たさなければならない。

【表１】

所要資格／免許状の種類	基礎資格	大学において取得することを必要とする専門教育科目の最低単位数			
		教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	規則 66 条の６に定める科目
高等学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	20	23	16	8

（教科に関する科目）

第３条　高等学校教諭一種免許状（公民）の授与を得るための「教科に関する科目」は、表２－１、表２－２に定めるとおりとする。

２　高等学校教諭一種免許状（商業）の授与を得るための「教科に関する科目」は、表２－３、表２－４に定めるとおりとする。

３　表２－１及び表２－２、表２－３及び表２－４の備考の選択必修は、高等学校教諭一種免許状（公民）又は高等学校教諭一種免許状（商業）の授与を得るための必修科目とし、必ず履修し単位を修得しなければならない。

【表２－１】（公民・教科に関する科目）　平成22年度（2010）以前入学生

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備　考
		必修	選択	
法律学（国際法を含む） 政治学（国際政治を含む）	憲法		4	
	民法		4	
	法学入門		2	選択必修
	政治原論		4	
	政治学入門		2	選択必修
	経済入門		2	選択必修
社会学 経済学（国際経済学を含む）	ミクロ経済学		4	
	マクロ経済学		4	
	日本経済論		4	
	日本経済史		4	
	財政学		4	
	国際経済学		4	選択必修
哲学・倫理学・宗教学・心理学	現代社会と哲学		2	
	現代社会と宗教		2	
	現代社会と倫理		2	選択必修
	人間関係の心理学		2	
	認知行動の心理学		2	

【表２－２】（公民・教科に関する科目）　平成23～25年度（2011～2013）入学生

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備　考
		必修	選択	
法律学（国際法を含む） 政治学（国際政治を含む）	憲法Ⅰ		2	
	憲法Ⅱ		2	
	民法Ⅰ		2	
	債権法		2	
	法の仕組みとビジネス		2	選択必修
	政治原論Ⅰ		2	
	政治原論Ⅱ		2	
	政治の仕組みとビジネス		2	選択必修
社会学 経済学（国際経済学を含む）	経済の仕組みとビジネス		2	選択必修
	ミクロ経済学Ⅰ		2	
	ミクロ経済学Ⅱ		2	
	マクロ経済学Ⅰ		2	
	マクロ経済学Ⅱ		2	
	財政学Ⅰ		2	
	財政学Ⅱ		2	
	国際経済学Ⅰ		2	選択必修
	国際経済学Ⅱ		2	選択必修
哲学・倫理学・宗教学・心理学	現代社会と哲学		2	
	現代社会と宗教		2	
	現代社会と倫理		2	選択必修
	人間関係の心理学		2	
	認知行動の心理学		2	

【表２－３】（商業・教科に関する科目）　平成22年度（2010）入学生

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備　考
		必修	選択	
商業の関係科目	ビジネス入門		2	選択必修
	会計入門		2	選択必修
	簿記		4	選択必修
	経営管理論		4	
	経営組織論		4	
	経営戦略論		4	
	人的資源管理論		4	
	リーダーシップ論		4	
	企業論		4	
	経営倫理学		4	
	経営史		4	
	監査論		4	
	原価計算論		4	
	管理会計論		4	
	財務諸表論		4	
	金融論		4	
	環境経済学		4	
職業指導	職業指導		4	選択必修

【表２－４】（商業・教科に関する科目）　平成23～25年度（2011～2013）入学生

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備　考
		必修	選択	
商業の関係科目	管理の仕組みとビジネス		2	選択必修
	簿記の仕組みとビジネス		2	選択必修
	簿記Ⅰ		2	選択必修
	簿記Ⅱ		2	選択必修
	経営管理論Ⅰ		2	
	経営管理論Ⅱ		2	
	経営組織論Ⅰ		2	
	経営組織論Ⅱ		2	
	経営戦略論Ⅰ		2	
	経営戦略論Ⅱ		2	
	人的資源管理論Ⅰ		2	
	人的資源管理論Ⅱ		2	
	リーダーシップ論Ⅰ		2	
	リーダーシップ論Ⅱ		2	
	企業論Ⅰ		2	
	企業論Ⅱ		2	
	経営倫理学Ⅰ		2	
	経営倫理学Ⅱ		2	
	経営史Ⅰ		2	
	経営史Ⅱ		2	
	監査論Ⅰ		2	
	監査論Ⅱ		2	
	原価計算論Ⅰ		2	
	原価計算論Ⅱ		2	
	管理会計論Ⅰ		2	
	管理会計論Ⅱ		2	
	財務諸表論Ⅰ		2	
	財務諸表論Ⅱ		2	
職業指導	職業指導Ⅰ		2	選択必修
	職業指導Ⅱ		2	選択必修

（教職に関する科目）

第４条　高等学校教諭一種免許状（公民）の授与を得るための「教職に関する科目」は、表３－１に定めるとおりとする。

２　高等学校教諭一種免許状（商業）の授与を得るための「教職に関する科目」は、表３－２に定めるとおりとする。

３　表３－１から表３－２の備考の選択必修は、高等学校教諭一種免許状（公民）又は高等学校教諭一種免許状（商業）の授与を得るための必修科目とし、必ず履修し単位を修得しなければならない。

【表３－１】（公民・教職に関する科目）　平成22～ 25年度（2010～2013）入学生

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する	単位数		備　考
科目区分	各科目に含める必要事項	単位数	開設授業科目	必修	選択	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職概論		2	選択必修
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理		2	選択必修
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学		2	選択必修
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育法概論		2	選択必修
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	6	教育課程論		2	選択必修
	・各教科の指導法		公民科教育法Ⅰ 公民科教育法Ⅱ		2 2	選択必修 選択必修
	・特別活動の指導法		特別活動の指導法		2	選択必修
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育の方法と技術		2	選択必修
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	生徒指導・進路指導		2	選択必修
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談の理論と方法		2	選択必修
教職実践演習		2	教職実践演習		2	選択必修
教育実習		3	教育実習		3	選択必修

【表３－２】（商業・教職に関する科目）　平成22～ 25年度（2010～2013）入学生

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目	単位数		備　考
科目区分	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職概論		2	選択必修
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理		2	選択必修
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学		2	選択必修
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育法概論		2	選択必修
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	6	教育課程論		2	選択必修
	・各教科の指導法		商業科教育法Ⅰ 商業科教育法Ⅱ		2 2	選択必修 選択必修
	・特別活動の指導法		特別活動の指導法		2	選択必修
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育の方法と技術		2	選択必修
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	生徒指導・進路指導		2	選択必修
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談の理論と方法		2	選択必修
教職実践演習		2	教職実践演習		2	選択必修
教育実習		3	教育実習		3	選択必修

（教科又は教職に関する科目）

第５条　高等学校教諭一種免許状（公民）又は高等学校教諭一種免許状（商業）の授与を得るための「教科又は教職に関する科目」は、表４に定めるとおりとする。

２　『「教科又は教職に関する科目」の選択科目』又は『最低の修得単位を超えて履修した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」』について併せて16単位以上を修得しなければならない。

【表４】（教科又は教職に関する科目）平成22～25年度（2010～2013）入学生

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数	
		必修	選択
教科又は教職に関する科目	道徳教育論		2

（免許法施行規則第66条の６に定める科目）

第６条　高等学校教諭一種免許状（公民）又は高等学校教諭一種免許状（商業）の授与を得るための「教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目」は、表５－１及び表５－２に定めるとおりとし、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。

２　表５－１及び表５－２の備考の選択必修は、高等学校教諭一種免許状（公民）又は高等学校教諭一種免許状（商業）の授与を得るための必修科目とし、必ず履修し単位を修得しなければならない。

【表５－１】（免許法施行規則第66条の６に定める科目）　平成22年度（2010）入学生

免許法施行規則第 66 条の６に定める科目		左記に対応する本学の授業科目	単位数		備　考
科目区分	単位数		必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法		2	選択必修
体育	2	健康スポーツ演習		2	選択必修
		英語コミュニケーションⅠ	1		選択必修
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅡ	1		選択必修
		ＩＴリテラシーⅠ	1		選択必修
情報機器の操作	2	ＩＴリテラシーⅡ	1		選択必修

【表５－２】（免許法施行規則第66条の６に定める科目）　平成23～25年度（2011～2013）入学生

免許法施行規則第 66 条の６に定める科目		左記に対応する本学の授業科目	単位数		備　考
科目区分	単位数		必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法		2	選択必修
体育	2	健康スポーツ演習		2	選択必修
		英語会話Ⅰ		1	選択必修
外国語コミュニケーション	2	英語会話Ⅱ		1	選択必修
		ＩＴリテラシーⅠ		1	選択必修
情報機器の操作	2	ＩＴリテラシーⅡ		1	選択必修

（教育実習受講資格）

第７条　本細則第４条表３－１から表３－２に規定する教育実習の受講を希望する学生は、次の各号いずれにも該当しなければならない。

（１）　４年次以上で、卒業に必要な単位のうち、100単位以上を修得していること。

（２）　本細則第３条表２－１から表２－４に規定する教科に関する科目のうち、原則として10科目以上を履修し単位を修得していること。

（３）　本細則第４条表３－１から表３－２に規定する教職に関する科目のうち、「教育原理」、「教育心理学」、「公民科教育法」若しくは「商業科教育法」を履修し単位を修得していること。

（４）　教育実習実施委員会が適当と認めた学生であること。

（教育実習費）

第８条　教育職員免許状の取得を希望する学生の教育実習費及び納入方法は次のとおりとし、定められた期日に納入しなければならない。

教育実習費　20,000円

納入方法　　３年次４月、教職課程登録時　10,000円

　　４年次４月、教育実習登録時　10,000円

附　則

この細則は、平成20年４月１日から施行する。

この細則は、平成22年４月１日から施行する。

この細則は、平成23年４月１日から施行する。

ビジネス学部資格取得による単位認定規程

（総　　則）

第１条　本学では、学生の学習意欲・成果を評価するために資格取得による単位認定を実施し、ビジネス学部ビジネス学科 (以下「本学科」) の認定条件・対象科目・方法などについては、この規程の定めるところによる。

（資格単位化の条件）

第２条　本学科では資格取得をもって単位認定を行い、その上限を24単位とする。

２　成績の評価は「認定」とし、認定主体は教授会とする。

３　資格取得による単位認定については、本学科履修規程第８条に規定する履修制限の対象外とする。

(申請方法)

第３条　単位認定を希望する学生は､次の書類を教務課へ提出しなければならない。

一　申請書

二　資格取得証明書またはその他資格を取得したことを証明できる書類

(申請期限)

第４条　申請の時期 (期限) は在学中 (卒業判定のための教授会までの時期) であれば常時、申請を受け付けるものとする。

(単位化対象資格・単位化の方法)

第５条　単位化対象資格および単位化の方法については､別表に定める通りとする。

２　認定区分が「外国語」となる対象資格の単位認定については、資格取得者の母語である場合を除き単位認定をおこなう。ただし、中国語検定　準１級、１級についてはその限りではない。

(単位認定の基準時)

第６条　別表の対象資格（認定等級・認定単位数・認定区分を含む）を在学期間中に変更する場合があるが、単位の認定は在学中の資格取得時において、該当する資格が別表に記載されていることを条件とし、認定内容も資格取得時の別表の記載に従うこととする｡(但し､編入学生の場合は編入前の２年間も｢在学」とみなす)

附　則

この規程は、平成19年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成21年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成23年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成25年４月１日から施行する。

単位化対象資格　（別表）

対象資格	科目名（科目）	認定単位数	認定区分
Microsoft Office Specialist (Microsoft Word)	資格（Word 初級）	各２単位で上限10単位［MCASについてはMOS**（初級に準拠する）**］	教養教育 教養教育
Microsoft Office Specialist (Microsoft Word ｴｷｽﾊﾟｰﾄ)	資格（Word 上級）		教養教育 教養教育
Microsoft Office Specialist (Microsoft Excel)	資格（Excel 初級）		教養教育 教養教育
Microsoft Office Specialist (Microsoft Excel ｴｷｽﾊﾟｰﾄ)	資格（Excel 上級）		教養教育 教養教育
Microsoft Office Specialist (Microsoft PowerPoint)	資格（PowerPoint）		教養教育 教養教育
Microsoft Office Specialist (Microsoft Access)	資格（Access）		教養教育 教養教育
Microsoft Certified Application Specialist (Microsoft Office Word 2007)	資格（Word 2007）		教養教育 教養教育 教養教育
Microsoft Certified Application Specialist (Microsoft Office Excel 2007)	資格（Excel 2007）		教養教育 外国語 外国語
Microsoft Certified Application Specialist (Microsoft Office PowerPoint 2007)	資格（PowerPoint 2007）		外国語 外国語 外国語
日商ＰＣ検定（ベーシック・文書作成）	資格（日商PC･ﾍﾞｰｼｯｸ／文書作成）	２単位	外国語
日商ＰＣ検定（ベーシック・データ活用）	資格（日商PC･ﾍﾞｰｼｯｸ／ﾃﾞｰﾀ活用）	２単位	外国語
日本漢字能力検定準２級	資格（日本漢字能力検定準２級）	２単位	外国語
日本漢字能力検定２級	資格（日本漢字能力検定２級）	２単位	外国語
日本漢字能力検定準１級	資格（日本漢字能力検定準１級）	２単位	専門
カラーコーディネーター検定３級	資格（ｶﾗｰｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ検定３級）	２単位	専門
サッカー公認審判員３級	資格（ｻｯｶｰ公認審判員）	２単位	専門
英検準２級（または、TOEFL440点以上		２単位	専門
[TOEFL-iBT40点以上] TOEIC420点以上）	資格（英語検定準２級）	２単位	専門
英検２級（または、TOEFL480点以上		２単位	専門
[TOEFL-iBT54点以上] TOEIC520点以上）	資格（英語検定２級）	２単位	専門
英検準１級（または、TOEFL 520点以上		２単位	専門
[TOEFL-iBT68点以上] TOEIC645点以上）	資格（英語検定準１級）	２単位	専門
中国語検定試験４級（またはHSK3級）	資格（中国語検定４級/HSK3級）	２単位	専門
中国語検定試験３級（またはHSK4級）	資格（中国語検定３級/HSK4級）	２単位	専門
中国語検定試験２級（またはHSK5級）	資格（中国語検定２級/HSK5級）	２単位	専門
中国語検定試験準１級（またはHSK6級）	資格（中国語検定準１級/HSK6級）	２単位	専門
中国語検定試験１級	資格（中国語検定１級）	２単位	専門
日本語能力試験１級	資格（日本語能力試験１級）	２単位	専門
日商ＰＣ検定・文書作成　３級	資格（日商PC検定・文書作成３級）	２単位	専門
日商ＰＣ検定・データ活用　３級	資格（日商PC検定・ﾃﾞｰﾀ活用３級）	２単位	専門
日商ＰＣ検定・文書作成　２級	資格（日商PC検定・文書作成２級）	２単位	専門

単位化対象資格　（別表）

日商ＰＣ検定・データ活用　２級	資格（日商PC検定・ﾃﾞｰﾀ活用２級）	２単位	専門
日商ＰＣ検定・文書作成　１級	資格（日商PC検定・文書作成 １級）	２単位	専門
日商ＰＣ検定・データ活用　１級	資格（日商PC検定・ﾃﾞｰﾀ活用 １級）	２単位	専門
ＩＴパスポート	資格（ITﾊﾟｽﾎﾟｰﾄ）	４単位	専門
日商簿記３級	資格（日商簿記３級）	２単位	専門
日商簿記２級	資格（日商簿記２級）	４単位	専門
日商簿記１級	資格（日商簿記１級）	４単位	専門
ビジネス会計検定３級	資格（ﾋﾞｼﾞﾈｽ会計３級）	２単位	専門
ビジネス会計検定２級	資格（ﾋﾞｼﾞﾈｽ会計２級）	４単位	専門
中小企業診断士	資格（中小企業診断士）	４単位	専門
社会保険労務士	資格（社会保険労務士）	４単位	専門
宅地建物取引主任者	資格（宅地建物取引主任者）	４単位	専門
日商販売士３級	資格（日商販売士３級）	２単位	専門
日商販売士２級	資格（日商販売士２級）	４単位	専門
日商販売士１級	資格（日商販売士１級）	４単位	専門
秘書技能検定３級	資格（秘書技能検定３級）	２単位	専門
秘書技能検定２級	資格（秘書技能検定２級）	２単位	専門
秘書技能検定準１級	資格（秘書技能検定準１級）	２単位	専門
ビジネス能力検定（ジョブパス）３級	資格（ﾋﾞｼﾞﾈｽ能力検定［ｼﾞｮﾌﾞﾊﾟｽ］3級）	２単位	専門
ビジネス能力検定（ジョブパス）２級	資格（ﾋﾞｼﾞﾈｽ能力検定［ｼﾞｮﾌﾞﾊﾟｽ］2級）	２単位	専門
サービス接遇検定　２級	資格（ｻｰﾋﾞｽ接遇検定２級）	２単位	専門
サービス接遇検定　１級	資格（ｻｰﾋﾞｽ接遇検定１級）	２単位	専門
経営学検定　初級	資格（経営学検定 初級）	４単位	専門
経営学検定　中級	資格（経営学検定 中級）	２単位	専門
ERE（経済学検定試験）［Ｂ］	資格（経済学検定試験B）	２単位	専門
ERE（経済学検定試験）［Ｂ＋］	資格（経済学検定試験B+）	４単位	専門
ERE（経済学検定試験）［Ａ以上］	資格（経済学検定試験A~）	４単位	専門
ERE（経済学検定試験）ﾐｸﾛ・ﾏｸﾛ［Ｂ］	資格（経済学検定試験 ﾐｸﾛ・ﾏｸﾛB）	２単位	専門
ERE（経済学検定試験）ﾐｸﾛ・ﾏｸﾛ［Ｂ＋］	資格（経済学検定試験 ﾐｸﾛ・ﾏｸﾛB+）	２単位	専門
ERE（経済学検定試験）ﾐｸﾛ・ﾏｸﾛ［Ａ以上］	資格（経済学検定試験 ﾐｸﾛ・ﾏｸﾛA~）	２単位	専門
ﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙ・ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ技能検定３級	資格（ﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙ・ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ技能検定3級）	２単位	専門
ﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙ・ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ技能検定２級	資格（ﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙ・ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ技能検定2級）	４単位	専門
商業英語検定Ｄクラス	資格（商業英語検定Ｄｸﾗｽ）	２単位	専門
商業英語検定Ｃクラス	資格（商業英語検定Ｃｸﾗｽ）	２単位	専門
司法書士	資格（司法書士）	４単位	専門
行政書士	資格（行政書士）	４単位	専門
ビジネス実務法務検定３級	資格（ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務法務検定３級）	２単位	専門
ビジネス実務法務検定２級	資格（ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務法務検定２級）	４単位	専門
法学検定ベーシック＜基礎＞	資格（法学検定ﾍﾞｰｼｯｸ＜基礎＞）	２単位	専門
法学検定ベーシック＜中級＞	資格（法学検定ﾍﾞｰｼｯｸ＜中級＞）	４単位	専門
法学検定ベーシック＜上級＞	資格（法学検定ﾍﾞｰｼｯｸ＜上級＞）	４単位	専門

注１）　各取得資格において、等級のある資格（例えば１級、２級など）のうち、より上位の等級を取得した者は、それより下位の等級も同時に認定するものとする。ただし、第５条第２項の但し書きにより認定される場合は、２級以下の単位は認定されない。

ビジネス学部プロジェクト演習室使用規程

（目　的）

第１条　この規程は、奈良産業大学ビジネス学部プロジェクト演習室　（以下「プロジェクト演習室」という。）　の使用について必要な事項を定めることを目的とする。

（使用者の範囲）

第２条　プロジェクト演習室を使用できる者は、次のとおりとする。

（１）　本学ビジネス学部配当科目「プロジェクト演習」担当教員

（２）　本学ビジネス学部配当科目「プロジェクト演習」履修学生

（３）　ビジネス学部長、ならびに「プロジェクト演習」担当教員が認めた者

（使用時間）

第３条　使用時間は、次のとおりとする。

（１）　平　日　　午前８時30分から午後７時30分まで

（２）　土曜日　　午前８時30分から午後１時まで

２　前項の規程にかかわらず、奈良産業大学学則第７条の規程による夏季休業、冬季休業、及び春季休業期間中の使用時間は次のとおりとする。

（１）　平　日　　午前９時から午後４時まで

（２）　土曜日　　午前９時から午後１時まで

３　ビジネス学部長が認めたときは、使用時間を変更することができる。

（閉室日）

第４条　閉室日は、次のとおりとする。

（１）　日曜日

（２）　国民の祝日に関する法律に規定する休日

（３）　本学の創立記念日（11月１日）

（４）　夏季一斉休暇期間

（５）　年末年始（12月27日から１月５日まで）

２　前項の規程にかかわらず、ビジネス学部長が必要と認めるときは、臨時に閉室日を定めることができる。

（賠償責任）

第５条　故意または過失により、施設、設備及び備品等を損傷したとき又は紛失したときは、その損害に相当する費用を賠償させることがある。

（規則等の遵守）

第６条　プロジェクト演習室を使用する者は、プロジェクト演習室使用規程、及びビジネス学部長が指示する事項を守らなければならない。

２　プロジェクト演習室においては、次の事項を厳守しなければならない。

（１）　室内は常に清潔を保つように心がけること

（２）　私有物は保管しないこと

（３）　プロジェクト演習室としてふさわしくない利用をしないこと

（４）　火災及び盗難には十分注意すること

（５）　退室するときは消灯と施錠を確認すること

（管理責任）

第７条　ビジネス学部長がプロジェクト演習室の管理責任を負い、プロジェクト演習担当教員に管理を委ねるものとする。

（その他）

第８条　この規程に定めるもののほか、プロジェクト演習室の使用について必要な事項はビジネス学部長が定める。

附　則

この規程は、平成19年５月９日から施行する。

附　則

この規程は、平成23年４月１日から施行する。

他学部等における授業科目履修規程

（趣　　旨）

第１条　この規程は、奈良産業大学学則（以下、「学則」という。）第25条第２項の規定に基づき、他学部等で開講されている授業科目（以下、「他学部授業科目」という。）の履修に関する必要な事項を定めるものとする。

（履修登録可能科目）

第２条　他学部授業科目の中の履修登録可能な授業科目は、各学部等が指定する授業科目のうち学生が所属する学部が適当と認めたものとする。

２　他学部授業科目の中の履修登録可能な授業科目は、他学部授業科目の履修を希望する学生の年次以下に配当されている授業科目とする。

３　教職課程に関する授業科目の履修登録は出来ない。

（卒業要件として算入できる単位の制限）

第３条　他学部授業科目により取得した単位数について、卒業要件として算入できる上限単位数は、16単位までとする。

（履修制限）

第４条　他学部授業科目の履修単位数は、学生の所属する学部の各学期履修制限単位数に含むものとする。

（履修科目の成績評価）

第５条　他学部授業科目の中で履修登録した授業科目は、他学部等で認定された成績を学生の所属学部での成績評価とする。

（認定単位の履修区分）

第６条　他学部授業科目の中で履修登録した授業科目は、学生の所属する学部が指定する履修区分とする。

（改廃）

第７条　この規程の改廃は、大学評議会においてこれを行う。

附　則

この規程は、平成20年４月１日から施行する。

ビジネス学部で履修登録が認められる他学部開講科目

【平成23～25年度（2011～2013）入学生対象】

No.	科目名	区分	単位	担当教員	開講時期
1	情報と法	教養教育	2	土井	後期
2	ネットワーク基礎　＊	教養教育	2	西岡	前期
3	情報セキュリティ	教養教育	2	西岡	前期
4	映像作品概論	教養教育	2	山田	前期
5	コンテンツ構成論	教養教育	2	山田	後期
6	文化情報システム	教養教育	2	植村	後期
7	マルチメディア表現	教養教育	2	羽太	前期

【平成19～22年度（2007～2010）入学生対象】

No.	科目名	区分	単位	担当教員	開講時期
1	情報と法	教養教育	2	土井	後期
2	ネットワーク基礎　＊	教養教育	2	西岡	前期
3	情報セキュリティ	教養教育	2	西岡	前期
4	映像メディア論	教養教育	2	山田	前期
5	映像作品論	教養教育	2	山田	後期
6	文化情報システム	教養教育	2	植村	後期
7	マルチメディア演習	教養教育	2	羽太	前期

＊ 履修定員がある場合は、情報学部生の履修を優先する。

ビジネス学部ビジネス学科「総合演習」の実施要領

－平成23年度以降入学生対象－

ビジネス学部ビジネス学科履修規程（平成23年度以降入学生対象）第５条に基づき「総合演習」の実施についてはこの要領による。

（１）「総合演習」（２単位）は２年次の前期と後期に実施するものとする。２年次生は前期あるいは後期のどちらかで必ず履修登録しなければならない。
（２）「総合演習」は、原則として、専任でビジネス学部に所属する教員が担当する。
（３）「総合演習」の１クラスの人員は、原則として15人までとする。ただし、担当者が許可する場合はこの限りではない。
（４）11月に開催される説明会で配布する、「総合演習仮登録資料」により、１年次生は受講希望を、必ず「総合演習仮登録票」に記入し、仮登録受付期間中に提出するものとする。
（５）仮登録受付期間中に仮登録手続きをしない学生は、原則として当該年度の「総合演習」の登録はできない。
（６）「総合演習」の各クラス受講者の調整、その受講者の決定及び履修する学期等については、担当者と相談して教務委員がこれに当たるものとする。
（７）「総合演習」の正式登録は、仮登録した次年度の指定された学期の履修登録期間に行うものとし、仮登録者の変更を含めて、教授会の承認を得なければならない。
（８）「総合演習」では、学外での教育研究活動を行うことがある。
（９）「総合演習」における学外での教育研究活動での実習に伴う費用については、その実費を徴収することがある。

ビジネス学部ビジネス学科「プレ・プロジェクト演習」の実施要領

－平成23年度以降入学生対象－

ビジネス学部ビジネス学科履修規程（平成23年度以降入学生対象）第５条に基づき「プレ・プロジェクト演習」の実施についてはこの要領による。

（１）「プレ・プロジェクト演習」（２単位）は２年次の前期と後期に実施するものとする。２年次生は前期あるいは後期のどちらかで必ず履修登録しなければならない。
（２）「プレ・プロジェクト演習」は、原則として、専任でビジネス学部に所属する教員が担当する。
（３）「プレ・プロジェクト演習」の１クラスの人員は、原則として１５人までとする。ただし、担当者が許可する場合はこの限りではない。
（４）11月に開催される説明会で配布する、「プレ・プロジェクト演習仮登録資料」により、１年次生は受講希望を、必ず「プレ・プロジェクト演習仮登録票」に記入し、仮登録受付期間中に提出するものとする。
（５）仮登録受付期間中に仮登録手続きをしない学生は、原則として当該年度の「プレ・プロジェクト演習」の登録はできない。
（６）「プレ・プロジェクト演習」の各クラス受講者の調整、その受講者の決定及び履修する学期等については、担当者と相談して教務委員がこれに当たるものとする。
（７）「プレ・プロジェクト演習」の正式登録は、仮登録した次年度の指定された学期の履修登録期間に行うものとし、仮登録者の変更を含めて、教授会の承認を得なければならない。
（８）「プレ・プロジェクト演習」では、学外での教育研究活動を行うことがある。なお、この教育研究活動は、集中して行うことがある。
（９）「プレ・プロジェクト演習」における学外での教育研究活動での実習に伴う費用については、その実費を徴収することがある。

ビジネス学部ビジネス学科「プロジェクト演習」（必修）の実施要領

－平成23年度以降入学生対象－

総　　則

（1）ビジネス学部ビジネス学科履修規程（平成23年度以降入学生対象）第５条に基づきプロジェクト演習の実施についてはこの要領による。

（2）プロジェクト演習は「プロジェクト演習Ⅰ」及び「プロジェクト演習Ⅱ」によって構成される。

（3）プロジェクト演習実施を円滑化するためにビジネス学部内にプロジェクト演習担当委員会を置く。

「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」実施要領

（1）「プロジェクト演習」は、「プロジェクト演習Ⅰ」（４単位）を第５・第６セメスター（３年次）に、「プロジェクト演習Ⅱ」（４単位）を第７･第８セメスター（４年次）にそれぞれ実施する。学生は原則として同一のテーマについて一貫して受講するものとする。

（2）「プロジェクト演習」は、原則として、専任教員が担当するものとする。

（3）「プロジェクト演習」の履修登録に際して、11月に配布する「プロジェクト演習仮登録要領」及び「プロジェクト演習要項」により、２年次生は受講希望を、必ず第３希望まで「プロジェクト演習登録票（仮）」に記入し、仮登録受付期間中に提出するものとする。

（3）－２「プロジェクト演習」の仮登録に際しては、当該学年時の学生に対して開講される「プロジェクト演習」についての説明会を開催する。また学生は、受講を希望するプロジェクト演習の担当教員と面談しなければならない。

（3）－３　仮登録受付期間中に担当者と面談の上、仮登録手続きをしない学生は、原則として当該年度の「プロジェクト演習Ⅰ」の登録はできない。

（4）「プロジェクト演習」の１クラスの人員は、原則として、15人までとする。

（5）「プロジェクト演習」における受講者の調整等については、担当教員と相談してプロジェクト演習担当委員会がこれに当たるものとする。

（6）「プロジェクト演習」の正式登録は第５セメスター（３年次前期）の履修登録時に行うものとし、仮登録者の変更を含めて教授会の承認を得なければならない。

（7）「プロジェクト演習Ⅰ」を修得しなければ「プロジェクト演習Ⅱ」を履修することはできない。

（8）「プロジェクト演習Ⅱ」においては、成果報告会における成果報告を行わなければ、単位認定の対象とならない。ただし、教授会の承認のもと、成果を形（卒業論文等）として残すことで、成果報告に代えることができる。

なお、本項における成果報告会とは、ビジネス学部が主催するものであって、

プロジェクト演習を履修している学生は参加する義務があるものとする。
（９）「プロジェクト演習」では、学外での教育研究活動を行うことがある。
(10)「プロジェクト演習」における学外での教育研究活動での実習に伴う費用については、その実費を徴収することがある。
(11) 本実施要領の（３）、（３）－２、（３）－３は、３年次編入学生には適用しない。

ビジネス学部ビジネス学科「総合演習」の実施要領

－平成19～平成22年度入学生対象－

ビジネス学部ビジネス学科履修規程（平成19～平成22年度入学生対象）第５条に基づき「総合演習」の実施についてはこの要領による。

（１）「総合演習」（４単位）は２年次に実施するものとする。
（２）「総合演習」は、原則として、専任でビジネス学部に所属する教員が担当する。
（３）「総合演習」の１クラスの人員は、原則として15人までとする。但し、担当者が許可する場合はこの限りではない。
（４）11月に配布する、「総合演習仮登録要領」及び「総合演習要項」（演習テーマ、演習方法、教科書、担当教員等）により、１年次生は受講希望を、必ず第３希望まで「総合演習登録票（仮）」に記入し、仮登録受付期間中に提出するものとする。
（５）仮登録受付期間中に仮登録手続きをしない学生は、原則として当該年度の「総合演習」の登録はできない。
（６）「総合演習」の各クラス受講者の調整及び、その受講者の決定等については、担当者と相談して教務委員がこれに当たるものとする。
（７）「総合演習」の正式登録は、仮登録した次年度の４月に行うものとし、仮登録者の変更を含めて、教授会の承認を得なければならない。
（８）「総合演習」では、学外での教育研究活動を行うことがある。
（９）本実施要領の（１）、（４）、（５）は、３年次編入学生には適用しない。

ビジネス学部ビジネス学科「専門演習」（必修）の実施要領

－平成19～22年度入学生対象－

ビジネス学部履修規程（平成19～平成22年度入学生対象）第５条に基づき「専門演習」の実施についてはこの要領による。

（１）「専門演習」は「専門演習Ⅰ」（４単位）を３年次に、「専門演習Ⅱ」（４単位）を４年次に実施し、同一の担当者により指導するものとする。
（２）「専門演習」は、原則として、専任でビジネス学部に所属する教員が担当する。
（３）「専門演習」の１クラスの人員は、原則として15人までとする。但し、担当者が許可する場合はこの限りではない。
（４）「導入演習」「基礎演習」「総合演習」から４単位以上を修得しなければ、「専門演習Ⅰ」を履修することはできない。
（５）「専門演習Ⅰ」を修得しなければ、「専門演習Ⅱ」を履修することはできない。
（６）「専門演習Ⅰ」及び「専門演習Ⅱ」は担当教員の指示する授業科目を修得ないしは履修していなければ、履修できないことがある。
（７）11月に配布する、「専門演習仮登録要領」及び「専門演習要項」（演習テーマ、演習方法、教科書、担当教員等）により、２年次生は受講希望を、必ず第３希望まで「専門演習登録票（仮）」に記入し、仮登録受付期間中に提出するものとする。
（８）仮登録受付期間中に仮登録手続きをしない学生は、原則として当該年度の「専門演習Ⅰ」の登録はできない。
（９）「専門演習」の各クラス受講者の調整及び、その受講者の決定等については、担当者と相談して教務委員がこれに当たるものとする。
(10)「専門演習」の正式登録は、仮登録した次年度の４月に行うものとし、仮登録者の変更を含めて、教授会の承認を得なければならない。
(11)「専門演習Ⅱ」においては、卒業論文を提出しなければ、単位が認定されない。論文については担当者の指示による。
(12)「専門演習」では、学外での教育研究活動を行うことがある。
(13) 本実施要領の（４）、（７）、（８）は、３年次編入学生には適用しない。

ビジネス学部ビジネス学科「プロジェクト演習」の実施要領

－平成19～22年度入学生対象－

総　　則

（１）ビジネス学部ビジネス学科履修規程（平成19～平成22年度入学生対象）第５条に基づきプロジェクト演習の実施についてはこの要領による。

（２）プロジェクト演習は「短期プロジェクト演習」並びに「プロジェクト演習Ⅰ」、「プロジェクト演習Ⅱ」及び「プロジェクト演習Ⅲ」によって構成される。

（３）プロジェクト演習実施を円滑化するためにビジネス学部内にプロジェクト演習担当委員会を置く。

「短期プロジェクト演習」実施要領

（１）「短期プロジェクト演習」は、原則として第２･第３セメスター（１年次後期･２年次前期）に実施する。

（２）「短期プロジェクト演習」は、原則として、専任でビジネス学部に所属する教員が担当するものとする。

（３）「短期プロジェクト演習」の履修登録に際して、６月に配布する「短期プロジェクト演習仮登録要領」及び「短期プロジェクト演習要項」により、１年次生は受講希望を、必ず第３希望まで「短期プロジェクト演習登録票（仮）」に記入し仮登録受付期間中に提出するものとする。

（４）「短期プロジェクト演習」の１クラスの人員は、40人までとする。

（５）「短期プロジェクト演習」における受講者の調整等については、担当教員と相談してプロジェクト演習担当委員会がこれに当たるものとする。

（６）「短期プロジェクト演習」の受講者の決定は教授会で行う。

（７）「短期プロジェクト演習」の正式登録は、原則として、第２セメスター（１年次後期）の履修登録時に行うものとする。

（８）「短期プロジェクト演習」では、学外での教育研究活動を行うことがある。なお、この教育研究活動は、集中して行うことがある。

（９）「短期プロジェクト演習」における学外での教育研究活動での実習に伴う費用については、その実費を徴収する。なお、その徴収額については、（３）の「短期プロジェクト演習登録要項」に概算を記載する。

「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」実施要領

（１）長期「プロジェクト演習」は、「プロジェクト演習Ⅰ」（２単位）を第４セメスター（２年次後期）に、「プロジェクト演習Ⅱ」（４単位）を第５･第６セメスター（３年次）に、「プロジェクト演習Ⅲ」（４単位）を第７・第８セメスター（４年次）にそれぞれ実施する。学生は原則として同一のテーマについて一貫して受講す

るものとする。
（2）「プロジェクト演習」は、原則として、専任でビジネス学部に所属する教員が担当するものとする。
（3）「プロジェクト演習」の履修登録に際して、６月に配布する「プロジェクト演習仮登録要領」及び「プロジェクト演習要項」により、２年次生は受講希望を、必ず第３希望まで「プロジェクト演習登録票（仮）」に記入し、仮登録受付期間中に提出するものとする。ただし、編入生は、４月に配布する「編入生用プロジェクト演習仮登録要領」及び「編入生用プロジェクト演習要項」により、指定された期間内に受講希望を必ず第３希望まで「プロジェクト演習登録票（仮）」に記入し提出するものとする。
（3）－２「プロジェクト演習」の仮登録に際しては、当該学年時の学生に対して開講される「プロジェクト演習」についての合同説明会を開催する。合同説明会において学生は受講を希望するプロジェクト演習の担当教員と面談しなければならない。ただし、編入生は編入生向けの説明会に出席し、受講を希望するプロジェクト演習の担当教員と面談しなければならない。
（3）－３　仮登録受付期間中に担当者と面談の上、仮登録手続きをしない学生は、原則として当該年度の「プロジェクト演習Ⅰ」の登録はできない。ただし、編入生はこのかぎりでない。
（4）「プロジェクト演習」の１クラスの人員は、原則として、20人までとする。
（5）「プロジェクト演習」における受講者の調整等については、担当教員と相談してプロジェクト演習担当委員会がこれに当たるものとする。
（6）「プロジェクト演習」の正式登録は第４セメスター（２年次後期）の履修登録時に行うものとし、仮登録者の変更を含めて教授会の承認を得なければならない。ただし、編入生の「プロジェクト演習」の正式登録は第５セメスター（３年次前期）の履修登録時に行うものとし、教授会の承認を得なければならない。
（7）「プロジェクト演習Ⅰ」を修得しなければ「プロジェクト演習Ⅱ」を履修することはできない。また、「プロジェクト演習Ⅱ」を修得しなければ「プロジェクト演習Ⅲ」を履修することはできない。ただし、編入生は「プロジェクト演習Ⅱ」から履修することとし、「プロジェクト演習Ⅱ」を修得しなければ「プロジェクト演習Ⅲ」を履修することはできない。
（8）「プロジェクト演習Ⅰ」、「プロジェクト演習Ⅱ」及び「プロジェクト演習Ⅲ」においては、重点科目及び推奨科目を指定するものとする。
（8）－２　重点科目とは、担当する教員がプロジェクト演習実施上その履修が必要であると考える科目を指す。
（8）－３　推奨科目とは、担当する教員がプロジェクト演習実施上その履修が望ましいと考える科目を指す。
（9）「プロジェクト演習」と連携し、「課題研究」（４単位）を設置することがある。課題研究の履修における条件など詳細は別途定め、「ビジネス学部講義要項・シラバス」などで履修登録時までに告知する。
(10)「プロジェクト演習Ⅲ」においては、成果報告会における成果報告を行わなけ

れば、単位が認定されない。成果報告については、担当教員の指示による。

(11)「プロジェクト演習」または「課題研究」では、学外での教育研究活動を行うことがある。

(12)「プロジェクト演習」または「課題研究」における学外での教育研究活動での実習に伴う費用については、その実費を徴収することがある。

２．ビジネス学部　　教職課程

（1）教職課程の概要

ビジネス学部では、高等学校教員を目指す者に対して、教職課程が設けられています。

教員には次の世代の人材を育成するという重要な使命があり、そのため、十分な専門知識を持つと同時に、優れた人格や指導力が求められます。このことを踏まえ、免許取得には多くの科目の履修が求められています。履修すべき科目は、いずれも上記の目的のために必要な科目であるとの認識を十分に持って、相当な覚悟で科目の履修に取り組んでください。

教育実習は、教員になるにふさわしい専門の学力と勉学に対する態度を身につけて、はじめて受講できるものと考えてください。

（2）免許状の種類と免許教科

本学部に在学している学生の取得できる免許状の種類と免許教科は次の通りです。

学　　科	免許状の種類	免許教科
ビジネス学科	高等学校教諭一種免許状	公　民
ビジネス学科	高等学校教諭一種免許状	商　業

（3）教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

『教育職員免許法』に定める最低修得単位数は下記の通りです。『教育職員免許法』第５条及び『教育職員免許法施行規則』第66条の６に定める「日本国憲法」（２単位）、「体育」（２単位）、「外国語コミュニケーション」（２単位）、「情報機器の操作」（２単位）が必要です。

所要資格／免許状の種類	基礎資格	大学において取得することを必要とする専門教育科目の最低単位数			
		教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	規則 66 条の６に定める科目
高等学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	20	23	16	8

（4）教職課程登録

①教職課程履修希望者は実習前年度までに「教職課程登録」の手続きをしなければなりません。

②教職課程を辞退する場合は、教職センターへ辞退の届出をしなければなりません。

（5）教職課程の科目

①教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

■ビジネス学部　ビジネス学科　平成23～25年度（2011～2013）入学生

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
別表第一備考四号確認欄	2	日本国憲法	2	○　日本国憲法	2		1	後期	小林
	2	体育	2	○　健康スポーツ演習	2		2	前期	西田
	2	外国語コミュニケーション	2	○　英語会話　Ⅰ ○　英語会話　Ⅱ	1 1		1 1	前期 後期	Dale Watkins Dale Watkins
	2	情報機器の操作	2	○　ITリテラシー　Ⅰ ○　ITリテラシー　Ⅱ	1 1		1 1	不開講 不開講	

※　授業科目の○印は必修科目

②　教科又は教職に関する科目

■ビジネス学部　ビジネス学科　平成23～25年度（2011～2013）入学生

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科又は教職に関する科目	16	教科又は教職に関する科目	16	道徳教育論		2	3	不開講	

※　「教科又は教職に関する科目」の単位修得について、「教科に関する科目」もしくは「教職に関する科目」において最低修得単位を超えて修得した単位をこれに含めることができる

③　教科に関する科目

■ビジネス学部　ビジネス学科　平成23～25年度（2011～2013）入学生

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科に関する科目	32	法律学（国際法を含む） 政治学（国際政治を含む）	20	憲法　Ⅰ		2	2	不開講	
				憲法　Ⅱ		2	2	不開講	
				民法　Ⅰ		2	2	不開講	
				債権法		2	2	不開講	
				○ 法のしくみとビジネス	2		1	後期	金田
				政治原論　Ⅰ		2	2	前期	平尾
				政治原論　Ⅱ		2	2	後期	平尾
				○　政治のしくみとビジネス	2		1	前期	平尾
		社会学 経済学（国際経済学を含む）		○　経済のしくみとビジネス	2		1	後期	岩見
				ミクロ経済学　Ⅰ		2	2	前期	山下
				ミクロ経済学　Ⅱ		2	2	後期	山下
				マクロ経済学　Ⅰ		2	2	前期	西川
				マクロ経済学　Ⅱ		2	2	後期	西川
				財政学　Ⅰ		2	2	前期	三浦
				財政学　Ⅱ		2	2	後期	三浦
				○ 国際経済学　Ⅰ	2		2	後期	荒井
				○ 国際経済学　Ⅱ	2		2	後期	荒井
		哲学・倫理学・宗教学・心理学		現代社会と哲学		2	1	後期	表
				現代社会と宗教		2	1	不開講	
				○ 現代社会と倫理	2		1	後期	濱崎
				人間関係の心理学		2	1	後期	野口
				認知行動の心理学		2	1	不開講	
	32		20		12	32			

※　授業科目の○印は必修科目

※　「教科に関する科目」の単位修得において、20単位を超えた単位数は「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

高等学校教諭一種（商業）

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科に関する科目	32	商業の関係科目	20	○ 管理のしくみとビジネス	2		1	前期	矢倉
				○ 簿記のしくみとビジネス	2		1	前期	西口
				○ 簿記 Ⅰ	2		1	不開講	
				○ 簿記 Ⅱ	2		1	不開講	
				経営管理論 Ⅰ		2	2	前期	水野
				経営管理論 Ⅱ		2	2	後期	水野
				経営組織論 Ⅰ		2	2	不開講	
				経営組織論 Ⅱ		2	2	不開講	
				経営戦略論 Ⅰ		2	3	前期	水野
				経営戦略論 Ⅱ		2	3	後期	水野
				人的資源管理論 Ⅰ		2	2	前期	宮坂
				人的資源管理論 Ⅱ		2	2	後期	宮坂
				リーダーシップ論 Ⅰ		2	2	不開講	
				リーダーシップ論 Ⅱ		2	2	不開講	
				企業論 Ⅰ		2	2	不開講	
				企業論 Ⅱ		2	2	不開講	
				経営倫理学 Ⅰ		2	3	前期	宮坂
				経営倫理学 Ⅱ		2	3	後期	宮坂
				経営史 Ⅰ		2	2	前期	矢倉
				経営史 Ⅱ		2	2	後期	矢倉
				監査論 Ⅰ		2	3	前期	松本
				監査論 Ⅱ		2	3	後期	松本
				原価計算論 Ⅰ		2	3	前期	清水正
				原価計算論 Ⅱ		2	3	後期	清水正
				管理会計論 Ⅰ		2	3	前期	清水正
				管理会計論 Ⅱ		2	3	後期	清水正
				財務諸表論 Ⅰ		2	2	前期	松本
				財務諸表論 Ⅱ		2	2	後期	松本
				○ 職業指導 Ⅰ	2		3	前期	水野
		職業指導		○ 職業指導 Ⅱ	2		3	後期	水野
	32		20		12	48			

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教科に関する科目」の単位修得において、20単位を超えた単位数は「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

④ 教職に関する科目

■ビジネス学部　ビジネス学科　平成23～25年度（2011～2013）入学生

高等学校教諭一種（公民）

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等			左記に対応する開設授業科目		配当	開講時期	平成28年度担当者
					授業科目	単位数			
	単位数	科　目	各科目に含める必要事項	単位数		必修			
教職に関する科目	2	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○ 教職概論	2	1	前期	瀧明
	6	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び理想	6	○ 教育原理	2	2	後期	松田
			・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		○ 教育心理学	2	2	前期	岡村
			・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		○ 教育法概論	2	2	後期	西辻
	10	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	6	○ 教育課程論	2	2	不開講	
			・各教科の指導法		○ 公民科教育法 Ⅰ	2	2	不開講	
					○ 公民科教育法 Ⅱ	2	3	後期	日下
			・特別活動の指導法		○ 特別活動の指導法	2	3	後期	松田
			・教育の方法と技術（情報機器及び教材の活用を含む）		○ 教育の方法と技術	2	3	後期	西辻
	4	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	○ 生徒指導・進路指導	2	3	不開講	
			・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		○ 教育相談の理論と方法	2	3	後期	岡村
	2	教職実践演習		2	○ 教職実践演習	2	4	後期	菅、廣田
	3	教育実習		3	○ 教育実習（含　事前事後指導）	3	4	集中	菅、廣田
	27			23		27			

※ 授業科目の○印は必修科目

※ 「教科に関する科目」の単位修得において、20単位を超えた単位数は「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

■ビジネス学部　ビジネス学科　平成23～25年度（2011～2013）入学生

高等学校教諭一種（商業）

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数	免許法施行規則に定める科目及び区分等				左記に対応する開設授業科目		配当	開講時期	平成28年度担当者
	単位数	科　目	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数 必修			
教職に関する科目	2	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○ 教職概論	2	1	前期	瀧明
	6	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び理想	6	○ 教育原理	2	2	後期	松田
			・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		○ 教育心理学	2	2	前期	岡村
			・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		○ 教育法概論	2	2	後期	西辻
	10	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	6	○ 教育課程論	2	2	不開講	
			・各教科の指導法		○ 商業科教育法　Ⅰ	2	2	不開講	
					○ 商業科教育法　Ⅱ	2	3	不開講	
			・特別活動の指導法		○ 特別活動の指導法	2	3	後期	松田
			・教育の方法と技術（情報機器及び教材の活用を含む）		○ 教育の方法と技術	2	3	後期	西辻
	4	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	○ 生徒指導・進路指導	2	3	不開講	
			・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		○ 教育相談の理論と方法	2	3	後期	岡村
	2	教職実践演習		2	○ 教職実践演習	2	4	後期	菅、廣田
	3	教育実習		3	○ 教育実習（含　事前事後指導）	3	4	集中	菅、廣田
	27			23		27			

※ 授業科目の○印は必修科目

※「教職に関する科目」の単位修得において、23単位を超えた単位数は「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

（６）教職課程科目の履修について

教職課程関連科目の登録は、原則として教育実習に参加し、所定の教育職員免許状を取得することを前提とします。

（７）教育実習

①「教育実習」の評価について

『教育職員免許法』に基づき、免許状取得条件科目に「教育実習」があります。

高等学校教諭の免許状を取得するには「教育実習」３単位の修得が必要です。すなわち、「教育実習Ⅰ」（２単位）と「教育実習事前事後指導」（１単位）を履修し、それらすべてを修得することが必要です。

②「教育実習」の履修登録

教育実習受講有資格者は、４年次の履修登録期間中に「教育実習登録」の手続きをしなければなりません。

③「教育実習」の履修資格

ａ．当該年度（「教育実習」実施年度４年次）において卒業見込みの者

ｂ．前年度に教職課程登録等の所定の手続きを行っている者

ｃ．前年度までに以下の科目の単位を修得している者

◆卒業に必要な124単位のうち、100単位以上の単位を修得していること
◆教科に関する科目の必修及び選択必修科目のうち、原則として10科目以上の単位を修得していること
◆教職に関する科目のうち、「教育原理」、「教育心理学」、「公民科教育法」または「商業科教育法」の単位を修得していること
ｄ．教職課程委員会が学力・学習態度等を含めて適当と認めた者

④教育実習校の選定

「教育実習」は４年次に実施しますが、３年次から準備が必要です。３年次の５月頃に、「実習校選定のための説明会」を実施します。ここでの手続きを怠ると４年次で「教育実習」の履修登録ができませんので、説明会実施についての掲示に注意してください。

⑤教育実習費の納入

教育職員免許状の取得を希望する学生は教育実習費を定められた期日に納入してください。

教育実習費　２０，０００円
納入方法　３年次４月　教職課程登録時　１０，０００円
　　４年次４月　教育実習登録時　１０，０００円
納入場所　事務局経理課（１号館１階）

３．ビジネス学部
授業科目表及び履修モデル

平成23～25年度（2011～2013）入学生　ビジネス学部 ビジネス学科 授業科目表

Ⅰ．共通教育科目

部門	分野	科目名	単位	履修条件	選択	配当年次	開講時期	平成28年度担当者
導入基礎科目		日本語コミュニケーションⅠ【留学生を除く】	1	△		1	閉講	
		日本語コミュニケーションⅡ【留学生を除く】	1	△		1	閉講	
		ITリテラシーⅠ	1	▲		1	閉講	
		ITリテラシーⅡ	1	▲		1	閉講	
		基礎数学Ⅰ	1	▲		1	閉講	
		基礎数学Ⅱ	1	▲☆		1	不開講	
外国語科目		基礎英語Ⅰ	1	▲	4単位以上	1	前期	伊達
		基礎英語Ⅱ	1	▲☆		1	前・後期	伊達
		英語読解Ⅰ	1	★		1	前・後期	前期：伊達、後期：森
		英語読解Ⅱ	1	◇		1	前・後期	伊達
		英語会話Ⅰ	1	★		1	前期	ワトキンス
		英語会話Ⅱ	1	◇		1	後期	ワトキンス
		資格試験対策英語Ⅰ	1	★		2	前期	伊達
		資格試験対策英語Ⅱ	1	◇		2	後期	伊達
		中国語入門Ⅰ	2			1	閉講	
		中国語Ⅰ	1			1	前期	竹田
		中国語Ⅱ	1			1	後期	竹田
		中国語入門Ⅱ	2	◇		1	閉講	
		中国語Ⅲ	1			2	前期	竹田
		中国語Ⅳ	1			2	後期	竹田
		中国語会話Ⅰ	1			1	前期	劉
		中国語会話Ⅱ	1	◇		1	後期	劉
		日本語（語彙・読解）Ⅰ【留学生】	1	△		1	閉講	
		日本語（語彙・読解）Ⅱ【留学生】	1	△		1	閉講	
		日本語（作文）Ⅰ【留学生】	1	△		1	閉講	
		日本語（作文）Ⅱ【留学生】	1	△		1	閉講	
		日本語特講（語彙・読解）Ⅰ【留学生】	1			1	前期	桑原
		日本語特講（語彙・読解）Ⅱ【留学生】	1			1	後期	桑原
		日本語特講（文法・聴解）Ⅰ【留学生】	1			1	前期	竹田
		日本語特講（文法・聴解）Ⅱ【留学生】	1			1	後期	竹田
		日本語（上級作文）Ⅰ【留学生】	1	△		2	閉講	
		日本語（上級作文）Ⅱ【留学生】	1	△		2	閉講	
キャリア形成科目		キャリアデザインⅠ	2	△	44単位以上	1	閉講	
		キャリアデザインⅡ	2	△		1	閉講	
		キャリアディベロップメントⅠ	2	△		2	閉講	
		キャリアディベロップメントⅡ	2	△		2	閉講	
		キャリアスキルアップⅠ	2	△		3	閉講	
		キャリアスキルアップⅡ	2	△		3	閉講	
		キャリアビジネス実務Ⅰ	2	△		4	前期	岩見
		キャリアビジネス実務Ⅱ	2	△		4	後期	西川
		インターンシップⅠ	2	※		2	閉講	
		インターンシップⅡ	2	※		3	閉講	
スポーツ関連科目	実技	サッカー	1			1	不開講	
		ソフトボール	1			1	不開講	
		卓球	1			1	不開講	
		テニス	1			1	不開講	
		バスケットボール	1			1	不開講	
		バドミントン	1			1	不開講	
	講義	コーチング論	2			1	後期	西田
		スポーツ心理学	2			1	後期	宇津木
		スポーツ科学論	2			1	不開講	
	演習	健康スポーツ演習	2			2	前期	西田
教養教育科目	人文科学系	現代社会と哲学	2			1	後期	表
		現代社会と倫理	2			1	後期	濱崎
		現代社会と宗教	2			1	不開講	
		日本の文学	2			1	前期	阿尾
		日本の歴史	2			1	不開講	
		外国の歴史	2			1	不開講	
		現代社会と地理	2			1	前期	日下
	社会科学系	日本国憲法	2			1	後期	小林
		現代社会入門	2			1	不開講	
		社会科学の考え方	2			1	不開講	
		日本人の労働を考える	2			1	後期	武谷
		税制から見る日本経済	2			1	前期	三浦
		アジアから見る世界経済	2			1	前期	岩見
		日本とアジア諸国との関係を考える	2			1	不開講	
		人間関係の心理学	2			1	後期	野口
		認知行動の心理学	2			1	不開講	

教養教育科目	自然科学系	生活の中の数学	2		44単位以上	1	不開講	
		科学技術を考える	2			1	前期	大原
		生活の中の物理	2			1	後期	大原
		生活の中の化学	2			1	前期	阪元
		生命の科学	2			1	不開講	
		地球の科学	2			1	閉講	
		実験で学ぶ科学	2			1	後期	阪元
		科学の歴史	2			1	不開講	
	総合学際系	メディアを考える	2			1	不開講	
		奈良の文学と風土	2			1	後期	桑原
		奈良の歴史と伝統	2			1	前期	南城
		環境を考える	2			1	後期	阪元
		人権を考える	2			1	後期	小林
		地域社会を考える	2			1	不開講	
		特講（ボランティア論）	2			2	後期	谷口
		日本事情Ⅰ【留学生】	2			1	閉講	
		日本事情Ⅱ【留学生】	2			1	閉講	

△　登録必修
▲　プレースメントテストの結果に応じて登録必修
☆　プレースメントテストに合格するか、同名の「Ⅰ」を修得しなければ履修できない
★　プレースメントテストに合格するか、「基礎英語Ⅰ」を修得しなければ履修できない
◇　同名の「Ⅰ」を修得しなければ履修できない
※　別に定める条件を満たさなければ履修できない

注1　外国語科目が母語である場合を除き、履修を認める
注2　「中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の履修条件は次の通りとする
①「中国語Ⅰ」は、「中国語入門」及び「中国語続入門」をすでに修得している場合は履修不可
②「中国語Ⅱ」は、「中国語Ⅰ」を未修得の場合、または「中国語入門」及び「中国語続入門」をすでに修得している場合は履修不可
③「中国語Ⅲ」は、「中国語入門」、「中国語Ⅰ・Ⅱ」を未修得を未修得の場合、または「中国語続入門」をすでに修得している場合は履修不可
④「中国語Ⅳ」は、「中国語入門」、「中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を未修得の場合、または「中国語続入門」をすでに修得している場合は履修不可

平成23～25年度（2011～2013）入学生　ビジネス学部 ビジネス学科 授業科目表

Ⅱ. 専門教育科目

区分	コース分野			授業科目	単位	履修区分卒業要件	配当年次	開講時期	平成28年度担当者
専門教育科目	専門基礎科目			管理の仕組みとビジネス	2	8単位	1	前期	矢倉
				マーケティングの仕組みとビジネス	2		1	後期	棚橋
				簿記の仕組みとビジネス	2		1	前期	西口
				法の仕組みとビジネス	2		1	後期	金田
				政治の仕組みとビジネス	2		1	前期	平尾
				経済の仕組みとビジネス	2		1	後期	岩見
	専門科目	経営コース	基幹科目	経営史Ⅰ	2	60位以上	2	前期	矢倉
				経営史Ⅱ	2		2	後期	矢倉
				企業論Ⅰ	2		2	不開講	
				企業論Ⅱ	2		2	不開講	
				経営管理論Ⅰ	2		2	前期	水野
				経営管理論Ⅱ	2		2	後期	水野
				経営組織論Ⅰ	2		2	不開講	
				経営組織論Ⅱ	2		2	不開講	
				人的資源管理論Ⅰ	2		2	前期	宮坂
				人的資源管理論Ⅱ	2		2	後期	宮坂
				リーダーシップ論Ⅰ	2		2	不開講	
				リーダーシップ論Ⅱ	2		2	不開講	
			発展科目	経営戦略論Ⅰ	2		3	前期	水野
				経営戦略論Ⅱ	2		3	後期	水野
				経営倫理学Ⅰ	2		3	前期	宮坂
				経営倫理学Ⅱ	2		3	後期	宮坂
				コミュニティビジネスⅠ	2		3	前期	水野
				コミュニティビジネスⅡ	2		3	後期	水野
				企業と法律Ⅰ	2		3	前期	金田
				企業と法律Ⅱ	2		3	後期	金田
				リスクマネジメントⅠ	2		3	前期	竹山
				リスクマネジメントⅡ	2		3	後期	竹山
				現代企業家事情	2		3	後期	矢倉
				経営財務論Ⅰ	2		3	前期	松本
				経営財務論Ⅱ	2		3	後期	松本
		マーケティングコース	基幹科目	マーケティング論Ⅰ	2		2	前期	棚橋
				マーケティング論Ⅱ	2		2	後期	棚橋
				マーケティングリサーチ	2		2	前期	棚橋
				消費者行動論Ⅰ	2		2	前期	谷口
				消費者行動論Ⅱ	2		2	後期	谷口
				商品の科学Ⅰ	2		2	不開講	
				商品の科学Ⅱ	2		2	不開講	
				債権法	2		2	不開講	
			発展科目	商品と物流Ⅰ	2		3	前期	棚橋
				商品と物流Ⅱ	2		3	後期	棚橋
				広告論Ⅰ	2		3	不開講	
				広告論Ⅱ	2		3	不開講	
				消費者と法律Ⅰ	2		3	集中	豊田
				消費者と法律Ⅱ	2		3	集中	豊田
		会計コース	基幹科目	簿記Ⅰ	2		1	不開講	
				簿記Ⅱ	2		1	不開講	
				簿記中級	2		2	前期	西口
				簿記上級	2		2	後期	西口
				会計学原理Ⅰ	2		2	不開講	
				会計学原理Ⅱ	2		2	不開講	
				財務諸表論Ⅰ	2		2	前期	松本
				財務諸表論Ⅱ	2		2	後期	松本
			発展科目	原価計算論Ⅰ	2		3	前期	清水正
				原価計算論Ⅱ	2		3	後期	清水正
				管理会計論Ⅰ	2		3	前期	清水正
				管理会計論Ⅱ	2		3	後期	清水正
				監査論Ⅰ	2		3	前期	松本
				監査論Ⅱ	2		3	後期	松本
				経営分析論Ⅰ	2		3	前期	松本
				経営分析論Ⅱ	2		3	後期	松本

専門教育科目	専門科目	公務員コース	基幹科目	憲法Ⅰ	2	60位以上	2	不開講	
				憲法Ⅱ	2		2	不開講	
				民法Ⅰ	2		2	不開講	
				商法Ⅰ	2		2	前期	金田
				商法Ⅱ	2		2	後期	金田
				刑法Ⅰ	2		2	前期	田中
				刑法Ⅱ	2		2	後期	田中
				行政法Ⅰ	2		2	前期	高橋
				行政法Ⅱ	2		2	後期	高橋
				政治原論Ⅰ	2		2	前期	平尾
				政治原論Ⅱ	2		2	後期	平尾
				ミクロ経済学Ⅰ	2		2	前期	山下
				ミクロ経済学Ⅱ	2		2	後期	山下
				マクロ経済学Ⅰ	2		2	前期	西川
				マクロ経済学Ⅱ	2		2	後期	西川
			発展科目	労働法	2		3	後期	松村
				社会保障法	2		3	後期	松村
				行政学	2		3	前期	古田
				地方自治論	2		3	後期	古田
				数理処理	2		3	後期	竹山、山下
				答案練習Ⅰ	2		3	前期	幸田
				答案練習Ⅱ	2		3	後期	幸田
		学士関連科目	基幹科目	ITスキルアップⅠ	2		2	前期	藤井、渡辺
				ITスキルアップⅡ	2		2	後期	藤井、渡辺
				経済政策Ⅰ	2		2	前期	福留
				経済政策Ⅱ	2		2	後期	福留
				財政学Ⅰ	2		2	前期	三浦
				財政学Ⅱ	2		2	後期	三浦
				レジャー産業論	2		2	後期	清水啓
				スポーツ経営学	2		2	前期	清水啓
				国際経済学Ⅰ	2		2	後期	荒井
				国際経済学Ⅱ	2		2	後期	荒井
			発展科目	ビジネス情報解析論Ⅰ	2		3	前期	藤井
				ビジネス情報解析論Ⅱ	2		3	後期	藤井
				スポーツ行政学	2		3	不開講	
				知的財産法	2		3	不開講	
				言語能力開発	2		3	前期	川本
				政策科学Ⅰ	2		3	前期	古田
				政策科学Ⅱ	2		3	後期	古田
				アジア経済論	2		3	前期	河合
				アジアビジネス事情	2		3	後期	河合
				職業指導Ⅰ	2		3	前期	水野
				職業指導Ⅱ	2		3	後期	水野
		新規開設科目（平成28年度～）		ビジネス学特講A（経済学史）Ⅰ	2		2	前期	渡辺
				ビジネス学特講A（経済学史）Ⅱ	2		2	前期	渡辺
				ビジネス学特講B（日本経済論）	2		2	前期	福留
				ビジネス学特講B（日本経済論）	2		2	前期	福留
				ビジネス学特講C（金融論）Ⅰ	2		2	後期	岩見
				ビジネス学特講C（金融論）Ⅱ	2		2	後期	岩見
	演習科目			導入演習	2	△ 12単位以上	1	不開講	
				基礎演習	2	△	1	不開講	
				総合演習	2	△	2	前期	井上
				プレ・プロジェクト演習	2	△	2	後期	宇津木
				プロジェクト演習Ⅰ	4	◎	3	通年	岩見、三浦、渡辺
				プロジェクト演習Ⅱ	4	◎	4	通年	岩見、宇津木、金田、河合、武谷、竹山、西口、西田、福留、藤井、古田、三浦、宮坂、渡辺

※ ◎＝必修、△＝登録必修

平成19年度～平成22年度（2007～2010）入学生 ビジネス学部 ビジネス学科 授業科目表

Ⅰ．共通教育科目

区分	科目名	単位	履修区分 必修		履修区分 選択		配当年次	開講時期	平成28年度担当者
共通基礎科目	日本語コミュニケーションⅠ 【留学生を除く】	1	◎	8単位			1	閉講	
	日本語コミュニケーションⅡ 【留学生を除く】	1	◎				1	閉講	
	英語コミュニケーションⅠ	1	◎				1	閉講	
	英語コミュニケーションⅡ	1	◎				1	前・後期	伊達
	日本語（語彙・読解）Ⅰ 【留学生のみ】	1	◎				1	閉講	
	日本語（語彙・読解）Ⅱ 【留学生のみ】	1	◎				1	閉講	
	日本語（作文）Ⅰ 【留学生のみ】	1	◎				1	閉講	
	日本語（作文）Ⅱ 【留学生のみ】	1	◎				1	閉講	
	ベーシック数理Ⅰ 【留学生を除く】	1	◎				1	閉講	
	ベーシック数理Ⅱ 【留学生を除く】	1	◎				1	不開講	
	ITリテラシーⅠ	1	◎				1	閉講	
	ITリテラシーⅡ	1	◎				1	閉講	
キャリア形成科目	キャリアデザインⅠ	2	◎	4単位			1	閉講	
	キャリアデザインⅡ	2	◎				1	後期	西川
	キャリアスキルアップⅠ	2			○	4単位	2	閉講	
	キャリアスキルアップⅡ	2			○		2	閉講	
	キャリアスキルアップⅢ	2			○		3	閉講	
	キャリアスキルアップⅣ	2			○		3	閉講	
	キャリアビジネス実務	2			○		4	前期	岩見
外国語科目	TOEIC対策英語Ⅰ	2			○	4単位	1	閉講	
	TOEIC対策英語Ⅱ	2			○		1	閉講	
	英会話Ⅰ	2			○		1	閉講	
	英会話Ⅱ	2			○		1	閉講	
	インターネット英語Ⅰ	2			○		1	閉講	
	インターネット英語Ⅱ	2			○		1	閉講	
	日本語（文章表現）Ⅰ 【留学生のみ】	2			△		2	閉講	
	日本語（文章表現）Ⅱ 【留学生のみ】	2			△		2	閉講	
	中国語入門	4			○		1	閉講	
	中国語続入門	4					1	閉講	
	中国語Ⅰ	1			※		1	前期	竹田
	中国語Ⅱ	1			※		1	後期	竹田
	中国語Ⅲ	1			※		2	前期	竹田
	中国語Ⅳ	1			※		2	後期	竹田
	中国語会話Ⅰ	1			※		1	前期	劉
	中国語会話Ⅱ	1			※		1	後期	劉
教養教育科目	日本事情Ⅰ 【留学生のみ】	2			△	24単位	1	閉講	
	日本事情Ⅱ 【留学生のみ】	2			△		1	閉講	
	現代社会と哲学	2			○		1	後期	表
	現代社会と倫理	2			○		1	後期	濱崎
	現代社会と宗教	2			○		1	不開講	
	現代社会と地理	2			○		1	前期	日下
	現代社会と化学	2			○		1	閉講	
	人権問題	2			○		1	後期	小林
	民族問題	2			○		1	閉講	
	東洋の歴史	2			○		1	不開講	
	西アジアの歴史	2			○		1	閉講	
	人間関係の心理学	2			○		1	後期	野口
	認知行動の心理学	2			○		1	不開講	
	生活の中の数学	2			○		1	不開講	
	生活の中の物理	2			○		1	後期	大原
	生活の中の化学	2			○		1	前期	阪元
	情報科学論	2			○		1	閉講	
	情報処理論	2			○		1	閉講	
	情報システム論	2			○		1	閉講	
	科学思想史	2			○		1	閉講	
	科学技術論	2			○		1	前期	大原
	科学の成立と展開	2			○		1	不開講	
	文学の成立と展開	2			○		1	前期	阿尾
	詩歌の発生と展開	2			○		1	閉講	

教養教育科目	文学作品と作家	2		○	24単位	1	閉講	
	奈良の文学と風土	2		○		1	後期	桑原
	奈良の歴史	2		○		1	前期	南城
	奈良の美術工芸	2		○		1	閉講	
	環境と倫理	2		○		1	閉講	
	地球と環境	2		○		1	後期	阪元
	植物の自然誌	2		○		1	閉講	
	地球科学	2		○		1	閉講	
	エネルギーと環境	2		○		1	閉講	
	健康・体力科学論	2		○		1	不開講	
	スポーツ文化史	2		○		1	閉講	
	スポーツマネジメント	2		○		1	閉講	
	スポーツバイオメカニクス	2		○		1	閉講	
	コーチング論	2		○		1	後期	西田
	健康スポーツ演習	2		○		1	前期	西田
	競技スポーツ演習Ⅰ	2		○		1	閉講	
	競技スポーツ演習Ⅱ	2		○		1	閉講	
	競技スポーツ演習Ⅲ	2		○		2	閉講	
	競技スポーツ演習Ⅳ	2		○		2	閉講	
	競技スポーツ演習Ⅴ	2		○		3	閉講	
	競技スポーツ演習Ⅵ	2		○		3	閉講	
	競技スポーツ演習Ⅶ	2		○		4	閉講	
	競技スポーツ演習Ⅷ	2		○		4	閉講	

△　登録必修
▲　プレースメントテストの結果に応じて登録必修
☆　プレースメントテストに合格するか、同名の「Ⅰ」を修得しなければ履修できない
★　プレースメントテストに合格するか、「基礎英語Ⅰ」を修得しなければ履修できない
◇　同名の「Ⅰ」を修得しなければ履修できない
※　別に定める条件を満たさなければ履修できない

注1　外国語科目が母語である場合を除き、履修を認める
注2　「中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の履修条件は次の通りとする
①「中国語Ⅰ」は、「中国語入門」及び「中国語続入門」をすでに修得している場合は履修不可
②「中国語Ⅱ」は、「中国語Ⅰ」を未修得の場合、または「中国語入門」及び「中国語続入門」をすでに修得している場合は履修不可
③「中国語Ⅲ」は、「中国語入門」、「中国語Ⅰ・Ⅱ」を未修得を未修得の場合、または「中国語続入門」をすでに修得している場合は履修不可
④「中国語Ⅳ」は、「中国語入門」、「中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を未修得の場合、または「中国語続入門」をすでに修得している場合は履修不可

平成19年度～平成22年度（2007～2010）入学生 ビジネス学部 ビジネス学科 授業科目表

Ⅱ．専門教育科目

区分	科目名	単位	履修区分 必修	履修区分 選択		配当年次	開講時期	平成28年度担当者
専門基礎科目	現代社会入門	2	◎ 2単位			1	不開講	
	現代社会トピックスⅠ	2		○	4単位	1	不開講	
	現代社会トピックスⅡ	2		○		1	不開講	
	現代社会トピックスⅢ	2		○		1	不開講	
	現代社会トピックスⅣ	2		○		1	不開講	
	現代社会トピックスⅤ	2		○		1	不開講	
	現代社会トピックスⅥ	2		○		1	不開講	
	経済入門	2		○	8単位	1	後期	岩見
	経済統計入門	2		○		1	不開講	
	ビジネス入門	2		○		1	前期	矢倉
	会計入門	2		○		1	前期	西口
	法学入門	2		○		1	後期	金田
	政治学入門	2		○		1	前期	平尾
	統計学入門	2		○		1	不開講	
専門科目	ミクロ経済学	4		○	36単位	2	通年	山下
	マクロ経済学	4		○		2	通年	西川
	経済学史	4		○		2	不開講	
	日本経済論	4		○		2	不開講	
	日本経済史	4		○		2	不開講	
	アジア経済論	4		○		2	不開講	
	地域経済論	4		○		2	不開講	
	経済政策	4		○		2	通年	福留
	財政学	4		○		2	通年	三浦
	環境経済学	4		○		2	不開講	
	金融論	4		○		2	不開講	
	証券市場論	4		○		2	不開講	
	計量経済学	4		○		2	不開講	
	企業論	4		○		2	不開講	
	経営管理論	4		○		2	通年	水野
	経営情報論	4		○		2	不開講	
	経営組織論	4		○		2	不開講	
	経営倫理学	4		○		2	通年	宮坂
	経営史	4		○		2	通年	矢倉
	人的資源管理論	4		○		2	通年	宮坂
	簿記	4		○		2	不開講	
	財務諸表論	4		○		2	通年	松本
	原価計算論	4		○		2	通年	清水正
	商取引法	4		○		2	通年	金田
	憲法	4		○		2	不開講	
	行政法	4		○		2	通年	高橋
	民法	4		○		2	不開講	
	刑法	4		○		2	通年	田中
	政治原論	4		○		2	通年	平尾
	国際政治学	4		○		2	不開講	
	法社会学	4		○		2	不開講	
	経済法	4		○		2	不開講	
	会社法	4		○		2	通年	金田
	リーダーシップ論	4		○		2	不開講	
	政策科学	4		○		2	通年	古田
	国際経済学	4		○		2	後期	荒井
	労働経済論	4		○		2	不開講	
	社会保障論	4		○		2	不開講	
	公共経済学	4		○		2	不開講	
	産業組織論	4		○		2	不開講	
	中小企業論	4		○		2	不開講	
	リスクマネジメント	4		○		2	通年	竹山
	経営戦略論	4		○		2	通年	水野
	マーケティング論	4		○		2	通年	棚橋
	管理会計論	4		○		2	通年	清水正
	監査論	4		○		2	通年	松本

専門科目	経営学史	4			○	36単位	2	不開講	
	労働法・社会保障法	4			○		2	後期	松村
	民事訴訟法	4			○		2	不開講	
	刑事訴訟法	4			○		2	不開講	
	知的財産権法	4			○		2	不開講	
	政治思想	4			○		2	不開講	
	行政学	4			○		2	不開講	
	地方自治論	4			○		2	不開講	
	課題研究	4			○		2	不開講	
	職業指導	4			○		3	通年	水野
	ビジネス学特講Ⅰ（スポーツ経営学）	4			○		2	閉講	
	ビジネス学特講Ⅱ（スポーツ行政学）	4			○		2	閉講	
	ビジネス学特講Ⅲ（消費者行動論）	4			○		2	通年	谷口
演習科目	専門演習Ⅰ	4	◎	8単位			3	不開講	
	専門演習Ⅱ	4	◎				4	通年	西川
	導入演習（半期）	2			△★	22単位	1	不開講	
	基礎演習（半期）	2			△★		1	不開講	
	総合演習	4			△★		2	不開講	
	プロジェクト演習Ⅰ	2			△		2	不開講	
	プロジェクト演習Ⅱ	4			△		3	通年	川本
	プロジェクト演習Ⅲ	4			△		4	通年	川本
	短期プロジェクト演習	4			○		1	不開講	
							2	不開講	

※ ◎＝必修　△＝登録必修　を表す。

★専門演習履修条件【「導入演習」「基礎演習」「総合演習」から4単位以上を修得しなければ、「専門演習Ⅰ」を履修することはできない。】

ビジネス学部

コース別履修モデル

経営コース

		1年次配当科目	2年次配当科目	3年次配当科目	4年次配当科目
専門教育科目	専門基礎科目	管理の仕組みとビジネス	基幹科目 本コース：経営史Ⅰ＆Ⅱ◎	発展科目 本コース：経営戦略論Ⅰ＆Ⅱ○	
		マーケティングの仕組みとビジネス	企業論 Ⅰ＆Ⅱ◎	経営倫理学Ⅰ＆Ⅱ○	
		簿記の仕組みとビジネス	経営管理論Ⅰ＆Ⅱ◎	コミュニティビジネスⅠ＆Ⅱ○	
		法の仕組みとビジネス	経営組織論 Ⅰ＆Ⅱ◎	企業と法律Ⅰ＆Ⅱ○	
		政治の仕組みとビジネス	人的資源管理論Ⅰ＆Ⅱ◎	リスクマネジメントⅠ＆Ⅱ○	
		経済の仕組みとビジネス	リーダーシップ論Ⅰ＆Ⅱ◎	現代企業家事情○	
		4科目を選択必修	基幹科目 別コース：マーケティング論Ⅰ＆Ⅱ	経営財務論Ⅰ＆Ⅱ○	
			マーケティングリサーチ	発展科目 別コース：商品と物流Ⅰ＆Ⅱ	
			消費者行動論Ⅰ＆Ⅱ	広告論Ⅰ＆Ⅱ	
			商品の科学Ⅰ＆Ⅱ	消費者と法律Ⅰ＆Ⅱ	
	専門科目	別コース基幹科目	簿記中級	管理会計論Ⅰ＆Ⅱ	
		基幹科目：簿記Ⅰ＆Ⅱ	簿記上級	監査論Ⅰ＆Ⅱ	
			会計学原理Ⅰ＆Ⅱ	経営分析論Ⅰ＆Ⅱ	
			財務諸表論Ⅰ＆Ⅱ	数理処理	
			政治原論Ⅰ＆Ⅱ	ビジネス情報解析論Ⅰ＆Ⅱ	
			ミクロ経済学Ⅰ＆Ⅱ	スポーツ行政学	
			マクロ経済学Ⅰ＆Ⅱ	知的財産法	
			ITスキルアップⅠ＆Ⅱ◎	言語能力開発	
			財政学Ⅰ＆Ⅱ	政策科学Ⅰ＆Ⅱ○	
			レジャー産業論	アジア経済論	
			スポーツ経営学	アジアビジネス事情	
			国際経済学Ⅰ＆Ⅱ	ビジネス学特別講義	
			ビジネス学特別講義		
			基幹科目	発展科目	
			◎印の科目を中心に履修	○印の科目を中心に履修	
	30科目を選択必修				
	演習科目	導入演習	総合演習	プロジェクト演習Ⅰ（必修）	プロジェクト演習Ⅱ（必修）
		基礎演習	プレ・プロジェクト演習		
	2科目は必修、4科目は登録必修				

マーケティングコース

		1年次配当科目		2年次配当科目			3年次配当科目		4年次配当科目
専門教育科目	専門基礎科目	管理の仕組みとビジネス	基幹科目	基幹科目 本コース	マーケティング論Ⅰ＆Ⅱ◎	発展科目	発展科目 本コース	商品と物流Ⅰ＆Ⅱ○	
		マーケティングの仕組みとビジネス			マーケティングリサーチ◎			広告論Ⅰ＆Ⅱ○	
		簿記の仕組みとビジネス			消費者行動論Ⅰ＆Ⅱ◎			消費者と法律Ⅰ＆Ⅱ○	
		法の仕組みとビジネス			商品の科学Ⅰ＆Ⅱ◎				
		政治の仕組みとビジネス			債権法◎				
		経済の仕組みとビジネス		基幹科目 別コース	経営史Ⅰ＆Ⅱ		発展科目 別コース	経営戦略論Ⅰ＆Ⅱ	
		4科目を選択必修			企業論 Ⅰ＆Ⅱ			経営倫理学Ⅰ＆Ⅱ	
					経営管理論Ⅰ＆Ⅱ			コミュニティビジネスⅠ＆Ⅱ	
					経営組織論 Ⅰ＆Ⅱ			企業と法律Ⅰ＆Ⅱ	
					人的資源管理論Ⅰ＆Ⅱ			リスクマネジメントⅠ＆Ⅱ	
					リーダーシップ論Ⅰ＆Ⅱ			現代企業家事情	
	専門科目				簿記中級			経営財務論Ⅰ＆Ⅱ	
					簿記上級			管理会計論Ⅰ＆Ⅱ	
		別コース基幹科目			会計学原理Ⅰ＆Ⅱ			監査論Ⅰ＆Ⅱ	
		基幹科目 簿記Ⅰ＆Ⅱ			財務諸表論Ⅰ＆Ⅱ			経営分析論Ⅰ＆Ⅱ	
					政治原論Ⅰ＆Ⅱ			数理処理	
					ミクロ経済学Ⅰ＆Ⅱ			ビジネス情報解析論Ⅰ＆Ⅱ	
					マクロ経済学Ⅰ＆Ⅱ			スポーツ行政学	
					ITスキルアップⅠ＆Ⅱ◎			知的財産法	
					財政学Ⅰ＆Ⅱ			言語能力開発	
					レジャー産業論			政策科学Ⅰ＆Ⅱ	
					スポーツ経営学			アジア経済論	
					国際経済学Ⅰ＆Ⅱ			アジアビジネス事情	
					ビジネス学特別講義			ビジネス学特別講義	
			◎印の科目を中心に履修			○印の科目を中心に履修			
	30科目を選択必修								
	演習科目	導入演習		総合演習			プロジェクト演習Ⅰ（必修）		プロジェクト演習Ⅱ（必修）
		基礎演習		プレ・プロジェクト演習					
	2科目は必修、4科目は登録必修								

会計コース

		1年次配当科目		2年次配当科目		3年次配当科目		4年次配当科目
専門教育科目	専門基礎科目	管理の仕組みとビジネス	基幹科目	基幹科目 本コース	簿記中級◎	発展科目 本コース	管理会計論Ⅰ＆Ⅱ〇	
		マーケティングの仕組みとビジネス			簿記上級◎		監査論Ⅰ＆Ⅱ〇	
		簿記の仕組みとビジネス			会計学原理Ⅰ＆Ⅱ◎		経営分析論Ⅰ＆Ⅱ〇	
		法の仕組みとビジネス			財務諸表論Ⅰ＆Ⅱ◎			
		政治の仕組みとビジネス		基幹科目 別コース	経営史Ⅰ＆Ⅱ	発展科目 別コース	経営戦略論Ⅰ＆Ⅱ	
		経済の仕組みとビジネス			企業論 Ⅰ＆Ⅱ		経営倫理学Ⅰ＆Ⅱ	
		4科目を選択必修			経営管理論Ⅰ＆Ⅱ		コミュニティビジネスⅠ＆Ⅱ	
					経営組織論 Ⅰ＆Ⅱ		企業と法律Ⅰ＆Ⅱ	
					人的資源管理論Ⅰ＆Ⅱ		リスクマネジメントⅠ＆Ⅱ	
					リーダーシップ論Ⅰ＆Ⅱ		現代企業家事情	
	専門科目	本コース基幹科目			マーケティング論Ⅰ＆Ⅱ		経営財務論Ⅰ＆Ⅱ	
		基幹科目 簿記Ⅰ＆Ⅱ◎			マーケティングリサーチ		商品と物流Ⅰ＆Ⅱ	
					消費者行動論Ⅰ＆Ⅱ		広告論Ⅰ＆Ⅱ	
					商品の科学Ⅰ＆Ⅱ		消費者と法律Ⅰ＆Ⅱ	
					政治原論Ⅰ＆Ⅱ		数理処理	
					ミクロ経済学Ⅰ＆Ⅱ		ビジネス情報解析論Ⅰ＆Ⅱ	
					マクロ経済学Ⅰ＆Ⅱ		スポーツ行政学	
					ITスキルアップⅠ＆Ⅱ◎		知的財産法	
					財政学Ⅰ＆Ⅱ		言語能力開発	
					レジャー産業論		政策科学Ⅰ＆Ⅱ	
					スポーツ経営学		アジア経済論	
					国際経済学Ⅰ＆Ⅱ		アジアビジネス事情	
					ビジネス学特別講義		ビジネス学特別講義	
		◎印の科目を中心に履修		◎印の科目を中心に履修		〇印の科目を中心に履修		
		30科目を選択必修						
	演習科目	導入演習		総合演習		プロジェクト演習Ⅰ（必修）		プロジェクト演習Ⅱ（必修）
		基礎演習		プレ・プロジェクト演習				
		2科目は必修、4科目は登録必修						

公務員コース

	1年次配当科目	2年次配当科目	3年次配当科目	4年次配当科目
専門教育科目	専門基礎科目：管理の仕組みとビジネス／マーケティングの仕組みとビジネス／簿記の仕組みとビジネス／法の仕組みとビジネス／政治の仕組みとビジネス／経済の仕組みとビジネス **4科目を選択必修**	専門科目 基幹科目 本コース 基幹科目：憲法Ⅰ＆Ⅱ◎／民法Ⅰ◎／商法Ⅰ＆Ⅱ◎／刑法Ⅰ＆Ⅱ◎／行政法Ⅰ＆Ⅱ◎／政治原論Ⅰ＆Ⅱ◎／ミクロ経済学Ⅰ＆Ⅱ◎／マクロ経済学Ⅰ＆Ⅱ◎ 別コース 基幹科目：経営管理論Ⅰ＆Ⅱ◎／リーダーシップ論Ⅰ＆Ⅱ／債権法◎／会計学原理Ⅰ＆Ⅱ／ITスキルアップⅠ＆Ⅱ◎／経済政策Ⅰ＆Ⅱ◎／財政学Ⅰ＆Ⅱ／ビジネス学特別講義 ◎印の科目を中心に履修	発展科目 本コース 発展科目：労働法○／社会保障法○／行政学○／地方自治論／数理処理○／答案練習Ⅰ＆Ⅱ○ 別コース 発展科目：知的財産法／言語能力開発○／ビジネス学特別講義 ○印の科目を中心に履修	
		30科目を選択必修		
	演習科目：導入演習／基礎演習	総合演習／プレ・プロジェクト演習	プロジェクト演習Ⅰ（必修）	プロジェクト演習Ⅱ（必修）
	2科目は必修、4科目は登録必修			

ビジネス学　Q＆A

ビジネス学部では、ビジネス学に関する具体的なイメージ、「ビジネス学部でどのようなことが学べるのか」について具体的なイメージを描くことができるように、そして、4カ年で、ビジネス学を体系的に学んでもらいたい、との趣旨で、カリキュラムが設定されています。

Q：ビジネス学部はどのようなことを教えてくれる学部なのですか。
A：エコノミック・マインド、マネジメント・マインド、リーガル・マインドの複眼的思考を修得し、「ビジネス・ルール」を学び、「ビジネス力」を鍛える学部です。

Q：ビジネス学とは何ですか。
A：社会科学（経済学、経営学、法学）の視点から、ビジネス・ルールの在り方を考えることです。

Q：ビジネス・ルールとは何ですか。
A：私たちの社会には、企業間の商取引のルールだけでなく、社会を構成する個人および組織の社会・経済活動を規定するさまざまな法則と規範があります。これがビジネス・ルールです。

Q：どのようにして、ビジネス・ルールを学ぶのですか。
A：ビジネス・ルールは時代とともに変化しますし、社会によっても異なり、各々の事業領域ごとにも独自のルールがあります。
　本学部では、このルールの違いに着目し、「コース」を設置しています。

　コースは、将来の進路と結びついており、それぞれの活躍の場に応じた「ビジネス・ルール」を修得するのに適した科目群とその履修年次を「履修モデル」として分かりやすく示しています。

　いずれのコースを選択しても、それぞれ配当されている科目を履修することによってビジネス学を体系的に修得することができるように配慮されています。

情　報　学　部

　履修計画をたてるには、この項に記載してある履修規程及び一般的注意事項をよく理解する必要があります。これらの事項を理解して履修登録を行い、卒業に必要な単位を修得していくように努めてください。

１．情報学部　規程関係

情報学部　情報学科　履修規程

－平成23～25年度入学生対象－

（総　　則）

第１条　本学学則第20条第３項の規定に基づき、情報学部情報学科（以下「本学科」）の教育課程及び授業科目の履修については、この規程の定めるところによる。

（履修コース）

第２条　本学科にシステムコースとメディアコースを設ける。

２　コースは２年次進級時に選択する。

３　コースの選択は、教授会が認めた場合に限り、各学期末に変更することができる。

（卒業資格）

第３条　本学科を卒業するためには、４年以上在学し、この規程に定めるところに従い、124単位以上を修得しなければならない。

（授業科目の区分）

第４条　授業科目は、これを共通教育科目と専門教育科目とに分ける。

２　履修区分として、共通教育科目を導入基礎科目、外国語科目、キャリア形成科目、スポーツ関連科目、教養教育科目に、専門教育科目を学部共通専門科目、システムコース科目、メディアコース科目、実験科目、ゼミ科目、プロジェクト演習に分ける。

３　システムコース科目、メディアコース科目は、選択したコースに関わらずどちらも履修することができる。

（授業科目の履修）

第５条　本学科授業科目表の各授業科目のうち、次の各号の要件を満たさなければならない。

（１）　必修科目として、共通教育科目の外国語科目から計４単位以上を修得しなければならない。ただし母国語および母語の科目の履修は認めない。

（２）　必修科目として、専門教育科目の情報学ゼミⅢと情報学ゼミⅣの計８単位を修得しなければならない。

（３）　システムコースを選択した学生は専門教育科目のシステムコース科目のうち32単位以上、メディアコースを選択した学生は専門教育科目のメディアコース科目のうち32単位以上を修得しなければならない。

（４）　上記の各号の科目を含んで、共通教育科目は44単位以上、専門教育科目は80単位以上を修得しなければならない。

２　前項の規程にかかわらず、以下の各号に定める単位は、合計30単位を上限として卒業要件単位として認める。

（１）　本学科以外において開講されている授業科目のうち、本学科が指定した科目については、16単位を上限として卒業要件単位として認める。この本学科以外における授業科目の履修区分、単位数等については別に定

める。

（２）　本学科が指定した資格を取得した場合、24単位を上限として卒業要件単位として認める。対象となる資格、認定方法、履修区分、単位数等については別に定める。

（情報学ゼミ）

第６条　情報学ゼミＩＡ、情報学ゼミＩＢ、情報学ゼミⅡＡ、情報学ゼミⅡＢ、情報学ゼミⅢ、情報学ゼミⅣの履修については、別に定める「情報学ゼミ実施要領」によるものとする。

（プロジェクト演習）

第７条　プロジェクト演習の履修については、別に定める「プロジェクト演習実施要領」によるものとする。

（演習科目）

第８条　プロジェクト演習を除く演習科目の履修については、別に定める「演習科目実施要領」によるものとする。

（教育職員免許取得）

第９条　教育職員免許状の授与を得るために必要な授業科目の履修については、別に定める「教育職員免許取得細則」によるものとする。

（単　　位）

第10条　各授業科目の単位数は、標準として45時間の学修を必要とする授業内容をもって１単位とし、次の各号の基準によって計算するものとする。

（１）　通年４単位の講義、半期２単位の講義並びに半期４単位の講義については、15時間の授業をもって１単位とする。

（２）　プロジェクト演習を除く演習科目、並びに実験科目については、30時間の授業をもって１単位とする。

（３）　半期１単位の導入基礎科目、外国語科目については、30時間の授業をもって１単位とする。

（４）　他学部開放科目、他大学開放科目、資格取得認定科目の単位については別に定める。

（配当年次）

第11条　授業科目は、それぞれに配当年次が指定されており、その指定された年次以降において履修できる。

（授業科目の履修制限）

第12条　各学期において、原則として22単位を超えて履修することはできない。ただし、３年次以上は、最高26単位まで履修することができる。

２　短期プロジェクト演習、資格取得認定科目、並びに教職課程における教職に関する科目については、前項の履修制限の単位数に含めない。

（履修登録）

第13条　履修登録は、各学期初めの指定期間内に行わなければならない。

２　情報学ゼミⅡＡ、情報学ゼミⅡＢ、情報学ゼミⅢ、情報学ゼミⅣについては、別途登録の期間を指定する。

３　履修登録していない授業科目は、これを履修することができない。

（履修登録の制限）

第14条　授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。

２　同時に開講される授業科目は、１科目しか履修登録することができない。

（再登録）

第15条　単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。

２　単位を修得することのできなかった授業科目は、第12条に定める履修制限内において再登録することができる。ただし、科目によっては再登録を認めない場合がある。

（履修登録の変更）

第16条　履修登録は正当な理由がなければ、変更、追加又は取り消しをすることができない。

２　ただし、学期初めの所定の期間内に所定の手続きをした場合、および、教授会が特に認める場合は、前項の規程を適用しない。

（授業科目の開講）

第17条　授業科目は、教員、履修者数等の都合により、毎年開講されない場合がある。

（授業の組分け）

第18条　授業科目によっては、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。

（単位の認定）

第19条　担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下試験等）、平素の履修状況等により学修の成果を評価して単位を与える。

２　原則として、その授業科目の授業回数の３分の２以上出席していることを要件とする。

（受験資格）

第20条　次の各号のいずれかに該当する場合は、試験等による単位の認定を受けることができない。

（１）　授業料その他諸納付金が未納であるとき

（２）　履修登録をしていないとき

（３）　出席不良等により受験停止となったとき

（成績評価）

第21条　成績評価は、次の基準によって評語で示される。

（１）	100点から90点まで	秀
（２）	89点から80点まで	優
（３）	79点から70点まで	良
（４）	69点から60点まで	可
（５）	59点以下	不可（不合格）

（受験上の注意）

第22条　学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を遵守しなければならない。

（再試験）

第23条　試験等で科目が不合格となった者は、１回に限り、教授会の議を経て再試験を受けることができる。再試験の実施については、別に定める「再試験等の実施要領」によるものとする。

２　再試験で合格した者の成績評価は、60点（可）とする。

（追試験）

第24条　病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験を受けることができる。

２　追試験を受けようとする者は、病気の場合は医師の診断書を提出し、やむを得ない理由のある場合はその理由書を提出して、教授会の承認を得なければならない。

（再試験・追試験の受験手続）

第25条　再試験または追試験を受けようとする者は、指定の期日までに教務課に願い出なければならない。

附　則

この規程は、平成23年４月１日より施行する。

附　則

この規程は、平成24年４月１日より施行する。

情報学部　情報学科　履修規程

－平成19～22年度以降入学生対象－

（総　　則）

第１条　本学学則第20条第３項の規程に基づき、情報学部情報学科（以下「本学科」）の教育課程及び授業科目の履修については、この規程の定めるところによる。

（卒業資格）

第２条　本学科を卒業するためには、４年以上在学し、この規程に定めるところに従い、124単位以上を修得しなければならない。

（授業科目の区分）

第３条　授業科目は、これを共通教育科目と専門教育科目とに分ける。

２　履修区分として、共通教育科目を必修科目と選択科目とに、専門教育科目を必修科目と選択科目とに分ける。

（授業科目の履修）

第４条　本学科授業科目表の各授業科目のうち、次の各号の要件を満たさなければならない。

（１）　必修科目として、共通教育科目の英語（講読）と英語（会話）の計４単位を修得しなければならない。ただし、留学生は英語に替えて、共通教育科目の日本語（語彙・読解）と日本語（作文）の計４単位を修得しなければならない。

（２）　必修科目として、専門教育科目の情報学演習Ⅱと情報学演習Ⅲの計８単位を修得しなければならない。

（３）　前各号の科目を含んで、共通教育科目は44単位以上、専門教育科目は80単位以上を修得しなければならない。

２　第１項の規程にかかわらず、次に定める単位は専門教育科目の卒業単位として認めることができる。

（１）　本学科以外において開講されている授業科目（他大学の科目を含む）のうち、本学科が指定した科目については、上限を定めて卒業単位として認める。この本学科以外における授業科目の履修等については別に定める。

（２）　本学科が指定した資格を取得した場合、上限を定めて卒業単位として認める。上限単位数、対象となる資格、認定方法については別に定める。

（情報学演習）

第５条　導入演習、情報学演習ＩＡ、情報学演習ＩＢ、情報学演習Ⅱ、および、情報学演習Ⅲの履修については、別に定める「情報学演習実施要領」によるものとする。

（プロジェクト演習）

第６条　プロジェクト演習の履修については、別に定める「プロジェクト演習実施要領」によるものとする。

（教育職員免許取得）
第７条　教育職員免許状の授与を得るために必要な授業科目の履修については、別に定める「教育職員免許取得細則」によるものとする。
（単　　位）
第８条　各授業科目の単位数は、標準として45時間の学修を必要とする授業内容をもって１単位とし、次の各号の基準によって計算するものとする。
（１）　通年４単位の講義及び演習、半期２単位の講義及び演習並びに半期４単位の講義及び演習については、15時間の授業をもって１単位とする。
（２）　半期１単位の外国語科目については、30時間の授業をもって１単位とする。
（３）　資格科目の単位については別に定める。
（配当年次）
第９条　授業科目は、それぞれに配当年次が指定されており、その指定された年次以降において履修できる。
（授業科目の履修制限）
第10条　各セメスターにおいて、原則として22単位を超えて履修することはできない。ただし、３年次以上は、最高26単位まで履修することができる。
（履修登録）
第11条　履修登録は、指定期間内（セメスター始め）に行わなければならない。ただし、情報学演習Ⅱ、Ⅲおよびプロジェクト演習については、別途登録の期間を指定する。
２　履修登録していない授業科目は、これを履修することができない。
３　履修登録は、履修登録システムにより届け出るものとする。
（履修登録の制限）
第12条　授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。
２　同時に開講される授業科目は、１科目しか登録することができない。
（再登録）
第13条　単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。
２　単位を修得することのできなかった授業科目は、第10条に定める履修制限内において再登録することができる。ただし、科目によっては再登録を認めない場合がある。
（履修登録の変更）
第14条　履修登録は正当な理由がなければ、変更、追加又は取り消しをすることができない。ただし、大学の都合による場合はこの限りではない。
（授業科目の開講）
第15条　授業科目は、教員、履修者数等の都合により、毎年開講されない場合がある。
（授業の組分け）
第16条　授業科目によっては、適宜に組分けを行い、時限を定めることがある。
（単位の認定）

第17条　担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下試験等）、平素の履修状況等により学修の成果を評価して単位を与える。

２　原則として、その授業科目の授業回数の３分の２以上出席していることを要件とする。

（受験資格）

第18条　次の各号のいずれかに該当する場合は、試験等による単位の認定を受けることができない。

（１）　授業料その他諸納付金が未納であるとき

（２）　履修登録をしていないとき

（３）　出席不良等により受験停止となったとき

（成績評価）

第19条　成績評価は、次の基準によって評語で示される。

（１）	100点から90点まで	秀
（２）	89点から80点まで	優
（３）	79点から70点まで	良
（４）	69点から60点まで	可
（５）	59点以下	不可（不合格）

（受験上の注意）

第20条　学生は、試験を受けるに際しては、次の注意事項を遵守しなければならない。

（１）　指定された席に着き、学生証を机上に置き、公正な態度で受験しなければならない。学生証を忘れた場合は、仮学生証（当日限り有効）の交付を受けなければならない。

（２）　受験に際しては、筆記用具及び指示されたもの以外は持ち込んではならない。なお、携帯電話等は、着信音が鳴らないようにし、机上に出すことや、時計としての使用は認めない。

（３）　試験開始時刻に20分以上遅刻したときは、受験を許可しない。

（４）　試験開始後30分以内の退場は、許可しない。

（５）　受験中に不正行為をした者については、当該学期の履修登録した全授業科目の単位を無効とする。ただし、演習科目・実技科目についてはこの限りではない。

（６）　受験者が試験監督者の指示又は警告に従わなかった場合は、退場を命じ、答案を無効とする。

（再試験）

第21条　試験等で科目が不合格となった者は、１回に限り、教授会の議を経て再試験を受けることができる。

２　再試験で合格した者の成績評価は、60点（可）とする。

（追試験）

第22条　病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験を受けることができる。

２　追試験を受けようとする者は、病気の場合は医師の診断書を提出し、やむを得ない理由のある場合はその理由書を提出して、教授会の承認を得なければならない。

（再試験・追試験の受験手続）

第23条　再試験または追試験を受けようとする者は、指定の期日までに教務課に願い出なければならない。

附　則

この規程は、平成19年４月１日より施行する。

附　則

この規程は、平成22年４月１日より施行する。

平成22年４月１日以降の第19条に定める成績評価の評語については、次の基準を適用する。

（１）	100点から90点まで	秀
（２）	89点から80点まで	優
（３）	79点から70点まで	良
（４）	69点から60点まで	可
（５）	59点以下	不可（不合格）

附　則

この規程は、平成24年４月１日より施行する。

情報学部編入学生用履修規程（内規）

【平成24年度以降３年次編入学生対象】

編入学生の履修については、編入学した年次の学生と同じ学則及び履修規程によるものとする。

編入学生用履修規程を以下のように定める。

Ⅰ.

編入学前の大学又はこれと同等の学校で修得した単位のうち、本学科における授業科目と同等内容とみなされる科目の単位については、本学科における授業科目の履修により修得した単位として認定する。単位の認定は、教授会の議を経て行う。

２　第１項の単位認定を受けようとする者は、在籍していた大学またはこれと同等の学校を卒業または中途退学後、本学に入学するまでに、すみやかに成績証明書及び講義内容を明示できるもの（講義要項等）を学部長に提出しなければならない。

３　第１項の単位の成績評価は「認定」とする。

Ⅱ.

情報学部情報学科履修規程を基に以下の項目を変更する。

（卒業資格）

第２条　本学科を卒業するためには、２年以上在学し、この規定の定めるところに従い、編入学時に認定された単位と編入学後に本学科で修得した単位を合わせて124単位以上を修得しなければならない。

情報学ゼミ実施要領

－平成23～25年度以降入学生対象－

「情報学ゼミＩＡ」「情報学ゼミＩＢ」

（１）　１年次前期には「情報学ゼミＩＡ」、１年次後期には「情報学ゼミＩＢ」を履修登録しなければならない。

（２）「情報学ゼミＩＡ」「情報学ゼミＩＢ」の履修においては、適宜、組分けを行う。

（３）「情報学ゼミＩＡ」「情報学ゼミＩＢ」の再履修は、原則として認められない。

「情報学ゼミⅡＡ」「情報学ゼミⅡＢ」

（１）　２年次前期には「情報学ゼミⅡＡ」、２年次後期には「情報学ゼミⅡＢ」を履修登録しなければならない。

（２）「情報学ゼミⅡＡ」「情報学ゼミⅡＢ」の履修においては、適宜、組分けを行う。

（３）「情報学ゼミⅡＡ」「情報学ゼミⅡＢ」は、異なる教員のゼミを履修しなければならない。

（４）「情報学ゼミⅡＡ」「情報学ゼミⅡＢ」は、３年次以降に再履修することができる。ただし、どちらか一方の単位を修得済みである場合、単位を修得したゼミと同じ教員の「情報学ゼミⅡＡ」または「情報学ゼミⅡＢ」を履修することは出来ない。

「情報学ゼミⅢ」

（１）　３年次には「情報学ゼミⅢ」を履修登録しなければならない。

（２）「情報学ゼミⅢ」は必修科目である。

（３）「情報学ゼミⅢ」は、４年次以降に再履修することができる。

（４）「情報学ゼミⅢ」の仮登録手続きは、前年度に発表する「情報学ゼミⅢ登録資料」に基づいて行う。

（５）「情報学ゼミⅢ」の正式登録は、４月の履修登録時に行う。

「情報学ゼミⅣ」

（１）　４年次には「情報学ゼミⅣ」を履修登録しなければならない。

（２）「情報学ゼミⅣ」は必修科目である。

（３）「情報学ゼミⅣ」は、「情報学ゼミⅢ」と同一の教員、もしくは教員グループの演習を履修することを原則とする。

（４）「情報学ゼミⅣ」は、卒業論文または卒業制作の発表会（中間発表を含む）と教員の試問により、単位を認定する。卒業論文や卒業制作は、共著または合作でもよいものとする。

（５）「情報学ゼミⅣ」の正式登録は、４月の履修登録時に行う。

情報学演習実施要領

－平成19～22年度以降入学生対象－

「導入演習」

（１）　１年次には「導入演習」を履修登録しなければならない。

（２）「導入演習」の履修においては、適宜、組分けを行う。

（３）「導入演習」の再履修は、原則として認められない。

「情報学演習ＩＡ」

（１）　１年次には「情報学演習ＩＡ」（以下「演習ＩＡ」）を履修登録しなければならない。

（２）「演習ＩＡ」の履修においては、適宜、組分けを行う。

（３）「演習ＩＡ」の再履修は、原則として認められない。

「情報学演習ＩＢ」

（１）　２年次には「情報学演習ＩＢ」（以下「演習ＩＢ」）を履修登録しなければならない。

（２）「演習ＩＢ」の履修においては、適宜、組分けを行う。

（３）「演習ＩＢ」は、３年次以降に再履修することができる。

「情報学演習Ⅱ」

（１）　３年次には「情報学演習Ⅱ」（以下「演習Ⅱ」）を履修登録しなければならない。

（２）「演習Ⅱ」は必修科目である。

（３）「演習Ⅱ」は、４年次以降に再履修することができる。

（４）「演習Ⅱ」の仮登録手続きは、前年度に発表する「情報学演習Ⅱ登録資料」に基づいて行う。

（５）「演習Ⅱ」の正式登録は、４月の履修登録時に行う。

「情報学演習Ⅲ」

（１）　４年次には「情報学演習Ⅲ」（以下「演習Ⅲ」）を履修登録しなければならない。

（２）「演習Ⅲ」は必修科目である。

（３）「演習Ⅲ」は「演習Ⅱ」と同一の教員、もしくは教員グループの演習を履修することを原則とする。

（４）「演習Ⅲ」の正式登録は、４月の履修登録時に行う。

プロジェクト演習実施要領

１．プロジェクト演習の目的

各授業で得た知識や技術を、プロジェクト演習の学習を通して、体系化・総合化させるとともに、主体的に学ぶ態度の育成を目指す。また、共同作業を通して、コラボレーションの重要性、働くことの尊さや意義などを考えさせるとともに、職業観の基礎を養う。

２．プロジェクト演習の履修

プロジェクト演習は､年度初めに､テーマ別に募集される｢確定プロジェクト演習｣と､年度途中で必要に応じて募集される「短期プロジェクト演習」の２種類がある。

①　確定プロジェクト演習

■平成19～22年度入学生対象

確定プロジェクト演習は、１年次生のみ「後期２単位」の「選択必修科目」、２年次生以上は「通期４単位」の「選択科目」とする。

科目名としては、１年次生は「プロジェクト演習Ⅰ」、２年次生以降は「プロジェクト演習Ⅱ」から始まり、順に「プロジェクト演習Ⅲ」､「プロジェクト演習Ⅳ」が認定される。

「プロジェクト演習Ⅱ」から「プロジェクト演習Ⅳ」を履修するためには、下表に定める条件を満たしていなければならない。

たとえば２年次に確定プロジェクト演習を履修せず、３年次に初めて確定プロジェクト演習を履修する場合は「プロジェクト演習Ⅱ」の履修からスタートすることになる。

なお、プロジェクト演習は、同じ演習テーマのクラスに異なる年次の学生が混在することもあり、学生によって認定される科目名は異なる。

各年次で履修できる確定プロジェクト演習は１科目のみとする。ただし後述する短期プロジェクト演習は、確定プロジェクト演習の履修に支障がない場合に限り、同時に履修することができる。

卒業までに履修できるプロジェクト演習の単位数は、後述する短期プロジェクト演習と合わせて「最大18単位」である。

科目名	配当年次	期	単位	履修区分	履修条件
プロジェクト演習Ⅰ	1	後期	２単位	選択必修	なし
プロジェクト演習Ⅱ	2	通期	４単位	選択	なし
プロジェクト演習Ⅲ	3	通期	４単位	選択	「プロジェクト演習Ⅱ」の単位を修得していること
プロジェクト演習Ⅳ	4	通期	４単位	選択	「プロジェクト演習Ⅲ」の単位を修得していること

■平成23～25年度入学生対象

確定プロジェクト演習は、２年次以上対象で「通期４単位」の「選択科目」とする。科目名としては、２年次は「プロジェクト演習Ⅰ」から始まり、順に「プロジェクト演習Ⅱ」、「プロジェクト演習Ⅲ」が認定される。

「プロジェクト演習Ⅰ」から「プロジェクト演習Ⅲ」を履修するためには、下表に定める条件を満たしていなければならない。たとえば２年次に確定プロジェクト演習を履修せず、３年次に初めて確定プロジェクト演習を履修する場合は「プロジェクト演習Ⅰ」の履修からスタートすることになる。

なお、プロジェクト演習は、同じ演習テーマのクラスに異なる年次の学生が混在することもあり、学生によって認定される科目名は異なる。

各年次で履修できる確定プロジェクト演習は１科目のみとする。ただし後述する短期プロジェクト演習は、確定プロジェクト演習の履修に支障がない場合に限り、同時に履修することができる。また卒業までに履修できるプロジェクト演習の単位数は、後述する短期プロジェクト演習と合わせて「最大16単位」である。

科目名	配当年次	期	単位	履修区分	履修条件
プロジェクト演習Ⅰ	２年次	通年	４単位	選択	なし
プロジェクト演習Ⅱ	３年次	通年	４単位	選択	「プロジェクト演習Ⅰ」の単位を修得していること
プロジェクト演習Ⅲ	４年次	通年	４単位	選択	「プロジェクト演習Ⅱ」の単位を修得していること

②　短期プロジェクト演習

年度の途中に突発的なテーマが発生した場合、その時点で短期プロジェクト演習を開講し、受講生を募集することがある。

短期プロジェクト演習は、１年次生以上が対象であり、「２単位」の「選択科目」である。

科目名としては、「短期プロジェクト演習Ⅰ」から始まり、順に「短期プロジェクト演習Ⅵ」までが認定される。

「短期プロジェクト演習Ⅱ」から「短期プロジェクト演習Ⅵ」を履修するためには、下表に定める条件を満たしていなければならない。

たとえば２年次に短期プロジェクト演習を履修せず、３年次に初めて短期プロジェクト演習を履修する場合は「短期プロジェクト演習Ⅰ」の履修からスタートすることになる。

なお、プロジェクト演習は、同じ演習テーマのクラスに異なる年次の学生が混在することもあり、学生によって認定される科目名は異なる。

各セメスターで履修できる短期プロジェクト演習は１科目のみとする。ただしすでに確定プロジェクト演習を履修しており、その履修に支障が生じる場合は履修することができない。

この科目は、履修制限枠を超えての追加登録を認める。また卒業までに履修でき

るプロジェクト演習の単位数は、前述の確定プロジェクト演習と合わせて、平成19～22年度入学生は「最大18単位」、平成23年度以降入学生は「最大16単位」である。

科目名	配当年次	期	単位	履修区分	履修条件
短期プロジェクト演習Ⅰ	1	半期	２単位	選択	なし
短期プロジェクト演習Ⅱ	1	半期	２単位	選択	「短期プロジェクト演習Ⅰ」の単位を修得していること
短期プロジェクト演習Ⅲ	2	半期	２単位	選択	「短期プロジェクト演習Ⅱ」の単位を修得していること
短期プロジェクト演習Ⅳ	2	半期	２単位	選択	「短期プロジェクト演習Ⅲ」の単位を修得していること
短期プロジェクト演習Ⅴ	3	半期	２単位	選択	「短期プロジェクト演習Ⅳ」の単位を修得していること
短期プロジェクト演習Ⅵ	3	半期	２単位	選択	「短期プロジェクト演習Ⅴ」の単位を修得していること

３．プロジェクト演習の実施形態

教員がすべて主導するのではなく、学生の自主性に基づく「サークル」的な運営とし、かつ「ゼミ」形式の学習形態をとる。

テーマ別に演習クラスが形成され、教員の管理のもとで、上級生が下級生を指導する体制をとる。

時間割上は、原則、週１回、５限に配置され、教員が指導するが、それ以外の曜日、時間帯においても、学生が任意の時間に自主的に集まり、活動できるよう専用の演習室を設置する。

通期の終了時には、情報学部として「プロジェクト演習成果発表会」を開催して各プロジェクトの成果を発表し、相互評価を行うと共に、その成果を学部全体で共有する。

４．単位の認定と評価方法

原則として出席時数が授業時間の２／３以上で単位を認定することとし、さらに下記の内容を加味して総合的に評価する。

■個人に対する評価

・１年次生：テーマに関心を持ち、意欲的にプロジェクトに参加しようとしているか
・２年次生：積極的にプロジェクトに参加し、役割分担を確実に果たそうとしているか
・３年次生：責任感を持ってプロジェクトを推進しようとしているか
・４年次生：後輩の指導に意欲的にあたっているか

■クラスに対する評価

「プロジェクト演習成果発表会」の評価（自己評価、相互評価、教員による評価など）

演習科目実施要領

■平成23年度以降入学生対象

以下の表に挙げる対応する科目を、ここではそれぞれ「講義科目」「演習科目」と呼ぶこととする。

配当年次	講義科目	演習科目
１年次	情報学基礎 プログラミング基礎	情報学基礎演習 プログラミング基礎演習
２年次	ネットワーク基礎 オペレーティングシステム基礎 コンピュータアーキテクチャ基礎 アルゴリズムとデータ構造 情報数学Ⅰ データベース基礎	ネットワーク基礎演習 オペレーティングシステム基礎演習 コンピュータアーキテクチャ基礎演習 アルゴリズムとデータ構造演習 情報数学演習Ⅰ データベース基礎演習
３年次	情報数学Ⅱ ネットワークプログラミング プログラミング応用	情報数学演習Ⅱ ネットワークプログラミング演習 プログラミング応用演習

（１）講義科目は半期２単位、演習科目は半期１単位である。
（２）講義科目と対応する演習科目は、下記の場合を除き、必ずセットで並行履修しなければならない。
・講義科目と対応する演習科目のどちらかの単位を修得している場合
・講義科目と対応する演習科目のどちらか一方のみしか開講されていない場合
（３）講義科目と対応する演習科目の成績は、それぞれ個別に評価される。

情報学関連科目についての取り扱い

■平成19～22年度以降入学生対象

１．情報学関連科目は以下の種別とする。
　（１）「学部間単位互換規程」に基づき、本学他学部開講科目のうち、本学部が適当と認めた科目
　（２）本学が参加している単位互換協定に基づく他大学開講科目のうち、本学部が適当と認めた科目
　（３）本学部が定めた単位化対象資格科目
２．情報学関連科目の履修に際しては､次の各号の要件を満たさなければならない。
　（１）本学他学部開講科目のうち、専門教育科目の関連科目に区分される授業科目の修得単位は、16単位を上限として卒業要件の単位数に算入できる。
　（２）単位化対象資格科目の修得単位は、24単位を上限として卒業要件の単位数に算入できる。
　（３）上記の各号の科目を含んで、情報学関連科目の修得単位は、30単位を上限として卒業要件の単位数に算入できる。

情報学部　情報学科　資格取得による単位認定規程

－平成23～25年度入学生対象－

（総　　則）

第１条　情報学部情報学科（以下「本学科」）は、学生の学習意欲・成果を評価するために資格取得による単位認定を実施する。単位の認定条件・認定方法・対象科目などについては、この規程の定めるところによる。

（単位認定の条件）

第２条　本学科では資格取得をもって単位認定を行い、その上限を24単位とする。

２　成績の評価は「認定」とし、認定主体は教授会とする。

３　資格取得による単位認定については、本学科履修規程第12条に規定する履修制限の対象外とする。

（申請方法）

第３条　単位認定を希望する学生は、次の書類を教務課へ提出しなければならない。

一　申請書

二　資格取得証明書、または、資格を取得したことを証明できる書類

（申請期限）

第４条　申請は在学期間中、卒業年度の２月末日までであれば常時受け付けるものとする。

（単位化対象資格・単位化の方法）

第５条　単位化対象資格および単位数、認定区分については、別表に定めるとおりとする。

２　認定区分が「外国語」となる対象資格の単位認定については、資格対象者の母国語または母語である場合を除き単位認定を行う。

（単位認定の基準時）

第６条　資格取得による単位認定は、在学期間中に取得した資格に対して行うものとする。

２　編入学生に対しては、編入学前の２年間に取得した資格についても単位認定を行う。

３　別表の対象資格（認定等級・認定単位数・認定区分を含む）を在学期間中に変更する場合があるが、単位の認定は、資格取得年度において該当する資格が別表に記載されていることを原則とし、認定内容も別表の記載内容に従うことを原則とする。

附　則

この規程は、平成23年４月１日より施行する。

情報学部では、平成16年度から学生の学習意欲・成果を評価するために、資格取得による単位認定を実施しています。認定条件･対象科目･方法等は下記の通りです。

（1）資格単位化の条件

①教授会を認定主体とする。関連資格の認定及び単位数の算定を含め、規定に定めのない事　項は教授会で審議・決定する。
②在学中の資格取得をもって単位認定とする。（但し、編入学生は編入学前の２年間も「在学」とみなす）
③認定単位の上限は24単位までとする。
④成績の評価は秀とする。

（2）申請方法と期限

単位認定を希望する学生は、所定の期日までに次の書類を教務課へ提出してください。

在学中（卒業判定のための教授会までの時期）であれば常時、申請を受け付けます。

①申請書
②資格取得証明書
③その他資格を取得したことを証明できる書類

（3）単位化対象資格及び単位化の方法

（表１）

<table>
<tr><th rowspan="2">対象資格</th><th rowspan="2">科目名</th><th rowspan="2">認定単位数</th><th colspan="2">認定区分</th></tr>
<tr><th>平成22年以前入学生</th><th>平成23年以降入学生</th></tr>
<tr><td>英検２級
TOEFL 450点以上
TOEFL-CBT 133点以上
TOEIC 470点以上</td><td>資格（英語検定初級）</td><td>2</td><td rowspan="13">専門教育科目（単位化対象資格科目）</td><td rowspan="6">共通教育科目（外国語科目）</td></tr>
<tr><td>英検準１級
TOEFL 520点以上
TOEFL-CBT 190点以上
TOEIC 645点以上</td><td>資格（英語検定上級）</td><td>2</td></tr>
<tr><td>中国語検定試験４級</td><td>資格（中国語検定初級）</td><td>2</td></tr>
<tr><td>中国語検定試験ベーシック以上</td><td>資格（中国語検定上級）</td><td>2</td></tr>
<tr><td>日本語能力試験１級</td><td>資格（日本語能力試験１級）</td><td>2</td></tr>
<tr><td>日商販売士２級以上</td><td>資格（ビジネス情報）</td><td>2</td><td>×</td></tr>
<tr><td>マイクロソフト オフィススペシャリスト（MOS）Word、
認定アプリケーションスペシャリスト（MCAS）Word</td><td>資格（オフィス文書作成）</td><td>2</td><td rowspan="3">共通教育科目（教養教育科目）</td></tr>
<tr><td>マイクロソフト オフィススペシャリスト（MOS）Excel、
認定アプリケーションスペシャリスト（MCAS）Excel</td><td>資格（オフィス表計算）</td><td>2</td></tr>
<tr><td>マイクロソフト オフィススペシャリスト（MOS）PowerPoint、
認定アプリケーションスペシャリスト（MCAS）PowerPoint</td><td>資格（プレゼンテーション）</td><td>2</td></tr>
<tr><td>ITパスポート</td><td>資格（ITパスポート）</td><td>2</td><td rowspan="4">専門教育科目（学部共通科目）</td></tr>
<tr><td>基本情報技術者</td><td>資格（基本情報技術者）</td><td>4</td></tr>
<tr><td>応用情報技術者</td><td>資格（応用情報技術者）</td><td>4</td></tr>
<tr><td>マイクロソフト オフィシャルトレーナー（MOT）
マイクロソフト 認定トレーナー（MCT）</td><td>資格（インストラクタ）</td><td>4</td></tr>
</table>

対象資格	科目名	認定単位数	認定区分	
			平成22年以前入学生	平成23年以降入学生
マイクロソフト オフィススペシャリスト（MOS）Access、 認定アプリケーションスペシャリスト（MCAS）Access	資格（オフィスデータベース）	2	専門教育科目（単位化対象資格科目）	専門教育科目（システムコース科目）
Oracle Master Silver データベーススペシャリスト試験	資格（データベース）	4		
Cisco ネットワークアソシエイト認定（CCNA） CompTIA Network+ ネットワークスペシャリスト試験	資格（ネットワーク技術）	4		
マイクロソフト認定プロフェッショナル（MCP） Linux技術者認定資格（LPIC） CompTIA Linux+	資格（ＯＳ）	4		
情報セキュリティスペシャリスト	資格（セキュリティ）	4		
準デジタル・アーキビスト	資格（準デジタル・アーキビスト）	2	専門教育科目（単位化対象資格科目）	専門教育科目（メディアコース科目）
ＣＧクリエイター検定　ベーシック	資格（ＣＧクリエイター初級）	2		
ＣＧクリエイター検定　エキスパート	資格（ＣＧクリエイター上級）	2		
Ｗｅｂデザイナー検定　ベーシック	資格（Ｗｅｂデザイナー初級）	2		
Ｗｅｂデザイナー検定　エキスパート	資格（Ｗｅｂデザイナー上級）	2		
ＣＧエンジニア検定　ベーシック	資格（ＣＧエンジニア初級）	2		
ＣＧエンジニア検定　エキスパート	資格（ＣＧエンジニア上級）	2		
画像処理エンジニア検定　ベーシック	資格（画像処理エンジニア初級）	2		
画像処理エンジニア検定　エキスパート	資格（画像処理エンジニア上級）	2		
マルチメディア検定ベーシック	資格（マルチメディア初級）	2		
マルチメディア検定エキスパート	資格（マルチメディア上級）	2		
アドビ認定エキスパート（ACE）単一製品認定	資格（ACE 単一製品）	2		
アドビ認定エキスパート（ACE）プリントスペシャリスト認定	資格（ACE プリントスペシャリスト）	2		
アドビ認定エキスパート（ACE）Webスペシャリスト認定	資格（ACE Webスペシャリスト）	2		
アドビ認定エキスパート（ACE）ビデオスペシャリスト認定	資格（ACE ビデオスペシャリスト）	2		
アドビ認定エキスパート（ACE）マスター認定	資格（ACE マスター）	2		
アドビ認定プロフェッショナル（ACP）	資格（ACP）	2		
アドビ認定インストラクター（ACI）	資格（ACI）	2		
カラーコーディネーター検定　ベーシック	資格（カラーコーディネーター初級）	2		
カラーコーディネーター検定　２級	資格（カラーコーディネーター中級）	2		
カラーコーディネーター検定　１級	資格（カラーコーディネーター上級）	2		
色彩検定　３級	資格（色彩検定初級）	2		
色彩検定　２級	資格（色彩検定中級）	2		
色彩検定　１級	資格（色彩検定上級）	2		

※「資格（英語検定上級）」を取得した者については、自動的に「資格（英語検定初級）」も認定する。

※「資格（中国語検定上級）」を取得した者については、自動的に「資格（中国語検定初級）」も認定する。

※対象資格に明記されていない資格でも、教授会が適当と認めた資格については単位化対象資格として認定される場合がある

※外国語科目の資格取得による単位認定については、資格取得者の母国語・母語である場合を除き単位認定をおこなう。ただし、中国語検定の準１級・１級についてはその限りではない。

他学部等における授業科目履修規程

（趣　　旨）

第１条　この規程は、奈良産業大学学則（以下、「学則」という。）第25条第２項の規定に基づき、他学部等で開講されている授業科目（以下、「他学部授業科目」という。）の履修に関する必要な事項を定めるものとする。

（履修登録可能科目）

第２条　他学部授業科目の中の履修登録可能な授業科目は、各学部等が指定する授業科目のうち学生が所属する学部が適当と認めたものとする。

２　他学部授業科目の中の履修登録可能な授業科目は、他学部授業科目の履修を希望する学生の年次以下に配当されている授業科目とする。

３　教職課程に関する授業科目の履修登録は出来ない。

（卒業要件として算入できる単位の制限）

第３条　他学部授業科目により取得した単位数について、卒業要件として算入できる上限単位数は、16単位までとする。

（履修制限）

第４条　他学部授業科目の履修単位数は、学生の所属する学部の各学期履修制限単位数に含むものとする。

（履修科目の成績評価）

第５条　他学部授業科目の中で履修登録した授業科目は、他学部等で認定された成績を学生の所属学部での成績評価とする。

（認定単位の履修区分）

第６条　他学部授業科目の中で履修登録した授業科目は、学生の所属する学部が指定する履修区分とする。

（改廃）

第７条　この規程の改廃は、大学評議会においてこれを行う。

附　則

この規程は、平成20年４月１日から施行する。

情報学部で履修登録が認められる他学部開講科目

【平成23～25年度（2011～2013）入学生対象】

No.	科目名	区分	単位	担当教員	開講時期
1	管理の仕組みとビジネス	教養教育	2	矢倉（非）	前期
2	簿記の仕組みとビジネス	教養教育	2	西口	前期
3	法の仕組みとビジネス	教養教育	2	金田	後期
4	政治の仕組みとビジネス	教養教育	2	平尾	前期
5	経済の仕組みとビジネス	教養教育	2	岩見	後期
6	マーケティングの仕組みとビジネス	教養教育	2	棚橋	後期

情報学部教育職員免許取得細則

（目　的）

第１条　この細則は、情報学部情報学科履修規程第３条第２項の規定に基づき、教育職員免許法及び同法施行規則に定めるもののほか、教育職員免許状の授与を得るための資格、履修等に関して、必要な事項を定めることを目的とする。（教育職員免許法第５条別表第１・同法施行規則第66条の６関係）

第２条　教育職員免許状を得ようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める表１の要件を満たさなければならない。

【表１】

所要資格／免許状の種類	基礎資格	大学において取得することを必要とする専門教育科目の最低単位数			
		教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	規則 66 条の６に定める科目
高等学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	20	23	16	8

（教科に関する科目）

第３条　高等学校教諭一種免許状（情報）の授与を得るための「教科に関する科目」は、表２－１から表２－２に定めるとおりとする。

２　表２－１備考、表２－２備考の選択必修は、高等学校教諭一種免許状（情報）を得るための必修科目とし、必ず履修し単位を修得しなければならない。

【表２－１】平成22年度（2010）入学生

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備　考
		必修	選択	
情報社会及び情報倫理	情報学概論		2	選択必修
	情報倫理		2	選択必修
	情報と法		2	選択必修
コンピュータ及び情報処理（実習を含む）	プログラミング基礎		2	選択必修
	ＧＵＩプログラミング		2	
	コンピュータアーキテクチャ		2	選択必修
	アルゴリズムとデータ構造		2	
	オペレーティングシステム		2	選択必修
情報システム（実習を含む）	データベース構築演習		4	選択必修
	経営工学		2	選択必修
情報通信ネットワーク（実習を含む）	情報ネットワーク概論		2	選択必修
	ネットワークプログラミング		2	選択必修
	システム管理演習		4	選択必修
	情報セキュリティ		2	

マルチメディア表現及び技術（実習を含む）	マルチメディア制作		4	
	映像制作演習		4	選択必修
	画像処理入門		2	選択必修
	イラスト入門		2	
情報と職業	ビジネス情報入門		2	
	ベンチャー企業論		2	選択必修

【表２－２】平成23～25年度（2011～2013）入学生

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数		備　考
		必修	選択	
情報社会及び情報倫理	情報学基礎		2	選択必修
	情報と倫理		2	選択必修
	情報と法		2	選択必修
コンピュータ及び情報処理（実習を含む）	プログラミング基礎		2	選択必修
	プログラミング入門		2	選択必修
	コンピュータアーキテクチャ基礎		2	選択必修
	アルゴリズムとデータ構造		2	
	オペレーティングシステム基礎		2	選択必修
情報システム（実習を含む）	ソフトウェア工学		2	選択必修
	データベース基礎		2	選択必修
	データベース応用		2	
情報通信ネットワーク（実習を含む）	ネットワーク基礎		2	選択必修
	ネットワークプログラミング		2	
	システム管理とメンテナンス		2	
	ネットワーク応用		2	選択必修
	情報セキュリティ		2	選択必修
マルチメディア表現及び技術（実習を含む）	映像制作Ⅰ		4	
	映像制作Ⅱ		4	
	デジタル表現入門		2	選択必修
	マルチメディア表現		2	選択必修
情報と職業	ベンチャー企業論		2	選択必修

（教職に関する科目）

第４条　高等学校教諭一種免許状（情報）の授与を得るための「教職に関する科目」は、表３に定めるとおりとし、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。

２　表３の備考の選択必修は、高等学校教諭一種免許状（情報）を得るための必修科目とし、必ず履修し単位を修得しなければならない。

【表３】平成22～25年度（2010～2013）入学生

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目	単位数		備　考
科目区分	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職概論		2	選択必修
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	教育原理		2	選択必修
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（傷害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む		教育心理学		2	選択必修
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育法概論		2	選択必修
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	6	教育課程論		2	選択必修
	・各教科の指導法		情報科教育法Ⅰ 情報科教育法Ⅱ		2 2	選択必修 選択必修
	・特別活動の指導法		特別活動の指導法		2	選択必修
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		教育の方法と技術		2	選択必修
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	生徒指導・進路指導		2	選択必修
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		教育相談の理論と方法		2	選択必修
教職実践演習		2	教職実践演習		2	選択必修
教育実習		3	教育実習		3	選択必修

（教科又は教職に関する科目）

第５条　高等学校教諭一種免許状（情報）の授与を得るための「教科又は教職に関する科目」は、表４に定めるとおりとする。

２　『「教科又は教職に関する科目」の選択科目』又は『最低の修得単位を超えて履修した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」』について併せて16単位以上を修得しなければならない。

【表４】平成21～25年度（2009～2013）入学生

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目	単位数	
		必修	選択
教科又は教職に関する科目	道徳教育論		2

（免許法施行規則第66条の６に定める科目）

第６条　高等学校教諭一種免許状（情報）の授与を得るための「教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目」は表５－１から表５－２に定めるとおりとし、教育職員免許法施行規則に定める科目区分に対応する単位数以上の単位を修得しなければならない。

２　表５－１備考、表５－２備考の選択必修は、高等学校教諭一種免許状（情報）を得るための必修科目とし、必ず履修し単位を修得しなければならない。

【表５－１】平成22年度（2010）入学生

免許法施行規則第 66 条の６に定める科目		左記に対応する本学の授業科目	単位数		備　考
科目区分	単位数		必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法		2	選択必修
体育	2	健康スポーツ演習		2	選択必修
		英語（会話）（前）	1		
外国語コミュニケーション	2	英語（会話）（後）	1		
		文書作成演習		2	選択必修
情報機器の操作	2	表計算演習		2	

【表５－２】平成23～25年度（2011～2013）入学生

免許法施行規則第 66 条の６に定める科目		左記に対応する本学の授業科目	単位数		備　考
科目区分	単位数		必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法		2	選択必修
体育	2	健康スポーツ演習		2	選択必修
		英語会話Ⅰ		1	選択必修
外国語コミュニケーション	2	英語会話Ⅱ		1	選択必修
		ＩＴリテラシーⅠ		1	選択必修
情報機器の操作	2	ＩＴリテラシーⅡ		1	選択必修

（教育実習受講資格）

第７条　本細則第４条表３に規定する教育実習の受講を希望する学生は、次の各号いずれにも該当しなければならない。

一　４年次以上で、卒業に必要な単位のうち、100単位以上を修得していること。

二　本細則第３条表２－１から表２－２に規定する教科に関する科目の必修及び選択必修科目のうち、10科目以上を履修し単位を修得していること。

三　本細則第４条表３に規定する教職に関する科目のうち、「教育原理」、「教育心理学」、「情報科教育法Ⅰ」及び「情報科教育法Ⅱ」を履修し単位を修得していること。

四　教育実習実施委員会が適当と認めた学生。

（教育実習費）

第８条　教育職員免許状の取得を希望する学生の教育実習費及び納入方法は次のとおりとし、定められた期日に納入しなければならない。

教育実習費	20,000円		
納入方法	３年次４月	教職課程登録時	10,000円
	４年次４月	教育実習登録時	10,000円

附　則

この細則は、平成15年４月１日から施行する。

この細則は、平成17年４月１日から施行する。

この細則は、平成19年４月１日から施行する。

この細則は、平成20年４月１日から施行する。

この細則は、平成22年４月１日から施行する。

この細則は、平成23年４月１日から施行する。

この細則は、平成24年４月１日から施行する。

２．情報学部　教職課程

（1）教職課程の概要

情報学部では、高等学校教諭を目指す者に対して、教職課程が設けられています。

教員には次の世代の人材を育成するという重要な使命があり、そのため、十分な専門知識を持つと同時に、優れた人格や指導力が求められます。このことを踏まえ、免許取得には多くの科目の履修が求めら、履修すべき科目は、いずれも、上記の目的のために必要な科目であるとの認識を十分に持って、相当な覚悟で科目の履修に取り組んでください。

教育実習は、教員になるにふさわしい専門の学力と勉学に対する態度を身につけて、はじめて受講できるものと考えてください。

（2）免許状の種類と免許教科

本学に在学している学生の取得できる免許状の種類と免許教科は次の通りです。

学　　科	免許状の種類	免許教科
情報学科	高等学校教諭一種免許状	情　報

（3）教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

『教育職員免許法』に定める最低修得単位数は下記の通りです。『教育職員免許法』第５条及び『教育職員免許法施行規則』第66条の６に定める「日本国憲法」（２単位）、「体育」（２単位）、「外国語コミュニケーション」（２単位）、「情報機器の操作」（２単位）が必要です。

所要資格／免許状の種類	基礎資格	大学において取得することを必要とする専門教育科目の最低単位数			
		教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	規則 66 条の６に定める科目
高等学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	20	23	16	8

（4）教職課程登録

①教職課程履修希望者は実習前年度までに「教職課程登録」の手続きをしなければなりません。

②教職課程を辞退する場合は、教職センターへ辞退の届出をしなければなりません。

（５）教職課程の科目

①教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

■情報学部　情報学科　平成23～25年度（2011～2013）入学生

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
別表第一備考四号確認欄	2	日本国憲法	2	○　日本国憲法	2		1	後期	小林
	2	体育	2	○　健康スポーツ演習	2		2	前期	西田
	2	外国語コミュニケーション	2	○　英語会話　Ⅰ	1		1	前期	Dale Watkins
				○　英語会話　Ⅱ	1		1	後期	Dale Watkins
	2	情報機器の操作	2	○　ITリテラシー　Ⅰ	1		1	不開講	
				○　ITリテラシー　Ⅱ	1		1	不開講	

※　授業科目の○印は必修科目

②教科又は教職に関する科目

■情報学部　平成23～25年度（2011～2013）入学生

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科又は教職に関する科目	16	教科又は教職に関する科目	16	道徳教育論		2	3	不開講	

※　「教科又は教職に関する科目」の単位修得について、「教科に関する科目」もしくは「教職に関する科目」において最低修得単位を超えて修得した単位をこれに含めることができる

③教科に関する科目

■情報学部　情報学科　平成23～25年度（2011～2013）入学生

■　情報学部　情報学科　平成25年度（2013）入学生

高等学校教諭一種（情報）

学部・学科等の教育課程（教科又は教職に関する科目）									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等		左記に対応する開設授業科目			配当	開講時期	平成28年度担当者
				授業科目	単位数				
	単位数		単位数		必修	選択			
教科に関する科目	34	情報社会及び情報倫理	20	○　情報学基礎	2		1	不開講	
				○　情報と倫理	2		2	後期	濱崎
				○　情報と法	2		2	後期	土井
		コンピュータ及び情報処理（実習を含む）		○　プログラミング基礎	2		1	不開講	
				○　プログラミング入門	2		1	不開講	
				○　コンピュータアーキテクチャ基礎	2		3	前期	内田
				アルゴリズムとデータ構造		2	2	後期	米川
				○　オペレーティングシステム基礎	2		2	前期	米川
		情報システム（実習を含む）		○　データベース基礎	2		2	不開講	
				○　ソフトウェア工学	2		3	後期	杵崎
				データベース応用		2	3	前期	植村
		情報通信ネットワーク（実習を含む）		○　ネットワーク基礎	2		2	前期	西岡
				ネットワークプログラミング		2	3	前期	米川
				システム管理とメンテナンス		2	3	前期	内田
				○　ネットワーク応用	2		3	後期	内田
				○　情報セキュリティ	2		3	前期	西岡
		マルチメディア表現及び技術（実習を含む）		映像制作　Ⅰ		4	3	前期	門垣
				映像制作　Ⅱ		4	3	後期	羽太
				○　デジタル表現入門	2		1	不開講	
				○　マルチメディア表現	2		2	前期	羽太
		情報と職業		○　ベンチャー企業論	2		3	後期	矢倉
	34		20		30	16			

※　授業科目の○印は必修科目

※　「教科に関する科目」の単位修得において、20単位を超えた単位数は「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

④教職に関する科目

■情報学部　情報学科　平成23～25年度（2011～2013）入学生

高等学校教諭一種(情報)

学部・学科等の教育課程(教科又は教職に関する科目)									
本学における免許状取得に必要な必要最低単位数		免許法施行規則に定める科目及び区分等			左記に対応する開設授業科目		配当	開講時期	平成28年度担当者
	単位数	科　目	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数 必修			
教職に関する科目	2	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む) ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○ 教職概論	2	1	前期	瀧明
	6	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び理想	6	○ 教育原理	2	2	後期	松田
			・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む)		○ 教育心理学	2	2	前期	岡村
			・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		○ 教育法概論	2	2	後期	西辻
	10	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	6	○ 教育課程論	2	2	不開講	
			・各教科の指導法		○ 情報科教育法　Ⅰ	2	2	不開講	
					○ 情報科教育法　Ⅱ	2	3	不開講	
			・特別活動の指導法		○ 特別活動の指導法	2	3	後期	松田
			・教育の方法と技術(情報機器及び教材の活用を含む)		○ 教育の方法と技術	2	3	後期	西辻
	4	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	4	○ 生徒指導・進路指導	2	3	不開講	
			・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法		○ 教育相談の理論と方法	2	3	後期	岡村
	2	教職実践演習		2	○ 教職実践演習	2	4	後期	菅、廣田
	3	教育実習		3	○ 教育実習(含　事前事後指導)	3	4	集中	菅、廣田
	27			23		27			

※ 授業科目の○印は必修科目

※「教科に関する科目」の単位修得において、20単位を超えた単位数は「教科又は教職に関する科目」に含めることができる

（6） 教職課程科目の履修について

教職課程関連科目の登録は、原則として教育実習に参加し、所定の教育職員免許状を取得することを前提とする。

（7）教育実習

①「教育実習」の評価について

『教育職員免許法』に基づき、免許状取得条件科目に「教育実習」があります。

高等学校教諭の免許状を取得するには「教育実習」３単位の修得が必要です。すなわち、「教育実習Ⅰ」（２単位）と「教育実習事前事後指導」（１単位）を履修し、それらすべてを修得することが必要です。

②「教育実習」の履修登録

教育実習受講有資格者は、４年次の履修登録期間中に「教育実習登録」の手続きをしなければなりません。

③「教育実習」の履修資格

ａ．当該年度（「教育実習」実施年度４年次）において卒業見込みの者

ｂ．前年度に教職課程登録等の所定の手続きを行っている者

ｃ．前年度までに以下の科目の単位を修得している者

◆卒業に必要な124単位のうち、100単位以上の単位を修得していること

◆教科に関する科目の必修及び選択必修科目のうち、原則として10科目以上の単位を修得していること

◆教職に関する科目のうち、「教育原理」、「教育心理学」、「情報科教育法Ⅰ」、「情報科教育法Ⅱ」の単位を修得していること

ｄ．教職センター運営委員会が学力・学習態度等を含めて適当と認めた者

④教育実習校の選定

「教育実習」は４年次に実施しますが、３年次から準備が必要です。３年次の５月頃に、「実習校選定のための説明会」を実施します。ここでの手続きを怠ると４年次で「教育実習」の履修登録ができませんので、説明会実施についての掲示に注意してください。

⑤教育実習費の納入

教育職員免許状の取得を希望する学生は教育実習費を定められた期日に納入してください。

教育実習費　２０，０００円

納入方法　　３年次４月　教職課程登録時　１０，０００円

　　４年次４月　教育実習登録時　１０，０００円

納入場所　　事務局経理課（１号館１階）

３．情報学部
授業科目表及び履修モデル

平成23～25年度（2011～2013）入学生　情報学部情報学科　授業科目表

Ⅰ．共通教育科目

部門	分野	科目名	単位	履修条件	選択	配当年次	開講時期	平成28年度担当者
導入基礎科目		日本語コミュニケーションⅠ【留学生を除く】	1	△		1	閉講	
		日本語コミュニケーションⅡ【留学生を除く】	1	△		1	閉講	
		ITリテラシーⅠ	1	▲		1	閉講	
		ITリテラシーⅡ	1	▲		1	閉講	
		基礎数学Ⅰ	1	▲		1	閉講	
		基礎数学Ⅱ	1	▲☆		1	不開講	
外国語科目		基礎英語Ⅰ	1	▲	4単位以上	1	前期	伊達
		基礎英語Ⅱ	1	▲☆		1	前・後期	伊達
		英語読解Ⅰ	1	★		1	前・後期	前期：伊達、後期：森
		英語読解Ⅱ	1	◇		1	前・後期	伊達
		英語会話Ⅰ	1	★		1	前期	ワトキンス
		英語会話Ⅱ	1	◇		1	後期	ワトキンス
		資格試験対策英語Ⅰ	1	★		2	前期	伊達
		資格試験対策英語Ⅱ	1	◇		2	後期	伊達
		中国語入門Ⅰ	2			1	閉講	
		中国語Ⅰ	1			1	前期	竹田
		中国語Ⅱ	1			1	後期	竹田
		中国語入門Ⅱ	2	◇		1	閉講	
		中国語Ⅲ	1			2	前期	竹田
		中国語Ⅳ	1			2	後期	竹田
		中国語会話Ⅰ	1			1	前期	劉
		中国語会話Ⅱ	1	◇		1	後期	劉
		日本語（語彙・読解）Ⅰ【留学生】	1	△		1	閉講	
		日本語（語彙・読解）Ⅱ【留学生】	1	△		1	閉講	
		日本語（作文）Ⅰ【留学生】	1	△		1	閉講	
		日本語（作文）Ⅱ【留学生】	1	△		1	閉講	
		日本語特講（語彙・読解）Ⅰ【留学生】	1			1	前期	桑原
		日本語特講（語彙・読解）Ⅱ【留学生】	1			1	後期	桑原
		日本語特講（文法・聴解）Ⅰ【留学生】	1			1	前期	竹田
		日本語特講（文法・聴解）Ⅱ【留学生】	1			1	後期	竹田
		日本語（上級作文）Ⅰ【留学生】	1	△		2	閉講	
		日本語（上級作文）Ⅱ【留学生】	1	△		2	閉講	
キャリア形成科目		キャリアデザインⅠ	2	△	44単位以上	1	閉講	
		キャリアデザインⅡ	2	△		1	閉講	
		キャリアディベロップメントⅠ	2	△		2	閉講	
		キャリアディベロップメントⅡ	2	△		2	閉講	
		キャリアスキルアップⅠ	2	△		3	閉講	
		キャリアスキルアップⅡ	2	△		3	閉講	
		キャリアビジネス実務Ⅰ	2	△		4	前期	小野
		キャリアビジネス実務Ⅱ	2	△		4	後期	小野
		インターンシップⅠ	2	※		2	閉講	
		インターンシップⅡ	2	※		3	閉講	
スポーツ関連科目	実技	サッカー	1			1	不開講	
		ソフトボール	1			1	不開講	
		卓球	1			1	不開講	
		テニス	1			1	不開講	
		バスケットボール	1			1	不開講	
		バドミントン	1			1	不開講	
	講義	コーチング論	2			1	後期	西田
		スポーツ心理学	2			1	後期	宇津木
		スポーツ科学論	2			1	不開講	
	演習	健康スポーツ演習	2			2	前期	西田
教養教育科目	人文科学系	現代社会と哲学	2			1	後期	表
		現代社会と倫理	2			1	後期	濱崎
		現代社会と宗教	2			1	不開講	
		日本の文学	2			1	前期	阿尾
		日本の歴史	2			1	不開講	
		外国の歴史	2			1	不開講	
		現代社会と地理	2			1	前期	日下

平成23～25年度（2011～2013）入学生　情報学部情報学科　授業科目表

教養教育科目	社会科学系	日本国憲法	2		44単位以上	1	後期	小林
		現代社会入門	2			1	不開講	
		社会科学の考え方	2			1	不開講	
		日本人の労働を考える	2			1	後期	武谷
		税制から見る日本経済	2			1	前期	三浦
		アジアから見る世界経済	2			1	前期	岩見
		日本とアジア諸国との関係を考える	2			1	不開講	
		人間関係の心理学	2			1	後期	野口
		認知行動の心理学	2			1	不開講	
	自然科学系	生活の中の数学	2			1	不開講	
		科学技術を考える	2			1	前期	大原
		生活の中の物理	2			1	後期	大原
		生活の中の化学	2			1	前期	阪元
		生命の科学	2			1	不開講	
		地球の科学	2			1	閉講	
		実験で学ぶ科学	2			1	後期	阪元
		科学の歴史	2			1	不開講	
	総合学際系	メディアを考える	2			1	不開講	
		奈良の文学と風土	2			1	後期	桑原
		奈良の歴史と伝統	2			1	前期	南城
		環境を考える	2			1	後期	阪元
		人権を考える	2			1	後期	小林
		地域社会を考える	2			1	不開講	
		特講（ボランティア論）	2			2	後期	谷口
		日本事情Ⅰ【留学生】	2			1	閉講	
		日本事情Ⅱ【留学生】	2			1	閉講	
【他学部開講科目】								
【他大学開講科目】								
【単位化対象資格科目】								

△　登録必修
▲　プレースメントテストの結果に応じて登録必修
☆　プレースメントテストに合格するか、同名の「Ⅰ」を修得しなければ履修できない
★　プレースメントテストに合格するか、「基礎英語Ⅰ」を修得しなければ履修できない
◇　同名の「Ⅰ」を修得しなければ履修できない
※　別に定める条件を満たさなければ履修できない
（注）外国語科目が母語である場合を除き、履修を認める

平成23～25年度（2011～2013）入学生　情報学部情報学科　授業科目表

Ⅱ．専門教育科目

区分	部門	授業科目	単位	履修条件	履修区分	卒業要件	配当年次	開講時期	平成28年度担当者
専門教育科目	学部共通専門科目	情報学基礎	2	セット履修		80単位以上	1	不開講	
		情報学基礎演習	1				1	不開講	
		ウェブデザイン基礎	2				1	不開講	
		プログラミング入門	2				1	不開講	
		デジタル表現入門	2				1	不開講	
		情報物理	2				1	不開講	
		プログラミング基礎	2	セット履修			1	不開講	
		プログラミング基礎演習	1				1	不開講	
		情報と倫理	2				2	後期	濱崎
		情報と法	2				2	後期	土井
		論文構成論	2				3	前期	阪元
		画像情報処理論	2				3	前期	吉村理
		音情報処理論	2				3	前期	嶋田
		ベンチャー企業論	2				3	後期	矢倉
	システムコース科目	ネットワーク基礎	2	セット履修	システムコース選択者は32単位以上		2	前期	西岡
		ネットワーク基礎演習	1				2	不開講	
		オペレーティングシステム基礎	2	セット履修			2	前期	米川
		オペレーティングシステム基礎演習	1				2	不開講	
		コンピュータアーキテクチャ基礎	2	セット履修			3	前期	内田
		コンピュータアーキテクチャ基礎演習	1				2	不開講	
		アルゴリズムとデータ構造	2	セット履修			2	後期	米川
		アルゴリズムとデータ構造演習	1				2	不開講	
		情報数学Ⅰ	2	セット履修			2	前期	小野
		情報数学演習Ⅰ	1				2	不開講	
		情報数学Ⅱ	2	セット履修			3	前期	根岸
		情報数学演習Ⅱ	1				3	不開講	
		コンピュータアーキテクチャ応用	2				3	後期	内田
		オペレーティングシステム応用	2				3	後期	大崎
		ネットワークプログラミング	2	セット履修			3	前期	米川
		ネットワークプログラミング演習	1				3	不開講	
		ヒューマンコンピュータインタラクション	2				3	後期	米川
		プログラミング応用	2	セット履修			3	前期	嶋田
		プログラミング応用演習	1				3	不開講	
		情報セキュリティ	2				3	前期	西岡
		ネットワーク応用	2				3	後期	内田
		システム管理とメンテナンス	2				3	前期	内田
		データベース基礎	2	セット履修			2	不開講	
		データベース基礎演習	1				2	不開講	
		データベース応用	2				3	前期	植村
		組込みシステム	2				3	後期	大原
		ゲーム数理	2				3	後期	根岸
		知能システム	2				3	前期	大原
		システムインテグレーション	2				3	後期	西岡
		ソフトウェア工学	2				3	後期	杵崎
		ウェブシステム	2				3	不開講	
	メディアコース科目	ウェブデザイン	2		メディアコース選択者は32単位以上		2	後期	鴨谷
		基礎デッサン	2				2	後期	福西
		デッサン	2				2	前期	福西
		デザイン基礎	2				2	前期	福西
		マルチメディア表現	2				2	前期	羽太
		コンピュータグラフィック基礎	2				2	不開講	
		コンピュータグラフィック応用	2				2	前期	吉村理
		DTP	2				2	後期	田部
		映像技術	2				2	後期	門垣
		映像作品概論	2				2	前期	山田
		コンテンツ構成論	2				2	後期	山田
		オーディオデザイン論	2				2	後期	上村

平成23～25年度（2011～2013）入学生　情報学部情報学科　授業科目表

専門教育科目	メディアコース科目	映像制作Ⅰ	4		メディアコース選択者は32単位以上	80単位以上	3	前期	門垣
		映像制作Ⅱ	4				3	後期	羽太
		映像制作Ⅲ	4				4	前期	羽太
		デジタルコンテンツ制作Ⅰ	4				3	不開講	
		デジタルコンテンツ制作Ⅱ	4				3	前期	大場
		デジタルコンテンツ制作Ⅲ	4				4	後期	大場
		デジタルアーキビスト概論	2				2	不開講	
		デジタルアーカイブ	2				2	不開講	
		文化情報システム	2				2	後期	植村
		文化情報の管理と流通	2				2	不開講	
		メタ情報資源	2				2	前期	植村
	実験科目	情報学実験基礎Ⅰ	1	○			1	不開講	
		情報学実験基礎Ⅱ	1	○			1	不開講	
		情報学実験応用Ⅰ	1	○			2	不開講	
		情報学実験応用Ⅱ	1	○			2	不開講	
	ゼミ科目	情報学ゼミⅠA	2	○			1	閉講	
		情報学ゼミⅠB	2	○			1	閉講	
		情報学ゼミⅡA	2	○			2	閉講	
		情報学ゼミⅡB	2	○			2	閉講	
		情報学ゼミⅢ	4	☆	8単位		3	通年	羽太
		情報学ゼミⅣ	4	☆			4	通年	西岡、根岸、米川、羽太、福西、門垣
	プロジェクト演習	プロジェクト演習Ⅰ	4				2	通年	杵崎、西岡、門垣
		プロジェクト演習Ⅱ	4	△			3	通年	杵崎、西岡、門垣
		プロジェクト演習Ⅲ	4	△			4	通年	杵崎、西岡、門垣
		短期プロジェクト演習Ⅰ	2				1		
		短期プロジェクト演習Ⅱ	2	△			1		
		短期プロジェクト演習Ⅲ	2	△			2		
		短期プロジェクト演習Ⅳ	2	△			2		
		短期プロジェクト演習Ⅴ	2	△			3		
		短期プロジェクト演習Ⅵ	2	△			3		
【他学部開講科目】									
【他大学開講科目】									
【単位化対象資格科目】									

☆　必修
○　登録必修
△　別に定める条件を満たさなければ履修できない

情　報　学　部

コース別履修モデル

平成23～25年度入学生 「システムコース(システム開発者向け)」 専門科目履修モデル

	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	
ゼミ科目	情報学ゼミⅠA	情報学ゼミⅠB	情報学ゼミⅡA	情報学ゼミⅡB	情報学ゼミⅢ		情報学ゼミⅣ		16単位
プロジェクト演習			プロジェクト演習Ⅰ		プロジェクト演習Ⅱ		プロジェクト演習Ⅲ		12単位
実験科目	情報学実験基礎Ⅰ	情報学実験基礎Ⅱ	情報学実験応用Ⅰ	情報学実験応用Ⅱ					4単位
学部共通専門科目	情報学基礎 情報学基礎演習 プログラミング入門 プログラミング基礎 プログラミング基礎演習 デジタル表現入門	情報物理 ウェブデザイン基礎		情報と法 情報と倫理	論文構成論 音情報処理論 画像情報処理論	ベンチャー企業論			26単位
システムコース科目			情報数学Ⅰ ネットワーク基礎 ネットワーク基礎演習 データベース基礎 データベース基礎演習 コンピュータアーキテクチャ基礎 オペレーティングシステム基礎 アルゴリズムとデータ構造演習	情報数学演習Ⅰ コンピュータアーキテクチャ基礎演習 オペレーティングシステム基礎演習 アルゴリズムとデータ構造	情報数学Ⅱ 情報数学演習Ⅱ 知能システム ヒューマンコンピュータインタラクション	ゲーム数理 コンピュータアーキテクチャ応用 プログラミング応用 プログラミング応用演習 ネットワークプログラミング ネットワークプログラミング演習 ソフトウェア工学 組み込みシステム	情報セキュリティ	オペレーティングシステム応用 システムインテグレーション	45単位

閉講、または、平成28年度不開講科目

必修または登録必修科目

平成23～25年度入学生 「システムコース(システム管理者向け)」 専門科目履修モデル

	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	
ゼミ科目	情報学ゼミⅠA	情報学ゼミⅠB	情報学ゼミⅡA	情報学ゼミⅡB	情報学ゼミⅢ		情報学ゼミⅣ		16単位
プロジェクト演習			プロジェクト演習Ⅰ		プロジェクト演習Ⅱ		プロジェクト演習Ⅲ		12単位
実験科目	情報学実験基礎Ⅰ	情報学実験基礎Ⅱ	情報学実験応用Ⅰ	情報学実験応用Ⅱ					4単位
学部共通専門科目	情報学基礎	情報物理		情報と法	論文構成論	ベンチャー企業論			26単位
	情報学基礎演習								
	プログラミング入門			情報と倫理					
	プログラミング基礎				音情報処理論				
	プログラミング基礎演習				画像情報処理論				
	デジタル表現入門	ウェブデザイン基礎							
システムコース科目			情報数学Ⅰ		情報数学Ⅱ				42単位
			コンピュータアーキテクチャ基礎	情報数学演習Ⅰ	情報数学演習Ⅱ				
			ネットワーク基礎						
			ネットワーク基礎演習	コンピュータアーキテクチャ基礎演習					
			データベース基礎	オペレーティングシステム基礎	データベース応用	オペレーティングシステム応用			
			データベース基礎演習	オペレーティングシステム基礎演習					
				アルゴリズムとデータ構造		ネットワークプログラミング			
			アルゴリズムとデータ構造演習		システムインテグレーション	ネットワークプログラミング演習			
					システム管理とメンテナンス	情報セキュリティ		ソフトウェア工学	
						ネットワーク応用	ヒューマンコンピュータインタラクション		
						ウェブシステム			

閉講、または、平成28年度不開講科目

必修または登録必修科目

平成23～25年度入学生 「メディアコース(映像クリエイター向け)」 専門科目履修モデル

	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	
ゼミ科目	情報学ゼミⅠA	情報学ゼミⅠB	情報学ゼミⅡA	情報学ゼミⅡB	情報学ゼミⅢ		情報学ゼミⅣ		16単位
プロジェクト演習			プロジェクト演習Ⅰ		プロジェクト演習Ⅱ		プロジェクト演習Ⅲ		12単位
実験科目	情報学実験基礎Ⅰ	情報学実験基礎Ⅱ	情報学実験応用Ⅰ	情報学実験応用Ⅱ					4単位
学部共通専門科目	情報学基礎 情報学基礎演習 プログラミング入門 プログラミング基礎 プログラミング基礎演習	情報物理			論文構成論	ベンチャー企業論 情報と法 情報と倫理			26単位
	デジタル表現入門	ウェブデザイン基礎			音情報処理論	画像情報処理論			
メディアコース科目			基礎デッサン デザイン基礎 コンピュータグラフィック応用 マルチメディア表現 コンピュータグラフィック基礎 映像作品概論	デッサン DTP ウェブデザイン コンテンツ構成論 オーディオデザイン論 映像技術	映像制作Ⅰ デジタルアーカイブ	映像制作Ⅱ メタ情報資源	映像制作Ⅲ		40単位

閉講、または、平成28年度不開講科目

必修または登録必修科目

平成23～25年度入学生 「メディアコース(デジタルコンテンツクリエイター向け)」 専門科目履修モデル

	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	
ゼミ科目	情報学ゼミⅠA	情報学ゼミⅠB	情報学ゼミⅡA	情報学ゼミⅡB	情報学ゼミⅢ		情報学ゼミⅣ		16単位
プロジェクト演習			プロジェクト演習Ⅰ		プロジェクト演習Ⅱ		プロジェクト演習Ⅲ		12単位
実験科目	情報学実験基礎Ⅰ	情報学実験基礎Ⅱ	情報学実験応用Ⅰ	情報学実験応用Ⅱ					4単位
学部共通専門科目	情報学基礎 情報学基礎演習 プログラミング入門 プログラミング基礎 プログラミング基礎演習	情報物理			ベンチャー企業論	論文構成論 情報と法 情報と倫理			26単位
メディアコース科目	デジタル表現入門	ウェブデザイン基礎	デッサン デザイン基礎 コンピュータグラフィック応用 マルチメディア表現 コンピュータグラフィック基礎 デジタルアーキビスト概論 デジタルアーカイブ メタ情報資源	基礎デッサン ウェブデザイン DTP 文化情報の管理と流通 文化情報システム	音情報処理論 画像情報処理論 デジタルコンテンツ制作Ⅰ	デジタルコンテンツ制作Ⅱ コンテンツ構成論	デジタルコンテンツ制作Ⅲ		43単位
システムコース科目					データベース基礎 データベース基礎演習				

閉講、または、平成28年度不開講科目

必修または登録必修科目

奈良学園大学
NARAGAKUEN UNIVERSITY